

左ニ掲クル所ニ依リ手数料ヲ納付スヘシ

- 一 登録出願 每一件金二圓
  - 二 再審査請求 每一件金三圓
  - 三 審判請求 每一件金十二圓
  - 四 費用額決定ノ請求 每一件金五十錢
  - 五 費用額決定ノ請求ノ執行アル正本ノ請求 每一件金五十錢
  - 六 書類謄本ノ請求
    - 謄本十三行二十五字詰一枚ニ付金十錢字數一枚ニ滿タサルモノハ一枚トス歐文書類ノ謄本ハ百語ニ付金十錢百語ニ滿タサルモノ亦同シ
  - 七 登録證複本ノ請求 每一件金一圓
  - 八 證明ノ請求 每一件金五十錢
  - 九 圖面ノ調製ノ請求
    - 圖面一枚ニ付金三十錢以上金三十圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル金額
  - 十 書類閱覽ノ請求 每一件金十錢
  - 十一 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル届出 每一件金一圓
- 第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
- 附 則
- 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●實用新案ニ關シ差出ス請求書ニ要スル手数料 (明治三十八年四月農商務省令第十五號)

- 第一條 實用新案ニ關シ左ノ請求ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納付スヘシ
- 一 登録願書ノ名義變更ノ請求 每一件金一圓
  - 二 出願變更ノ請求 每一件金二圓
  - 三 期日又ハ期間ノ變更ノ請求 每一件金二十錢
  - 四 參加ノ請求 每一件金三圓
  - 五 相續ニ因ル登録ノ名義變更請求每一件金一圓
  - 六 相續以外ノ原因ニ因ル登録證ノ名義變更ノ請求 每一件金五圓
  - 七 登録證再下付ノ請求 每一件金一圓
  - 八 存續期間滿了前一箇月以内ニ於ケル存續期間延長登録ノ請求 每一件金一圓
  - 九 差押、假差押假片 其ノ變更若ハ消滅ノ登録ノ請求 每一件金五十錢
  - 十 雛形又ハ見本ノ閱覽 每一件金十錢
- 第二條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ
- 附 則
- 第三條 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八類 財政

第一章 租稅

- 國稅徵收法 一
- 國稅徵收法施行規則 六
- 國稅徵收法施行細則 一〇
- 國稅地方稅ノ區別 一八
- 市町村ニ於テ徵收スル國稅ニ關スル件 一八
- 府縣稅徵收ニ關スル件 一九
- 地租條例 二一
- 特別年限地租增徴ニ關スル件 二四
- 地租條例施行規則 二四
- 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依ル公共團體及期間指定ノ件 二六
- 地租徵收期限 二七

- 地租徵收ニ關スル件 二七
- 水害地方田畑地租免納 二八
- 災害地租延納 二八
- 災害地租延納ニ關スル取扱方 二九
- 災害地租特別處分法 二九
- 電氣地租特別處分法 三〇
- 所得稅法 三〇
- 所得稅法施行規則 三六
- 營業稅法 四〇
- 營業稅法施行規則 四六
- 營業稅法ニ關スル業名課稅 四六
- 標準屆様式 四九
- 登録稅法 五〇
- 登録稅法施行規則 六〇
- 相續稅法 六一
- 相續稅法施行規則 六七
- 酒造稅法 七〇



●酒造稅法施行規則	七六
●酒造組合法	八一
●酒造組合法施行規則	八二
●酒精及酒精含有飲料稅法	八五
●酒精及酒精含有飲料稅法施行規則	八九
●麥酒稅法	九二
●麥酒稅法施行規則	九四
●酒母膠及麴取締法	九七
●酒母膠及麴取締法施行規則	九九
●醬油稅則	一〇一
●醬油稅則施行規則	一〇四
●家用醬油稅法	一〇六
●家用醬油稅法施行規則	一〇八
●鹽專賣法	一〇八
●鹽專賣法施行細則	一一三
●鹽賣捌規則	一一八
●砂糖消費稅法	一二三
●砂糖消費稅法施行規則	一二五

●煙草專賣法	一二九
●煙草專賣法施行細則	一四〇
●煙草賣捌規則	一四五
●煙草仲買人及葉煙草耕作者 葉煙草納付規程	一五〇
●石油消費稅	一五一
●石油消費稅法施行規則	一五三
●印紙稅法	一五五
●收入印紙ニ關スル件	一五八
●印紙類賣下賣捌規則	一五八
●印紙類賣下賣捌規則施行細則	一五九
●收入印紙賣下ニ關スル件	一六〇
●郵便局所收入印紙賣捌規則	一六〇
●郵便切手類賣捌規則	一六二
●賣藥稅法	一七〇
●賣藥稅法施行規則	一七一
●間接國稅犯則者處分法	一七三
●間接國稅犯則者處分法施行規則	一七六

●地方稅規則	一七七
●營業稅雜種稅ノ種類制限	一七九
●非常特別稅法	一八〇
●非常特別稅法施行規則	二〇〇

第二章 貨幣 紙幣

●貨幣法	二〇四
●假造金銀銅貨紙幣等取扱規則	二〇六
●變造紙幣取扱方	二〇七
●兌換銀行券條例	二〇八
●損傷紙幣交換規則	二〇九

第三章 國債 家祿 賞典祿  
處分 證券

●金祿公債證書發行條例	二一〇
●新舊公債證書發行條例	二一二
●整理公債條例	二二三
●國債規則	二二四

●事業公債條例	二二九
●家祿賞典祿處分方法	二三九
●家祿賞典祿處分方法施行法	二三〇
●國債證券買入銷却法	二三一
●國債ニ關スル件	二三二



第十八類 財政

第一章 租稅

●國稅徵收法

(明治三十年三月法律第二十一號)

第一章 總則

第一條 國稅 徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當セサルトキハ末々納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得(三十五年法律第三十六號ヲ以テ改正)

- 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
- 二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ

- 三 強制執行ヲ受クルトキ
- 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 五 競賣ノ開始アリタルトキ
- 六 法人カ解散爲シタルトキ
- 七 納稅人脱稅又ハ遺稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手数料及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス(同上ヲ以テ追加)

督促手数料及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手数料及滯納所分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス

第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手数料及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得(同上) 國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ國稅、督促手



敷料及滞納處分費ヲ納付スル義務ヲ有ス

第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國税、督促手數料及滞納處分費ハ納税者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(同上)

第四條ノ五 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得(同上)

第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル(同上)

第四條ノ七 納稅ノ告知 督促及滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス(同上)

納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受クルヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國內ニ住所

居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス(同上并ハ

年三月法律第四十六號ヲ以テ改正)

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲メ時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第三章 滞納處分

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス(三十五年法律第三十六號ヲ以テ全條改正)

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料ヲ徵收ス

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ(同上)

一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料及税金ヲ完納セサルトキ  
二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セサルトキ

第十一條 收稅官吏滞納處分ノ爲メ負擔ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證據ヲ示スヘシ  
第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手數料、滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム

(三十五年法律第三十六號ヲ以テ改正)

第十三條 收稅官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却決行ノ五日前マテニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滞納處分ヲ執行スルニ當リ滞納者財産ノ差押ヲ免ガルル爲メ故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス  
一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服寢具家具及廚具  
二 滞納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭

三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印  
四 祭祀禮拜ニ必要ナルト認ムル物又石碑墓地  
五 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書付類  
六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣  
七 勳章其ノ他名譽ノ章票



八 滯納者及其同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具  
九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ  
第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ督促手數料滯納處分費  
及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者  
ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス  
(三十五年法律第十六號ヲ以テ條中改正)

一 農業ニ必要ナル器具種子肥料及牛馬並其ノ飼料  
二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ  
果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ  
其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ  
(三十五年法律第三十六號ヲ以テ條中改正)

第二十條 收稅吏財產ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋  
倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カ  
シメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財產占有スル  
第三者其ノ財產ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財產ヲ藏匿スル  
ノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ  
得  
前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨ

リ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若  
ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人ヲシテ立會  
ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ  
應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員市制町  
村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員  
若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ  
之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市  
町村長滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコト  
ヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ  
明白ニスヘシ(三十五年法律第三十六號ヲ以テ改正)

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要  
セス(卅八年三月法律第四十六號ヲ以テ追加)

第二十三條ノ一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之  
ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、滯納  
處分費及税金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス  
(同上ヲ以テ本項追加)

第二十三條ノ二 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收  
稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹

消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ(同上ヲ以テ追加)

差押ノ爲不動産ヲ分割シタルトキハ收稅官吏ハ分割ノ  
登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登  
記ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ三 債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲  
ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ  
前項ノ財產權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要ス  
ルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳ニ囑  
託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ同シ

第二十三條ノ四 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收  
稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹  
消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏  
ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託シスヘシ其  
ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十三條ノ五 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコ  
トヲ要セス(卅八年三月法律第四十六號ヲ以テ追加)

第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第二  
十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務ヨリ給付ヲ受ケ  
タル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅  
令ヲ以テ定ム(同上ヲ以テ改正)

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ  
達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上クルコ  
トヲ得

第二十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

債權及所有權以外ノ財產權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準  
用ス (卅八年三月法律第四十六號ヲ以テ追加)

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ  
足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官  
吏、雇員ハ直接ト間接ト問ハス其ノ賣却物件ヲ買受  
クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ財產ノ差押、保管、運搬、公  
賣ニ關スル費用及通信費トス  
(三十五年法律第三十六號ヲ以テ改正)

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十  
三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ  
督促手數料、滯納處分費及税金ニ充テ尙殘餘アルトキ  
ハ之ヲ滯納者ニ交付ス(同上)

賣却シタル物件質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其ノ  
代金ヨリ先ツ督促手數料、滯納處分費及税金ヲ控除シ  
次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテヲ債權者ニ交付シ尙殘餘



アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケル質權、抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手数料、滯納處分費ヲ徴シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテテ債權者ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手数料滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得(三十五年法律第三十六號ヲ以テ條中改正)

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得(同上ヲ以テ改正)

第三十一條 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手数料、滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス(同上)

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ  
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾

シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス  
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰則アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス  
沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ノヲ施行セス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ敕令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●國稅徵收法施行規則(明治三十五年四月勅令第三百三十五號)

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ

以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到リサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ

納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納日期ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ

前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ送付書ヲ添ヘ漸次之ヲ金庫ニ送附スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ  
地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調

査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期內ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲ケルモノニシテ納期ニ到リ税金ノ徵收ヲ完ツスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅  
二 造石數査定酒類、酒精、酒精含有飲料、醬油ノ造石稅及造石數査定酒類、麥酒稅

三 當該年分ノ自家用醬油製造稅

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ  
第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ  
第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムト



スルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ  
督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ金十錢ヲ徵收ス  
第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押  
フルトキハ收稅官吏ハ督促手数料、滯納處分費及税金  
額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ  
國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其  
ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添ヘ其ノ事  
實ヲ證明スヘシ

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差  
押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理  
人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキ  
亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅  
官吏ハ其財産所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲  
スヘシ

第十五條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納  
者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メ  
ナキモノハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ差押調書ニ  
通ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會  
人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ

署名捺印スルトコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘ  
シ

差押調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 差押財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所  
在ヲ明ニスル事項
- 三 差押ノ事由
- 四 調書ヲ作りタル場所年月日

前二項ノ規定ハ債權ノミノ差押ニハ之ヲ適用セス

第十七條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者  
又ハ第三者ヨリ督促手数料、滯納處分費及税金ヲ完納  
シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘ  
シ

第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムト  
スルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名住所若ハ居所
- 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所  
在ヲ明ニスル事項
- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所、日時

五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額

六 代金納附ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加  
入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ  
落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金  
ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲  
スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於  
テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタ  
ル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要  
スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノ  
ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其  
ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置ク  
ヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滯納者ヲシテ權利移轉  
ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ  
ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムベシ(明治廿八年三月勅令第六  
十七號ヲ以テ改正)

前項ノ期間内ニ滯納者其ノ手續ヲ爲サルトキハ收稅官吏

吏ハ滯納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ  
落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アル  
トキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落  
札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落  
札者ヲ定ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ  
其ノ價格見積價格ニ違セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコ  
トアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其  
ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除  
シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第  
二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ  
該當スル場合ニ於テ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、  
執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産主任官又ハ清  
算人ニ督促手数料、滯納處分費及滯納税金ノ交付ヲ求  
ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フ  
ルコトヲ妨ケス

第三十條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ



處分ニ關スル計算書ヲ作リ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ  
賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其  
ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ  
得

第三十一條 納稅告知督促及滯納處分ニ關スル公告ハ稅  
務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ  
外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附 則

第三十二條 市制町村制ヲ施行セサル地方(稅務署所在  
地ヲ除ク)ノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ  
町村内ノ國稅(酒類、酒精、酒精含有飲料並醬油ノ造  
石稅及麥酒稅ヲ除ク)ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ  
第三十三條 前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ  
完納セサル者アルトキハ戶長ハ本則中ニ規定セル市町  
村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第三十四條 本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第  
三十三條ニ依リ指定セラレタル公共團體ニ之ヲ準用ス  
第三十五條 本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵  
收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス明治三十年勅  
令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス

●國稅徵收法施行規則 (明治三十年六月)

(大藏省令第十號)

(三十三年大藏省令第九號三十四年同第二號第十八號三十五年同第八  
號第十六號第十九號第二十六號ヲ以テ本令中改正)

第一條 國稅徵收法施行規則第一條ノ納稅告知書ハ稅務  
署長ニ於テ第一號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 市町村(市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ  
戶長)ノ徵收スヘキ國稅ハ稅務署長ニ於テ第二號書式  
ノ納額通知書ヲ調製シ之ヲ(市町村市制町村制ヲ施行  
セサル地方ニ於テハ戶長)ニ送付スヘシ其ノ異動ヲ生  
シタルトキハ更ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三條 市町村(市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ  
戶長)前條ノ納額通知書ヲ受ケタルトキハ第三號書式  
ノ納稅告知書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第三條ノ二 納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ  
納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第四條 市町村其ノ領收シタル稅金ヲ金庫ニ送付スルト  
キハ第四號書式ノ送付書ヲ添付スヘシ

第五條 市町村(市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ  
戶長)滯納ノ報告ヲ爲ストキハ第五號書式ノ滯納報告  
書ヲ調製シ稅務署ニ送付スヘシ送付後ニ其ノ報告書ニ

異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第六條ノ一 稅金納付ノ督促ヲナストキハ稅務署長ハ第  
六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ

前項ノ督促ヲ爲ス場合ニ於テ金庫ニ納付セシムルトキ  
ハ第七號書式第八號書式ノ納付書ヲ添付スヘシ但シ收  
稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ係ルトキハ第七  
號書式ノ納付書ヲ添付スルヲ要セス

納稅人督促ヲ受ケ稅金及督促手數料ヲ收稅官吏ニ納付  
スヘキトキハ納稅告知書ヲ添付シ金庫ニ納付スヘキト  
キハ納稅告知書及納付書ヲ添付スヘシ但シ金庫ニ納付  
スヘキ場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ  
納稅告知書ヲ添付スルコトヲ要セス (四十年三月大藏省  
令第十二號ヲ以テ改正)

第六條ノ二 前條督促狀ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署  
ト指定シタル場合ニ於テ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係  
ルトキハ收稅官吏ハ市町村ノ發シタル納稅告知書ヲ以  
テ稅金ヲ領收スルコトヲ得

第七條 稅金及督促手數料滯納處分費ハ郵便爲替、日本  
銀行若ハ其ノ代理店ニ宛テタル送金手形又ハ日本銀行  
若ハ其ノ代理店ニ於テ證明シタル小切手ヲ以テ納付ス  
ルコトヲ得

第八條 納稅人ハ指定ノ納付場所以外ノ地ニ於テ納稅ス  
ルヲ便トスルトキハ稅務署又ハ稅務支署ニ申告シテ納  
付場所ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

第九條 稅務署長ハ國稅滯納者ノ財産差押ヲ命シタル收  
稅官吏ニ左ノ證票ヲ交付スヘシ  
用紙厚紙 縱二寸五分橫一寸五分

「何」號

國稅滯納者	稅務管
財產差押	理局印
證 票	

又ハ「何」稅務署  
「官」務支署  
氏 名

第十條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ  
第九號書式ノ債權差押通知書ヲ發スヘシ

第十一條 國稅徵收法施行規則第十六條ノ差押調書ハ第  
十號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十二條 收稅官吏財産ヲ賣却セムトスル場合ニ其ノ價  
格ヲ見償リ難キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ  
其ノ評價ヲ爲サシムルコトヲ得



第十三條 入札ノ方法ヲ以テ財産ヲ公賣スル場合ニハ買

受望人ハ其ノ住所氏名買受財産ノ種類額及入札價額ヲ

記シタル入札書ヲ封緘シテ差出スハシ

第十四條 入札書ハ公告ニ示シタル開札場所、日時ニ入

札人ノ面前ニ於テ之ヲ開クモノトス但シ入札人又ハ其

ノ代理人開札ノ場所ニ出席セザルトキハ其ノ立會ヲ要

セスシテ開札スルコトヲ得

第十五條 競賣ノ方法ヲ以テ財産ヲ公賣スルトキハ競賣

人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十六條 加入保證金又ハ契約保證金ノ割合ハ買受望人

各自公賣財産見積價格百分ノ五以上トシ公賣ノ時々之

ヲ定ムルモノトス(四十年十月大藏省令第四十二號ヲ以テ改正)

第十七條 公賣財産ノ買受人又ハ競賣人ハ納付書ヲ添へ

其ノ代金ヲ稅務署長又ハ稅務支署長ニ納付スハシ

第十八條 督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送

達ヲ爲ストキハ第十一號書式ノ送達書ニ受取人ノ署名

捺印ヲ求ムヘシ(廿六年五月大藏省令第十二號ヲ以テ改正)

第十九條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ第十

二號書式ノ計算書ヲ調製シ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

第一號書式 (一)内註ニ印掌ハ孰モ朱)

用紙適宜 縦四寸五分ノモノニ枚横三寸五分ノモノ一枚接綴

備考 一 領收證書及通知書用紙ノ納入金額納入年度科目等ハ總テ納稅告

知書發行者ニ於テ記入スルモノトス

二 金額ヲ數行並記シタルトキハ其ノ左傍ニ合計額ヲ掲記スルモノ

トス

三 酒造稅、自家用酒稅ノ場合ニハ「何年」何期「分」トアルチ「何年

度」何期「分」トスルモノトス

四 收稅官吏本署ニ依リ稅金ヲ領收スルトキハ明治二十六年大藏省

令第三十二號ノ現金領收證書ヲ發行スルコトヲ要セス

五 收稅官吏ニ於テ稅金ノ領收ヲ爲ストキハ督促手數料ノ收入ヲ要ス

ルモノナルトキハ本署中ニ科目金額ヲ併記シ第八號書式納付書

納稅告知書

第「何」號「何」年度「何」年「何」月「何」日限「何」市町村納	經 常 租 稅「何」項「何」年「何」期「分	大 藏 省 主 管「何」稅 務 署「何」金 庫 扱	一 金「何」程「何」稅	右 通 知 候 也	計 金「何」程「何」稅	明治「何」年「何」月「何」日	「何」稅務署長「官」氏 名 圖
--------------------------------	-----------------------	---------------------------	-------------	-----------	-------------	----------------	-----------------

領收證書

第「何」號「何」年度「何」年「何」月「何」日限「何」市町村	租 稅「何」項「何」年「何」期「分	一 金「何」程「何」稅	計 金「何」程「何」稅	明治「何」年「何」月「何」日領收	「何」收入官吏「官」氏 名 圖
-------------------------------	-------------------	-------------	-------------	------------------	-----------------

納稅告知書

第「何」號「何」年度「何」年「何」月「何」日限「何」市町村	租 稅「何」項「何」年「何」期「分	一 金「何」程「何」稅	計 金「何」程「何」稅	明治「何」年「何」月「何」日領收	「何」收入官吏「官」氏 名 圖
-------------------------------	-------------------	-------------	-------------	------------------	-----------------

備考 一 一人別納額ノ通知ヲ要スル場合ニハ一人別納額調書ヲ添付スル

モノトス但シ人員少キトキハ金額ノ左傍ニ記入スルモ妨ケナシ

二 市町村制ヲ施行セザル地方ノ戸長ニ通知スル場合ニハ「何」年

「何」月「何」日「何」市町村「納」トアルチ「何」市町村「分」トス

三 市町村ノ便宜ニ依リ出納區域ニアラサル金庫ヲ指定シタルトキ

ハ豫メ之ヲ其ノ金庫ニ通知スルモノトス

第三號書式 用紙適宜 縦四寸二分 横三寸二分 一枚接綴

納稅告知書

第「何」號「何」年度「何」年「何」月「何」日限「何」市町村	經 常 租 稅「何」項「何」年「何」期「分	大 藏 省 主 管「何」稅 務 署「何」金 庫 扱	一 金「何」程「何」稅	右 明 治「何」年「何」月「何」日限「何」金庫又ハ「何」稅務署「何」納付	「何」稅務署長「官」氏 名 圖	明治「何」年「何」月「何」日	「何」收入官吏「官」氏 名 圖
-------------------------------	-----------------------	---------------------------	-------------	--------------------------------------	-----------------	----------------	-----------------

領收證書

第「何」號「何」年度「何」年「何」月「何」日限「何」市町村	租 稅「何」項「何」年「何」期「分	一 金「何」程「何」稅	計 金「何」程「何」稅	明治「何」年「何」月「何」日領收	「何」收入官吏「官」氏 名 圖
-------------------------------	-------------------	-------------	-------------	------------------	-----------------

通知書

第「何」號「何」年度「何」年「何」月「何」日限「何」市町村	經 常 租 稅「何」項「何」年「何」期「分	一 金「何」程「何」稅	計 金「何」程「何」稅	明治「何」年「何」月「何」日領收	「何」收入官吏「官」氏 名 圖
-------------------------------	-----------------------	-------------	-------------	------------------	-----------------







用紙適宜横四寸五分ノモノ三枚縦四寸五分ノモノ一枚接綴

何	年	度	何	郡市何町村	某	納
經	常	雜	收	入	免	許及手
大	藏	省	主	管	何	稅務
一	金	何	種	手	數	料
明	治	何	年	何	月	何
日						

何	年	度	何	郡市何町村	某	納
雜	收	入	辨	價	及	違
約	金					
一	金	何	種	手	數	料
明	治	何	年	何	月	何
日						

何	年	度	何	郡市何町村	某	納
經	常	雜	收	入	辨	價及違
約	金					
一	金	何	種	手	數	料
明	治	何	年	何	月	何
日						

何	年	度	何	郡市何町村	某	納
經	常	雜	收	入	辨	價及違
約	金					
一	金	何	種	手	數	料
明	治	何	年	何	月	何
日						

何	稅務	署	長	氏	名	殿
何	金	庫	庫			

備考

- 一 出納區域ニアラサル金庫へ納付セシムルトキハ納付書中へ「何金庫へ納付スルコトヲ承認ス」ト記入シ 稅務署印ヲ捺捺スルモノトス
- 二 收入官吏ニ於テ督促手數料ヲ領收セントスルトキハ本書ニ依リ領收證ヲ交付シ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證ニ代フルモノトス
- 三 收入官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本書式納付書中餘白ニ領收済年月日ヲ記入シ收入官吏檢印ヲ爲シ領收通知書ヲ省略スルコトヲ得(四十年十月大藏省令第四十二號ヲ以テ追加)
- 四 督促手數料ニシテ租稅ト所得年度ノ同一ナルモノハ第七號書式納付書中ニ科目及金額ヲ併記兼用シ本書式ノ納付書ヲ省略スルコト(廿六年五月大藏省令第三十二號ヲ以テ追加)

第九號書式

債權差押通知書

「何府縣何郡市何町村大字何何番地」  
債權者 「何 某」  
債務者 「何 某」

徵收金額  
「何 何 租」  
税金  
「何 何 租」  
督促手數料及納納處分費  
「何 何 租」

前記金額徵收ノ爲メ明治「何」年「何」月「何」日(辨價ノ期限ナキ債務ノ内)

明治「何」年「何」月「何」日  
「何府縣何郡市何町村大字何番地」  
「何 某 宛」

備考  
一 債務者官廳ナルトキハ其ノ仕拂命令官ノ官氏名法人ナルトキハ其ノ法人ノ名ヲ記入スルモノトス  
二 債權ノ目的カ金錢以外ノモノナルトキハ其ノ名稱、數量其ノ他重要ナル事項ヲ明記スルモノトス

第十號書式

差押調書

「通貨」 「金 何 租」  
「何々」 「何 杖」  
「何國何郡市何町村大字何何番」  
「郡村宅地何段何畝歩」  
「此地價金何程」  
「此地租金何程」  
「本地ハ何國何郡市何町村何某ヘ一箇單地代金何租ニテ何年何月何日ヨリ何箇年間貸與シヤリ」

(以下之ニ依リ列記ス)

右ハ「何府縣何郡市何町村何某」何「稅」何「年」何「期」分金「何程」納納ニ付「何」月「何」日「本人」又ハ「本人不在ニ付同居家族何某」立會ノ上(國稅徵收法第二十一條ノ立會人ヲ記載ス)前記ノ財產ヲ差押ナル者也  
明治「何」年「何」月「何」日何所ニ於テ此ノ調書ヲ作ル

「何」稅務署  
「官 氏 名 圖」  
立會人 「何 某」

第十一號書式(廿六年五月大藏省令第十二號ヲ以テ改正)

送 達 書	送達シタル書名通數	名宛人ノ住所又ハ居所及氏名	受取人ノ署名捺印	送達シタル日時	右ノ通取取扱候也
					使丁「何 某」

第十二號書式

計算書

「何郡市何町村大字何何地」



金何租	内 滞納者	何 某
金何租	内 差押通貨	何々公賣代金
金何租	内 何々公賣代金	何々公賣代金
金何租	内 支拂	高
金何租	内 督促手数料及滞納處分費	督促手数料
金何租	内 督促手数料	督促手数料
金何租	内 債權者何某へ交付額	元
金何租	内 自何年何月何日	至何年何月何日
金何租	内 滞納税	金
金何租	内 何年何期分	何 稅 何々
金何租	内 何稅 何々	滞納者へ還付スヘキ分
金何租	内 何稅務署長	官 氏 名 附
金何租	内 右之通候也	
金何租	内 明治何年何月何日	

●國稅地方稅ノ區別 (明治八年九月) (第百四十號布告)

國稅 全國一般へ賦課スヘキ分ニシテ大藏省ニ收入シ國費ニ供スルモノヲ云フ

縣稅 現今賦金ト稱シ收入アル諸稅及本年(二月)第二十三號布告地方收稅ノ類ニシテ其地方ノ費用ニ供スルモノヲ云フ

但賦課ノ方法ハ地方官ニ於テ取調大藏省ノ許可ヲ得費途ノ方法ハ内務省ノ許可ヲ得テ施行スヘキモノトス(明治八年第四十九號布告ヲ以テ但書改正)

●市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件 (明治三十年六月勅令第百九十五號)

左ノ諸稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘシ

- 一 所得稅
- 二 營業稅
- 三 家用醬油稅(明治三十三年勅令第百四十五號ヲ以テ改正)
- 四 賣藥營業稅
- 五 北海道地方稅(三十三年勅令第百四十八號ヲ以テ追加)

附 則

本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

●府縣稅徵收ニ關スル件 (明治三十三年三月) (勅令第八十一號)

第一條 市町村ハ其ノ市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ

前項府縣稅ノ徵收ニ關シテハ地租ノ附加稅ヲ除クノ外徵收金額百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第二條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第三條 府縣知事前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四條 府縣稅ヲ徵收セントスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ(三十五年勅令第百七十三號ヲ以テ第二項削除)

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員ハ直ニ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

第五條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

徵稅令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

第六條 徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人納稅期內ニ稅金ヲ完納セザルトキハ市町村長ハ其ノ滞納ノ稅目、金額及滯納人ノ住所氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ徵稅令書ヲ發シタル官吏員ニ報告スヘシ(三十五年勅令第七十三號ヲ以テ改正)

徵稅令書ヲ發シタル官吏員前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ督促狀ヲ發スヘシ徵稅令書ヲ受ケタル納稅人納稅期內ニ稅金ヲ完納セザルトキ亦同シ

督促狀ニハ府縣知事ノ定メタル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スヘシ

第七條 督促狀ヲ發シタルトキハ手数料ヲ徵收ス(同上) 手数料ノ額ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム



市町村長ヲシテ督促狀ヲ發セシメタルトキハ手数料ハ之ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第八條 納税人左ノ場合ニ該當スルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル府縣稅ニ限リ納期前ト雖之ヲ徵收スルコトヲ得(同上ヲ以テ追加)

- 一 國稅徵收法ニ依ル滯納處分ヲ受クルトキ
- 二 強制執行ヲ受クルトキ
- 三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四 競賣ノ開始アリタルトキ
- 五 法人カ解散ヲ爲シタルトキ
- 六 納税人脫稅又ハ逋稅ヲ謀ルノ行爲アリト認ムルトキ

第九條 相續開始ノ場合ニ於テハ府縣稅、督促手数料及滯納處分費ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得(同上)

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ノ限度トシテ府縣稅、督促手数料及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス

第十條 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル

物件ニ係ル府縣稅、督促手数料及滯納處分費ハ納税者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(同上)

第十一條 同一年度ノ府縣稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得(同上)

第十二條 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ郡長又ハ市長ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ(同上)

第十三條 徵稅令書、徵稅傳令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス(同上)

第十四條 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス(同上)

第十五條 府縣稅ノ徵收期ハ府縣知事之ヲ定ム

(三十五年勅令第七十三號ヲ以テ條中改正)

第十六條 市制町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル府縣稅ノ徵收ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム(同上)

第十七條 本令ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム(同上)

●地租條例 (明治十七年三月 第七號布告)

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價百分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ増徴ス

(三十二年法律第三十號ヲ以テ修正) 但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ(三十二年法律第三十號ヲ以テ修正)

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(同上)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川闕、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲ケル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニアラス

二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セザルトキハ此限ニ在ラス

三 鄉村社地

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、隄塘、井滯

六 鐵道用地、軌道用地、

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路



府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラズ(廿八年二月法律第卅三號ヲ以テ改正)

軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用ス(四十一年三月法律第卅六號ヲ以テ本項追加)

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス(同上)

第七條 地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非レハ修正セズ(同上)

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 一 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方官廳ニ届出ヘシ(同上)

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス(同上法律ヲ以テ追加)

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス(同上)

第十條ノ二 前條第一項ノ届出アリタルトキハ其年ヨリ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部納付後届出アリタルトキハ翌年ヨリ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス(廿六年六月法律第卅二號ヲ以テ追加)

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方官廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其他ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 (廿八年二月法律第卅三號ヲ以テ削除)

第十三條 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス

- 一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者
- 二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者
- 三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ(同上)

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地

租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

(廿二年法律第卅四號ヲ以テ改正)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス(同上)

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方官廳ニ届出ヘシ(同上)

前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方官廳ニ願出歛下年期ノ許可ヲ受クヘシ歛下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ歛下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開

墾歛下年期若クハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地

ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ第十條ノ二ノ規定ヲ準用ス(廿六年六月法律第卅二號ヲ以テ追加)

第十八條 (三十四年法律第卅三號ヲ以テ削除)

第十九條 歛下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(廿二年法律第卅三號ヲ以テ改正)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上)

海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セズ他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム(同上)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租年期ヲ定ム其年期明ニ至ル原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依



リ處分ス(同上)

第二十四條 川成、海成、湖水成、ニシテ免租年明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租年明ニ至リ許可ス其年明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セズ他ノ地目ニ變セサルモノハ川海湖ニ歸スルモノトス(同上)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逃脫スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス(同上法律ヲ以テ但書改正)

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス(同上法律ヲ以テ改正)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス(同上)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徵スヘキ地租ハ仍之ヲ納メシム

●特別年限地租増徴ニ關スル件

(明治三十二年三月法律第四十三號)

明治三十二年度ヨリ同三十六年度迄五箇年間市街宅地及田畑其ノ他ノ地目ニ就キ特別増徴ノ地租ニハ府縣稅又ハ市町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

●地租條例施行規則

(明治三十二年三月勅令第百一十一號)

- 第一條 土地ニハ番號ヲ付シ每筆其ノ地價ヲ定ム
- 第二條 一筆ノ土地中一部分左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ分割ス
  - 一 別地目トナルトキ
  - 二 有租地ニシテ免租地トナルトキ
  - 三 免租地ニシテ有租地トナルトキ
  - 四 所有者ヲ異ニスルトキ
  - 五 質權ノ目的トナルトキ
  - 六 百年ヨリ長キ存続期間ノ定アル地上權ノ目的トナルトキ

ルトキ(廿八年四月勅令第百三十一號ヲ以テ本項追加)

第三條 地租條例第四條ニ依リ地租ヲ免スヘキ公立學校地、鄉村社地ハ借地ニ非サルモノニ限ル

第四條 第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ

第五條 地目變換又ハ地類變換ノ後五年以内ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ再度ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 地目變換ノ後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲ストキハ開墾著手ノ年ヨリ十年目又ハ鐵下年明ニ至リ其ノ成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ徵收ス地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ再ヒ第一類地トナストキハ變換ヲ取消シタルモノトス其ノ當初ノ地目ト異リタル第一類地ト爲ストキハ地目變換ヲ爲シタルモノトス

第七條 開墾著手後十年以内又ハ鐵下年明中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ廢止シタルモノトシ變換ヨリ六年目ニ至リ其ノ地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第八條 地目變換若ハ地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ荒地免租年明ノ許可ヲ受ケタルトキハ變換ヲ取消

シタルモノトス其ノ荒地免租年明ニ至リ當初ノ地目ト異リタル土地ト爲シタルトキハ其ノ地目ニ依リ地價ヲ修正シ地租ヲ徵收ス

第九條 地租條例第十條第一項ニ違犯スル者其ノ變換ヨリ六年目以後ニ於テ發覺シタルトキハ其ノ發覺ノ年ニ於テ現地目ニ依リ地價ヲ修正シ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十條 地目變換又ハ開墾ニシテ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ届出ト看做ス

第十一條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付鐵下年明又ハ新開免租年明ノ許可ヲ請ハサルトキハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第十二條 荒地免租年明中又ハ低價年明中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サス

第十三條 荒地免租年明中又ハ低價年明中再ヒ荒地トナリ免租年明ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル荒地免租年明又ハ低價年明ハ消滅ス

第十四條 地租條例第十六條第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及森林法第五十六條ニ依リ鐵下年明、地價據置年明、免租年明、繼年明又ハ低價ヲ



受ケントスル者ハ稅務署長ニ願出ツヘシ(三十九年勅令第  
二百五十三號ヲ以テ本令中稅務管理局長ヲ稅務署長ニ改ム)

第十五條 左ノ場ニ於テハ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘ

- 一 有租地ヲ川、水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地  
公衆ノ用ニ供スル道路、水道用地及傳染病院、隔  
離病舎、隔離所、消毒所 敷地ト爲ストキ
  - 二 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ
  - 三 開墾ヲ爲サムトスルトキ、開墾成功シタルトキ又  
ハ開墾ヲ廢止シタルトキ
  - 四 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セ  
シ土地ニ付、新開墾租年期ヲ請ハサル  
トキ
  - 五 鐵下年期明、地價據置年期明、新開墾租年期明、  
荒地免租年期明、低價年期明ニ至リタルトキ
  - 六 數筆ノ土地ヲ合併シ又ハ一筆ノ土地ヲ分割セムト  
スルトキ
- 前項ノ場合ニ於テ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルトキハ  
實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其地力ヲ比較シ相當ノ  
地位等級ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘ  
シ

第十六條 地租ヲ納ムヘキ者其ノ所有土地所在地ノ市區  
町村内ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ地租ニ關スル  
事務ヲ管理セシムル爲其ノ市區町村内ニ住居スル者ヲ  
納稅管理人ト爲シ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ申告スヘ  
シ

●地租條例第四條第一項第一號及第  
二號ニ依ル公共團體及期間指定ノ  
件(明治三十八年五月  
勅令第百五十九號)

- 第一條 地租條例第四條第一項及第二號ニ依リ左ノ公共  
團體ヲ指定ス
- 一 郡組合
  - 一 水利組合
  - 一 町村組合、町村學校組合及其ノ區
  - 一 市町村内ノ區
  - 一 沖繩縣ノ區、間切、島、間切島組合、區内ノ部及  
間切島内ノ村
  - 一 北海道地方費
  - 一 北海道ノ區及區町村内ノ部
  - 一 北海道ノ土功組合
- (廿九年六月勅令第百五十三號ヲ以テ追加)

第二條 地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公用  
又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキヨリ一箇  
年トス

●地租徵收期限 (明治二十四年三月  
法律第二號)

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施  
行ス

但市街宅地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ  
限リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

一期	該年九月一日ヨリ	如方及宅地、山	五分
二期	該年十一月三十日ヨリ	林原野牧場	五分
三期	該年十二月十六日ヨリ	田方	五分五厘
四期	該年二月一日ヨリ	同	五分五厘
五期	該年三月三十一日ヨリ	同	五分五厘
六期	該年五月三十一日ヨリ	同	五分五厘

●地租徵收ニ關スル件 (明治廿七年三月  
法律第十二號)

第一條 地租ヲ課セザル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ  
課スル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ徵收ス但シ  
地租ヲ課セザル土地ニシテ其ノ年經過後旧地トナリタ

ルトキハ其ノ年分地租ノ翌年ニ於ケル納期ニ於テハ地  
租ヲ徵收セス

第二條 地租ハ各納稅人ニ付同一市町内ニ於ケル同一地  
目ノ地價合計額ニ依リ之ヲ算出スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ地目ヲ異ニスルモ地租ノ納期ヲ同  
フスル土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做スコトヲ  
得

第三條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ開始前十五日マテ  
ニ地價及地租ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ所  
轄收稅官應ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ  
此ノ限ニ在ラス

第四條 市町村以外ノ公共團體又ハ戶長ノ地租ヲ徵收ス  
ヘキ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ隨時稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ  
市町村其ノ他ノ公共團體又ハ戶長役場ニ於ケル國稅諸  
帳簿整齊ヲ監督セシムヘシ

第六條 本法ハ明治廿七年分地租ヨリ之ヲ適用ス



### ● 水害地方田畑地租免除ニ關スル件

(明治卅四年四月法律第廿七號)

一府縣又ハ數府縣ノ全部若ハ一部ニ亘レル水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其ノ年分ニ限之ヲ免除ス  
前項ニ依リ免租ノ處分ヲ受ケムトスル者ハ罹災後三十日內ニ主務官廳ニ申出ツヘシ此ノ期間内ニ申出テサル者ハ免租ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス  
本法ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス (四十年四月法律第四十號ヲ以テ追加)

#### 附 則

本法ノ規定ハ本法施行前一年間ニ水害、蟲害、風害又ハ旱害ヲ被リタル田畑ニ準用ス但シ申出期間ハ本法施行ノ日ヨリ起算ス

### ● 災害地地租延納ニ關スル件

(明治三十六年六月法律第三號)

災害又ハ天候不順ニ因リ府縣及北海道ノ全部若ハ一部ニ亘リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ニ付テハ十年以内ノ期間ヲ以テ年賦延納ヲ許可スルコトヲ得  
前項ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ被害現狀ノ存

スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シ主務官廳ニ出願スヘシ  
本法ニ依リ延納ヲ許可シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス  
本法ニ依リ被害調査中ハ地租ノ徵收ヲ猶豫ス

#### 附 則

本法ノ規定ハ之ヲ明治三十五年分田畑地租ニ準用ス  
明治三十六年勅令第八號ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ更ニ期間ノ更正ヲ求ムルコトヲ得  
前二項ニ依リ延納ノ許可ヲ得又ハ期間ノ更正ヲ求メムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ出願スヘシ

### ● 災害地地租延納出願方

(明治三十六年六月法律第十五號)

第一條 明治三十六年法律第三號ニ依リ地租延納ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ收穫皆無ニ歸シタル事由、土地ノ番號、地目、段別、地價、地租及延納期間ヲ記シ所轄稅務署ニ出願スヘシ  
但段別地價及地租ニ付テハ各筆ノ記載ヲ省略シ地目別合計額ヲ記載スルモ妨ナシ  
(卅八年十月大藏省令第四十七號ヲ以テ追加)

第二條 延納ノ期間ハ收穫皆無トナリタル年ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第三條 年賦延納金額ハ地租金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第四條 年賦延納金ハ毎年當該地目ノ地租納期ニ平分シテ之ヲ納ムヘシ但出願者ニ於テ平分ヲ不便トスルトキハ地租納期中ニ於テ其ノ便トスル納期及金額ヲ定メシメテ之ヲ許可スルコトヲ得 (同上追加)

#### 附 則

第五條 本令ハ明治三十六年法律第三號附則ニ依リ地租延納ノ許可ヲ得又ハ期間ノ更正ヲ求ムトスル者ニ之ヲ準用ス但シ期間ノ更正ヲ求メムトスル場合ニ於テハ收穫皆無ニ歸シタル事由、段別、地價、地租ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

### ● 災害地地租延納ニ關スル取扱方

(明治三十六年七月大藏省訓令第二十二號)

第一條 收穫皆無ノ調査ヲ爲スニ當テハ公平適實ヲ主トシ之ヲ調査ヲ爲スヘシ  
第二條 年賦延納ノ期間ハ十年以内ニ於テ納稅者ノ請求ニ依リ之ヲ定ムルモノトス  
第三條 延納地租ヲ納付スルハ許可ヲ受ケタル者ノ義務ニ屬スルヲ以テ許可後土地ノ所有權ヲ他人ニ移轉スル

コトアルモ其ノ義務ハ移轉セサルモノトス

第四條 延納許可ノ出願ニ關スル狀況ハ時々報告シ尙許可完了ノ上ハ別紙様式ニ依リ其ノ結果ヲ報告スヘシ (別紙様式略之)

### ● 害蟲地地租特別處分法

(明治三十五年三月法律第二十五號)

第一條 本法ハ明治三十四年中蟲害ニ因リテ生シタル損害地ニ適用ス

第二條 前條ノ土地ニシテ收穫皆無ナルモノニ限リ明治三十四年分地租ヲ免除ス

第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十四年分ニ限リ之ヲ免除ス

第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ地租徵收ヲ猶豫ス

第五條 本法ニ依リ地租ヲ免除セラルヘキ土地ニ付テハ既ニ納メタル地租金ハ之ヲ還付ス

第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

#### 附 則



本法ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

● 電害地地租特別處分法 (明治三十五年三月法律第二十六號)

第一條 本法ハ明治三十四年中電害ニ因リテ收穫皆無ト爲リタル土地ニ適用ス

第二條 前條ニ該當スル土地ノ地租及地租延納年賦金ハ明治三十四年分ニ限り之ヲ免除ス

第三條 本法ニ依リ電害調査中ハ其ノ地租徵收ヲ猶豫ス

第四條 本法ニ依リ地租ヲ免除セラルヘキ土地ニ付テハ既ニ徵收シタル地租金ハ之ヲ還付ス

第五條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附 則

本法ニ依リテ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

● 所得稅法 (明治三十二年二月法律第十七號)

(明治三十二年二月法律第十七號)

第一條 帝國内此ノ法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ニ該當セサル者此ノ法律施行地ニ資産又ハ營業ヲ有シ若ハ公債社債ノ利子支拂ヲ受クルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス (三十四年法律第十七號ヲ以テ條中改正) (廿八年二月法律第卅四號ヲ以テ改正)

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

第一種 法人ノ所得 千分ノ二十五

第二種 此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子 千分ノ二十

第三種 前各種ニ屬セサル所得

- 十萬圓以上 千分ノ五十五
- 五萬圓以上 千分ノ五十
- 三萬圓以上 千分ノ四十五
- 二萬圓以上 千分ノ四十
- 一萬五千圓以上 千分ノ三十五
- 一萬圓以上 千分ノ三十
- 五千圓以上 千分ノ二十五
- 三千圓以上 千分ノ二十

二千圓以上 千分ノ十七

五百圓以上 千分ノ十五

三百圓以上 千分ノ十

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限り之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戶主ト別居スル家族二人以上同居スルトキ亦同シ

第四條 所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

一 第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度損金ヲ控除シタルモノニ依ル

二 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

三 第三種ノ所得ハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ル但シ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子、營業ニ非サル貸金、預金ノ利子、此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、歳費、年金、恩給金ハ其ノ收入額ノ豫算年

額ニ依リ山林ノ所得ハ前年ノ所得ニ依ル田畑ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ (三十四年法律第十七號ヲ以テ本條中改正)

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

第五條 左ニ掲クル所得ニハ所得稅ヲ課セス

- 一 軍人從軍中ニ係ル俸給
- 二 扶助料又ハ傷痍疾病者ノ恩給
- 三 旅費學資金及法定扶養料
- 四 營利ヲ目的トセサル法人ノ所得
- 五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
- 六 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク
- 七 此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金及割賦賞與金 (同上ヲ以テ本條中追加)
- 第六條 第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其ノ合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス



第七條 納税義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ第二條ニ該當スル法人ハ各事業年度毎ニ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ此ノ計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第八條 第三種ノ所得ニ付納税義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第九條 第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シ政府之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

調査委員會閉會後第三種ノ所得アル者新ニ納税義務アルコトヲ申出タルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

(三十四年法律第十七號ヲ以テ本項追加)

第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納税義務者又ハ納税義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第十一條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

(廿八年二月法律第廿四條ヲ以テ改正)

第十二條 調査委員ハ調査委員選舉人之ヲ選舉ス

第十三條 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ調査委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村及北海道ノ區ノ區域ニ依ル但シ東京市、京都市及大阪市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル(廿八年二月法律第廿四條ヲ以テ改正)

第十四條 選舉區域内ニ住居シ前年所得稅ヲ納メタルモノニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セララルコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ此ノ限ニ在ラス

(同上改正)

一 無能力者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ非償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者

四 剝奪公權者及停止公權者

五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ者

六 第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

第十五條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於

ケル前年所得稅ヲ納メタルモノニシテ第八條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス (同上改正)

第十六條 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第十七條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戶長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第十八條 過舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

選舉人ハ自ら投票所ニ到リ投票スヘシ但シ郵便ヲ以テ投票ヲ送付スルコトヲ得(廿八年二月法律第廿四條ヲ以テ追加)

郵便ヲ以テ投票ヲ送付スル場合ニ於テ投票時間ノ終了スルマテニ到達セザリシ投票ハ無効トス

第十九條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區

町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十一條 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クトモ七日前ニ公示シ調査委員及之ト同數ノ補員ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 調査委員及補員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條 調査委員及補員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十四條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス但シ第一回ノ改選期ニ於テハ抽籤ヲ以テ其ノ退任者ヲ定ム

補員ハ二年毎ニ之ヲ改選ス

調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ投票ノ數最モ多キ補員ヨリ順次之ヲ補充ス但シ投票ノ數同シキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

補員ヨリ調査委員トナリタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

調査委員ノ定數ヲ増加シタル場合ニ於テ新ニ選舉セララルヘキ調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ稅務署



長之ヲ定メ選舉朝日ト共ニ之ヲ公示ス

調査委員ノ定數ヲ減少シタル場合ニ於テ退任者ヲ定ムル必要アルトキ又ハ前項ニ依リ調査委員ヲ増加シタル場合ニ於テ各調査委員ノ任期ヲ定ムル必要アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム (同上)

第二十五條 調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム (同上)

第二十六條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十七條 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十八條 調査委員會ハ定員ノ過半数ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十條 八月三十日マテニ調査委員會成立セザルトキハ政府其ノ所得金額ヲ決定ス

調査委員會開會ノ日ヨリ第二十五條ノ期間以内ニ又ハ八月三十日マテニ調査結了セザルトキハ所得金額調査

未済ノモノニ限リ政府其ノ所得金額ヲ決定ス (同上改正)

第三十一條 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ七日以内ニ調査結了セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス (同上改正)

第三十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十三條 調査委員ニハ日常及旅費ヲ支給ス

第三十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十四條ノ二 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價額又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得 (同上)

第三十五條 政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十六條 納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ

得

第三十七條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス

審査委員會ノ所屬區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十一條ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

(三十四年法律第十七號ヲ以テ本項追加)

第三十八條 納稅義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖モ通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ税金ヲ納ムヘシ

第三十九條 所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第四十條 山林ノ所得ヲ除クノ外第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス (三十四年法律第十七號ヲ以テ本條改正)

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタ

ル場合ニハ前項ヲ適用セス

第四十一條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ査察シ決定額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ノ更訂ス

第四十二條 第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ其ノ都度之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅者納稅管理人ヲ定メスシテ帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限  
第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限  
第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限  
第四期 翌年三月一日ヨリ三十日限

第四十三條ノ一 第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマデ税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十三條ノ二 第三種ノ所得ニ付二箇以上ノ稅務署管內ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅者ノ住所若ハ居所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金

ルコトヲ得ス (三十四年法律第十七號ヲ以テ本條改正)



額ノ決定ヲ取消スヘシ (三十四年法律第十七號ヲ以テ追加)

第四十四條 第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス但シ住所以外ニ在ル納稅者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得 (同上改正)

此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第四十五條 納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキハ其ノ所得稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條 所得金額ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其ノ逃稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其ノ稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條 所得ノ調査又ハ審査ニ關與スル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス  
附 則  
第四十八條 此ノ法律ハ明治三十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第四十九條 明治二十年勅令第五號所得稅法ハ明治三十一年分所得稅限リ廢止ス

第五十條 此ノ法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニ當分ニ之ヲ施行セス

●所得稅法施行規則 (明治三十二年三月勅令第七十八號)

第一條 所得稅法第四條第一項第三號ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキモノハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費、其ノ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他其ノ收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但シ家事上ノ費用及之ヲ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第二條 第三種ノ所得金額ハ申告、調査又ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得稅法第五條ノ所得ヲ除キ之ヲ算出スヘシ

第三條 納稅義務アル法人ハ每事業年度通常總會後七日以内ニ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類及金額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
所得稅法第三條第二項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘシ

キ場合ニ於テハ其ノ所得ヲ區分シ同時ニ之ヲ申告スヘシ

第四條ノ二 所得稅法第十一條但書ニ依リ特ニ所得調査委員會ヲ置クヘキ市又ハ北海道ノ區ハ大藏大臣之ヲ指定ス (廿八年三月勅令第五十五號ヲ以テ追加)

第五條 所得調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第六條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉前選舉資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

第七條 調査委員選舉人ノ選舉ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其ノ選舉資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第七條ノ二 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ノ常選任ノ氏名ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第七條ノ三 稅務署長所得稅法第二十一條ニ依リ調査委員選舉ノ期日ヲ公示シタルトキハ同時ニ之ヲ調査委員選舉人ニ通知スヘシ (同上追加)

第八條 調査委員ノ選舉ヲ執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選舉人一人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第九條 調査委員選舉人及調査委員ノ選舉ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選舉スヘキ定數ニ超エタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第十條 調査委員又ハ補關員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務署長ニ於テ已ムヲ得スト認ムヘキ事故アル者ニ限ル (三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ條中改正)

第十一條 調査委員會ノ會長出席セザルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條ノ二 調査委員會ノ開會日數ハ各調査委員會ノ區域内ニ於ケル前年所得稅納稅者ノ數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

五千人以上ナルトキ 三十日以内  
三千人以上ナルトキ 二十五日以内  
千人以上ナルトキ 二十日以内  
五百人以上ナルトキ 十五日以内  
五百人未満ナルトキ 十日以内 (同上追加)

第十二條 調査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第十三條 稅務署長ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ (三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ條中改正)



第十四條 所得稅法第三十六條ニ依リ審査ヲ求ムトスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ (同上)

第十五條 各稅務監督局所轄内ニ審査委員會ヲ置ク (同上)

第十六條 收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ命シ調査委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ稅務監督局所轄内ノ調査委員之ヲ選舉ス (同上)

第十七條 審査委員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス (同上)

第十八條 審査委員ノ選舉ヲ執行セムトスルトキハ稅務監督局長選舉期日ヲ定メ所轄内調査委員ノ氏名ト共ニ之ヲ各調査委員ニ通知スヘシ (同上)

第十九條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ投票管理局ニ差出スヘシ

第二十條 稅務監督局長ハ所轄内調査委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ (同上)

第二十一條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 一 審査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務

監督署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ (同上)

第二十二條ノ二 審査委員ハ稅務監督局所轄内ニ於テ調査委員ノ改選アル毎ニ之ヲ改選ス (同上ヲ以テ本條改正)

第二十三條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク (同上ヲ以テ條中改正)

第二十四條 審査委員會ハ改選後第一回開會ノ初ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ (同上)

第二十五條 審査委員會ハ定員ノ過半数ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第二十七條 審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十八條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得 (三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ條中改正)

第二十九條 審査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ (同上)

第三十條 稅務監督局長ハ所得稅法第三十七條ニ依リ所

得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ (同上)

第三十一條 納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサルトキハ政府其ノ損益ヲ調査シ其ノ所得金額ヲ定ム

第三十二條 所得稅ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依ル決定金額ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ決定金額ハ所得稅法第三十七條第三十九條第四十一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更セス

第三十三條 所得稅法第三條第二項ノ場合ニ於テ同居者所得金額決定後別居スルモ所得金額決定當時ノ稅率ニ依リ其ノ年ノ所得稅ヲ納ムヘシ

第三十四條 公ニ募集シタル公債社債ノ利子ヲ支拂フ者ハ支拂ノ際所得稅金額ヲ控除スヘシ

第三十五條 營利ヲ目的トセサル法人ニシテ無記名ノ公債證券又ハ社債證券ヲ取得シタルトキハ其ノ發行者又ハ讓渡人ノ證明ヲ得テ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知シ其ノ所有ヲ證明スヘシ但シ從來無記名ノ公債證券又ハ社債證券ヲ所有スル者ハ本令施行ノ際利子支拂ノ取扱所ニ通知シ便宜ノ方法ニ依リ其ノ所有ヲ證明スヘシ

第三十六條 府縣郡市區町村其ノ他公共ノ團體若ハ組合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ直チニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ其ノ所在地

ノ金庫ニ拂込ムヘシ

國債利子支拂ノ取扱銀行ニ於テ國債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ大藏大臣ノ命令ニ依リ之ヲ本店所

在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十七條 所得稅法第四十條ノ申出アリタルトキハ稅務署長ハ其ノ年所得ノ實況ヲ調査シ所得金額四分ノ一以上ノ減損アルトキハ所得金額ヲ更訂シテ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ (三十五年勅令第二百五十四號ヲ以テ條中改正)

第三十八條 稅金ノ一部ヲ納付シタル後所得金額ノ變更ニヨリ所得稅金額ヲ減シタル場合ニ於テ既納ノ稅金カ變更シタル所得稅金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ還付シ、不足スルトキハ其ノ不足額ヲ後納期ニ平分シテ徵收ス (廿八年三月勅令第五十五號ヲ以テ改正)

第三十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者納稅地ノ稅務署管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スルトキハ納稅地ヲ定メ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第四十條 納稅義務者住所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納ムトスルトキハ所得稅法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅地ヲ定メ其ノ地ノ稅務署ニ申告スヘシ (同上改正)

第四十一條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨



新納稅地ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
第四十二條 納稅義務者帝國外ニ住所若ハ居所ヲ移スト

キハ其ノ旨稅務署ニ申告スヘシ

第四十三條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

●營業稅法 (明治二十九年三月法律第三十三號)

第一條 左ニ揚クル營業ヲ爲ス爲ニハ營業稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業
- 一 銀行業
- 一 保險業
- 一 金貸付業
- 一 物品貸付業
- 一 製造業
- 一 運送業
- 一 食庫業
- 一 運河業
- 一 棧橋業
- 一 船渠業
- 一 船舶碇繋場業
- 一 貨物陸揚場業

一 鐘道業 (三十五年法律第十八號ヲ以テ條中改正)

- 一 土木請負業
  - 一 勞力請負業
  - 一 印刷業
  - 一 寫眞業
  - 一 席貸業
  - 一 旅人宿業
  - 一 料理店業
  - 一 公ナル周旋業
  - 一 代辦業
  - 一 仲立業
  - 一 仲買業
- 第二條 營業稅ヲ課スヘキ物品販賣業ハ一定ノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ設ケ物品ノ卸賣又ハ小賣ヲ爲ス者ヲ謂フ左ノ諸業ハ前項ニ該當セサルモ仍物品販賣業ト見做ス
- 一 一定ノ製造場ヲ職工ヲ使役スルコトナク原料ヲ供給シ工錢ヲ支拂ヒ物品ヲ製造セシメテ販賣スル者
  - 二 一定ノ製造場ヲ設ケス店頭ニ於テ物品ヲ製造シ主トシテ小賣ヲ爲ス者
  - 三 牧場ニ非サル場所ニ於テ飼料ヲ購求シ家畜又ハ家

禽ヲ飼養シ之ヲ賣リ又ハ鷄卵、牛乳等其ノ產物ヲ販賣スル者

四 魚介類ヲ養殖シテ之ヲ販賣スル者

五 動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノヲ販賣スル者

一箇年ノ賣上金額千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第四條ノ營業者其ノ製造場區域内ニ於テ製造品ヲ販賣シ及別ニ營業場ヲ設ケ其ノ製造品ノ卸賣營業ヲ爲スモ物品販賣業トセス

第三條 營業稅ヲ課スヘキ金貸付業及物品貸付業ハ一定ノ店舖其ノ他ノ營業場ヲ設ケ貸付ノ業ヲ營ム者ヲ謂フ普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ爲スモ亦同シ

第四條 營業稅ヲ課スヘキ製造業ハ一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造シ又ハ物品製造ノ一部ヲ助成スル者ヲ謂フ

瓦斯電氣ノ供給ヲ爲ス者及器物、器械ノ修理ヲ爲シ又ハ穀物ヲ精白搗碎シ又ハ染物、洗濯ヲ爲ス者ハ前項製造業ト見做ス

資本金額五百圓未滿ノ者又ハ職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス

第五條ノ一 運賃又ハ手数料ヲ受ケテ旅客貨物ノ運送ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス者ヲ運送業トシテ營業稅ヲ課ス但シ雇人二人以上ヲ使用セサル者ニハ營業稅ヲ課セス (三十五年法律第十八號ヲ以テ條中改正)

第五條ノ二 私設鐵道法ニ依リ運送ノ業ヲ營ム者ヲ鐵道業トシテ營業稅ヲ課ス (同上ヲ以テ追加)

第六條 倉庫ヲ備ヘテ貨物ヲ預リ倉敷料其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受クル者ヲ倉庫業トシテ營業稅ヲ課ス

第七條 印刷業、寫眞業ニシテ職工雇人ヲ通シテ二人以上ヲ使用セサル者及土木請負業、勞力請負業ニシテ請負金額一箇年千圓未滿ノ者ニハ營業稅ヲ課セス

第八條 貸料又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ報酬ヲ受ケ客室又ハ集會場ヲ貸ス者ヲ席貸業トシテ營業稅ヲ課セス

第九條 營業稅ヲ課スヘキ旅人宿業ハ飲食物ヲ供スルト否トニ拘ラス旅客ヲ宿泊セシメ又ハ人ヲ寄宿セシメ雇人三人以上ヲ使用スル者トス但シ木錢宿ニハ營業稅ヲ課セス

第十條ノ一 營業稅ヲ課スヘキ料理店業ハ雇人三人以上ヲ使用シ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スル者トス

第十條ノ二 營業稅ヲ課スヘキ公ナル周旋業、代辦業、



仲立業、仲買業ハ一箇年報償金額百圓以上ノ者トス  
(三十五年法律第十八號ヲ以テ追加)

第十一條 左ニ掲クル營業ニハ營業稅ヲ課セス

- 一 政府ヨリ發行スル印紙、切手類ノ賣捌
- 二 自己ノ採掘又ハ採取シタル礦物ノ販賣
- 三 度量衡ノ製作、修葺、販賣

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス (三十五年法律第十八號ヲ以テ條中改正)

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額 建物貸賃價格 從業者	卸賣ハ萬分ノ五 小賣ハ萬分ノ十五 一人每ニ金一圓
銀行業、保險業、 金錢貸付業、物 品貸付業	資本金額 建物貸賃價格 從業者	千分ノ二 千分ノ四十 一人每ニ金一圓
倉庫業	資本金額 建物貸賃價格 從業者	千分ノ二 千分ノ二十 一人每ニ金一圓
製造業、印刷業、 寫眞業	資本金額 建物貸賃價格 從業者 工勞役者ノ内職	千分ノ一 千分ノ四十 一人每ニ金一圓 一人每ニ金三十錢

第十五條 物品販賣業、土木請負業、勞力請負業、席貸業、旅人宿業、料理店業、公ナル周旋業、代辦業、仲立業、仲買業ハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅ヲ課ス

前項ニ掲ケタル營業ニシテ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ其ノ資本ヲ區分シタルトキハ各別ニ營業稅ヲ課ス其ノ資本ヲ區分セサルモノハ合算シテ之ヲ課ス但シ内國ト外國トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルトキ資本ヲ區分セサルモノハ内國ニ於ケル各店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ使用スル資本金額ヲ見積リ内國ノ分ニ限リ各別ニ之ヲ課ス  
(三十二年法律第三十二號ヲ以テ但書追加)

第十六條 第十三條ニ依リ届出ヘキ課稅標準ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ計算ス但シ新ニ開業シタル者ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 賣上金 收入金、請負金及報償金ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年中ニ開業シタルモノハ豫算ニ依ル  
(三十五年法律第十八號ヲ以テ但書追加)
  - 二 資本金及建物貸賃價格ハ前年中ノ平均額ニ依ル
  - 三 從業者ハ前年ニ於ケル最多數ノトキニ依ル
- 資本金額ノ算定方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

運送業、運河業、  
棧橋業、船渠業、  
船舶碇繋場業、  
貨物陸揚場業、

資本金額 千分ノ二半  
從業者 一人每ニ金一圓

鐵道業 收入金額 千分ノ十  
從業者 一人每ニ金一圓

土木請負業 請負金額 千分ノ二  
從業者 一人每ニ金一圓

勞力請負業 請負金額 千分ノ六十  
從業者 一人每ニ金一圓

席貸業、料理店 建物貸賃價格 千分ノ四十  
從業者 一人每ニ金一圓

旅人宿業 建物貸賃價格 千分ノ十五  
從業者 一人每ニ金一圓

公ナル周旋業代 報償金額 千分ノ十五  
仲買業、仲立業 從業者 一人每ニ金一圓

第十三條 此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ハ毎年一月三十一日迄ニ業名及課稅標準ヲ詳記シ政府ヘ届出ヘシ但シ新ニ開業シタル者ハ其ノ際本條ノ届出ヲ爲スヘシ

營業者廢業シタルトキハ其ノ際政府ニ届出ヘシ  
第十四條 同一人ニシテ種數ノ營業ヲ爲ストキハ第十二條ノ課稅標準ニ依リ各別ニ營業稅ヲ課ス但シ課稅標準トナルヘキモノヲ共通シテ使用スルトキハ其ノ一ニ就テ計算ス其ノ稅率異ナルトキハ重キニ從フ

第十七條 納稅義務ヲ有スル營業者第十三條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課稅標準ヲ算定スルコトヲ得  
(同上ヲ以テ改正)

第十八條 建物貸賃價格ハ店舗其ノ他營業用ノ土地、家屋ノ借料ニ相當スルモノトス但シ住居ニ供スルモノ其ノ他直接ニ營業ニ使用セサルモノアルモ同一區域内ニアリテ自己ノ所用ニ係ルモノハ營業用トシテ計算ス  
(同上ヲ以テ條中改正)

借家ノ場合ニ於テハ何等ノ名義ヲ用ウルニ拘ラス土地、建物ノ賃借上借主ヨリ貸主ニ支拂フモノヲ以テ建物貸賃價格ヲ計算ス

借家ニ非サル場合ニ於テハ近傍借家ノ借料ニ照準シテ建物貸賃價格ヲ定ム近傍ニ照準スヘキ借家ヲキトキハ其ノ土地、家屋ノ時價ヲ各別ニ算定シ土地ハ其ノ百分ノ五、家屋ハ百分ノ十ヲ以テ其ノ賃賃價格ヲ定ム無償ノ借家ニ付テモ亦同シ

第十九條 名義ノ何タルヲ問ハス總テ營業ニ従事スル者ハ從業者トシテ之ヲ計算ス但シ營業者ノ家族ヲ除ク  
第二十條 營業稅ハ年額ヲ二分シ其ノ年五月、十一月ヲ以テ納期トス但シ廢業スルトキハ未納ノ稅金ハ即納ト



第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營所稅ヲ徵收ス

左ニ掲クル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此ノ稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

(三十五年法律第十八號ヲ以テ鐵道業ヲ加フ)

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繋場業、鐵道業、

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニアルトキハ其ノ期間ハ後

ノ營業者ニ及フモノトス、

第二十六條 政府ニ於テ課稅標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ(三十五年法律第十八號ヲ以テ條中改正)

第二十七條 前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス(同上)

第二十八條ノ一 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス(同上)

第二十八條ノ二 各稅務管理局所轄内ニ營業稅審査委員會ヲ置ク(同上)

審査委員ノ定數及審査委員會ノ會議ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員ハ商業會議所代表者及納稅義務ヲ有スル營業者中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

第二十八條ノ三 收稅官吏ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得(同上)

第二十八條ノ四 營業者第二十八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴訟願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得(同上)

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ

申立ルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、收入金額、請負金額報償金額又ハ建物賃賃價格半額以上ヲ減シタルトキ(同上ヲ以テ本號中改正)

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員届出人員二分ノ一以下ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一年迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ査覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ稅金ヲ減額スルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル賣上金額、收入金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物賃賃價格ハ前々年中平均額ノ半額ニ達セサルトキ

(三十五年法律第十八號ヲ以テ本號中改正)

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員其ノ多數ノトキニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ

課稅標準ノ課稅最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其ノ割合ヲ以テ稅金ヲ徵收ス

第三十二條 第一條ニ掲クル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上

受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備へ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ檢査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得

第三十四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ脱稅シタル者ハ脱稅金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用カス

第三十六條 府縣ハ此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本稅十分ノ二以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得此ノ附加稅ノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

第三十七條 此ノ稅法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス

明治二十九年年度ニ屬スル府縣稅又ハ地方稅ノ賦課ヲ受



ケタル業體ニ對スル此ノ税法ノ營業稅ハ明治三十年ニ  
限リ年額四分ノ三ヲ徵收ス

第三十九條 第二十條五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七  
月トス

第四十條 第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地  
ト此ノ法律ヲ施行セサル地トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業  
場數箇アル場合ニ之ヲ準用ス (三十二年法律第三十二號ヲ以  
テ追加)

●營業稅法施行規則 (明治二十九年七月  
勅令第二百六十九號)

第一條 營業稅法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二  
條以下ノ規程ニ依リ營業稅ヲ課セラルヘキ者ハ其ノ店  
舗其ノ他ノ營業場所所在地ノ稅務署ニ同法第十三條ノ届  
出ヲ爲スヘシ但シ同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於  
テハ其ノ主タル店舗其他ノ營業場所所在地ノ稅務署ニ届  
出ヘシ (三十五年勅令第二百二十號ヲ以テ條中改正)  
左ニ掲クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後  
十日以内稅務署ニ新規開業ノ届出ヲ爲スヘシ  
一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者  
二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニ  
シテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者

三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者

第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ  
他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス營業ノ種類並ニ  
各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業稅法第十二條  
ノ課稅標準ヲ計算スヘシ但シ課稅標準トナルヘキモノ  
ヲ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ稅率ノ  
最重キ營業、稅率等シキトキハ其ノ重ナル營業ノ一方  
ニ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ  
同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營  
業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第四條 營業稅法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舗  
其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ  
於テハ總テノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二  
條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ  
前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タル  
ヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル  
資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス但シ保險會社  
ニ於ケル保險責任準備金ハ之ヲ除算ス (三十五年勅令第二百二十號ヲ以テ但書追加)

第六條ノ一 合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金  
額ハ前年中各月末ニ於ケル出資金額及名義ノ何タルヲ  
問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資  
産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス (同上ヲ以テ條中改正)

第六條ノ二 株式合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資  
本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル出資金額、拂込株式  
金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積  
立金ノ性質ヲ有スル資本金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ  
算定ス (同上ヲ以テ追加)

第七條ノ一 合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金  
額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資金額及名義ノ  
何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ  
有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス (同上ヲ以テ條中改正)

第七條ノ二 株式會社、合資會社、株式合資會社又ハ合  
名會社ニ於テ營業稅法第一條ニ掲クル營業ト同條ニ掲  
ケサル營業トヲ兼營スルトキハ前四條ニ依リ算定シタ  
ル資本金額中ヨリ營業稅法第一條ニ掲ケサル營業ニ對  
スル見積資本金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅標準ト  
爲スヘキ資本金額トス (同上ヲ以テ追加)

第八條 一箇人ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ他  
ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル  
固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ算定ス  
前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、  
建造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ハ時價相當ノ見積金  
額ニ依ル

第九條 課稅標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ  
ヨリ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條 (三十五年勅令第二百二十號ヲ以テ削除)

第十一條 營業稅法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料  
借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラサル物品ヲ以テスルトキ  
ハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土  
地ハ營業稅法第十八條第二項ニ依リ建物ハ第三項ニ依  
リ其ノ貸賃價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ノ一部分ヲ所有スルトキ  
ハ自己所有ノ部分ハ營業稅法第十八條第三項ニ依リ其  
ノ建物貸賃價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部ヲ借主ニ  
於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舗其ノ他ノ營業場ニ  
居住スルト否ト使役ノ當時タルト臨時タルトヲ問ハス



總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同一戸籍内ニ在ル者ハ計算セズ

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何タルヲ問ハス營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ稅務署ヘ其ノ旨ヲ届出ヘシ(三十五年勅令第三百二十號ヲ以テ條中改正)

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ稅務署ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ移轉先ノ稅務署ニ届出ヘシ(同上)

第十五條 營業稅法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署ニ届出ヘシ(同上)

第十六條 納稅義務アル營業者第一條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ届出タル課稅標準ヲ不相當ト認ムルトキハ稅務署長ハ營業稅法第十六條ノ算定方法ニ依リ其ノ課稅標準ヲ算定スヘシ

第十七條 稅務署長前條ニ依リ課稅標準ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ(同上)

前項ノ通知ヲ受ケタル營業者ハ稅務署ニ申出テ其ノ算定ノ説明ヲ求ムルコトヲ得(同上改正)

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳言シ營業稅法第二十七條ノ期限内ニ稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ヘシ

第十九條 稅務監督局長課稅標準審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ營業稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ課稅標準ヲ決定シ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第二十條 審査委員ノ定數ハ五人トス

第二十一條 審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク(同上改正)

第二十二條 審査委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ(同上)

第二十三條 審査委員會ノ會長出席セザルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ(同上)

第二十四條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス(同上)

第二十五條 審査委員ハ自己又ハ自己カ代表スル會社ノ會長ノ決スル所ニ依ル

課稅標準ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス(同上)

第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申出アリタルトキハ稅務署ハ課稅標準算定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スルトキハ其ノ課稅標準ノ全部ヲ改算スヘシ(同上ヲ以テ條中改正)

第二十七條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナルトキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ稅務署ニ届出ヘシ(同上)

第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ稅務署檢査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ(同上)

第二十九條 營業稅法第二十一條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ地方長官ニ其開業年月日ヲ届出ヘシ

●營業稅法ニ關スル業名、課稅標準届様式 (明治二十九年十二月大藏省令第十八號)

明治二十九年法律第三十三號營業稅法ニ關スル業名及課稅標準届書ハ左ノ様式ニ準シテ調製シ所轄稅務署ニ差出スヘシ但シ北海道ハ明治三十年三月三十一日マテハ所轄郡區役所ニ差出スヘシ

營業場 北海道何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)大字何何番地商號

- 一 何々業
  - 一 何々商(何々製造)
  - 一 賣上金額 卸賣何程小賣何程
  - 一 資本金額 何程
  - 一 請負金額 何程
  - 一 報償金額 何程
  - 一 建物賃賃價格 何程
  - 一 從業者 何人
- (内職工何人勞役者何人職工「勞役者ヲ課稅ノ要件トナス



何年何月何日開業（營業税法第十三條第一項但書ニ該當スル者ニ限ル）  
 右之通ニ候也

住所（會社ノ位置）

年月日

氏名 名印

（何々會社代表者氏名印）

北海道廳長官氏 名宛

某地稅務管理局長氏名宛

備考

一 營業税法第一條ノ營業種類及營業稅ヲ課セラルヘキ店舗其ノ他ノ營業場毎ニ各別紙ニ記載スヘシ、但シ一稅務署所轄内（北海道ハ明治三十年三月三十一日マテハ郡區役所所轄内）ニ於テ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ區分シテ業名課稅標準ヲ記載スルモ妨ケナシ

二 一稅務署所轄内（北海道ハ明治三十年三月三十一日マテハ郡區役所所轄内）ニ於テ數種ノ營業ヲ爲ス者ハ各屆書中營業名掲記ノ下ニ其兼業名ヲ記載スヘシ

三 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一

ノ營業ヲ開始シタル者ハ開業年月日ノ下ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

●登録税法（明治二十九年三月法律第二十七號）

第一條 登録稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ（三十二年法律第八十三號ヲ以テ改正）

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ五

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ五

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ四十

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ二十五

五 從來保有セル所有權ノ保存

不動産價格 千分ノ二

六 共有物ノ分別

分則ニ因リテ受クル不動産ノ價格千分ノ五

七 永代ノ地上權ノ取得

不動産價格 千分ノ一

八 但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

十 地役權ノ取得

要役地價格 千分ノ一

十一 華族世襲財產ノ創設

不動産價格 千分ノ二十

十二 先取特權ノ保存又ハ取得

債權金額又ハ不動産工事費用豫算金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三 質權、抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十四 競賣、強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ六

但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權

不動産價格

千分ノ二十五

八 地上權、永小作權ノ取得

存續期間十年未満

不動産價格

千分ノ二

存續期間二十年未満

不動産價格

千分ノ三

存續期間三十年未満

不動産價格

千分ノ四

存續期間三十年以上

不動産價格

千分ノ五

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

九 賃借權ノ取得

存續期間十年未満

不動産價格

千分ノ一

存續期間十年以上

不動産價格

千分ノ二

存續期間ノ定メヲキモノ



金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五 假差押、假處分  
債權金額 千分ノ四  
但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六 抵當アル債權ノ差押  
債權金額 千分ノ六  
但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七 相續財産ノ分離  
所有權ニ付テハ 千分ノ六  
所有權以外ノ權利ニ付テハ 千分ノ一

十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復  
不動産每一箇 金二十錢

十九 假登記  
不動産每一箇 金二十錢

二十一 附記登記

不動産每一箇 金十錢  
但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス(三十四年法律第二十六號ヲ以テ本號改正)

二十二 登記ノ更正、變更又ハ抹消  
不動産每一箇 金十錢  
但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス(同上)

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル(廿八年一月法律第九號ヲ以テ改正)

第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(三十二年法律第八十三號ヲ以テ改正)

一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三

二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行為ニ因リ所有

權ヲ所得シタルトキハ不動産價格ノ千分ノ十  
(三十八年法律第五十七號ヲ以テ追加)

四 第一條乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得  
船舶價格 千分ノ十五

五 從來保有セル所有權ノ保存  
船舶價格 千分ノ一

六 貸借權ノ心得  
存續期間十年未満 船舶價格 千分ノ一  
存續期間十年以上 船舶價格 千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノノ船舶價格 千分ノ一  
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録税ヲ計算ス

七 質權、抵當權ノ取得  
債權金額 千分ノ六  
但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八 競賣ノ申立  
債權金額 千分ノ六  
但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九 假差押、假處分  
債權金額 千分ノ四  
但シ假差押處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノ物ノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十 抵當アル債權ノ差押  
債權金額 千分ノ六  
但シ差押ニ付スルヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復  
船舶每一箇 金二十錢  
(三十四年法律第二十六號ヲ以テ本號改正)

十二 假登記  
船舶每一回 金二十錢  
(同上ヲ以テ追加)

十四 附記登記  
船舶每一回 金十錢(同上)  
但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢ト



十五 登記ノ更正、變更又ハ抹消

金十錢(同上)

但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二 鐵道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ町

別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ一

二 強制競賣強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ一

三 登録ノ更正變更又ハ抹消

每一件 金二圓

第三條ノ三 工場財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ

區町別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ一

二 強制競賣強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ一

三 假差押、假處分

債權金額 千分ノ一

四 登記ノ更正變更又ハ抹消

每一件 金二圓

第三條ノ四 鐵業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ

區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ一

二 強制競賣強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ一

三 假差押假處分

債權金額 千分ノ一

四 登記ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金二圓

(廿八年三月第五十八號ヲ以テ追加)

第四條 船籍ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録

稅ヲ納ムヘシ(三十二年法律第八十三號ヲ以テ改正)

一 新規登録

每十噸 金五十錢

二 轉籍

每十噸 金十錢

三 除籍

每十噸 金五錢

四 登録ノ變更

船舶每一箇 金十錢

第六條 商事會社其ノ他營利ノ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十圓未滿ナルトキハ十圓トス(三十二年法律第八十三號ヲ以テ改正)

一 合名會社、合資會社設立

財產ノ目的トスル出資ノ價格 千分ノ三

二 合名會社、合資會社出資増加

財產ノ目的トスル増出資ノ價格 千分ノ三

三 株式會社設立

拂込株金額 千分ノ四

四 株式會社資本増加

増資拂込株金額 千分ノ四

五 株式會社第二回以後ノ株金拂込

毎回拂込株金額 千分ノ四

六 株式合資會社設立

拂込株金額及財產ノ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ四

七 株式合資會社資本増加

増資拂込株金額及財產ノ目的トスル株金以外ノ出資價格 千分ノ四

八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込

毎回拂込株金額 千分ノ四

九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立

千分ノ四

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條 土地黨帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

(三十二年法律第八十三號三十五年同第八號ヲ以テ改正)

一 新規登録 地價 千分ノ二十

二 地價ノ設定 地價 千分ノ十

三 地價ノ修正 地價 千分ノ十

四 開墾 地價 千分ノ十

五 開墾後下期附與 地價 千分ノ十

六 地價据置年期附與 地價 千分ノ十

七 新開免租年期延長 地價 千分ノ十

八 鐵下年期、地價据置年期ノ延長 地價 千分ノ十

九 低價年期ノ附與 地價 千分ノ一

十 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正 地價 千分ノ一

十一 地價ノ復舊 地價 千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル



十	合併ニ因ル會社資本ノ増加 増資抽込株金額及財産ヲ目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格	千分ノ一
十一	債券發行 債權總金額	千分ノ一
十二	支店設置 每一箇所	金十四
十三	本店又ハ支店ノ移轉 每一件	金五圓
十四	支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件	金五圓
十五	登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件	金五圓
但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ 登記事項ノ變更ト看做ス		
十六	登記ノ更正又ハ抹消 每一件	金五圓
十七	解散 每一件	金三圓
十八	清算人選任、解任又ハ變更 每一件	金一圓
十九	清算ノ結了	
	支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一 件金一圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ 財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記 ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ 一 法人ノ設立(民法施行法ニ依リ法人ト認メラレタルモノノ新ニ 受クル登記トモ)	金一圓
	二 法人設立後ノ事務所設置 每一件	金三圓
	三 事務所ノ移轉 每一件	金二圓
	四 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件	金一圓
	五 登記ノ更正又ハ抹消 每一件	金一圓
	六 解散 每一件	金五十錢
	七 清算人ノ選任、解任又ハ變更 每一件	金五十錢
	八 清算ノ結了 每一件	金五十錢
	主タル事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號	

ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登録稅ヲ納ム ヘシ		
第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別 ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上法律ヲ以テ追加)		
一	商號ノ新設又ハ取得 每一件	金五圓
二	支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件	金五圓
三	船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件	金五圓
四	商法第五條第七條ニ依ル登記 每一件	金二圓
五	民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十 七條ニ依ル登記 每一件	金二圓
六	登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件	金一圓
七	登記ノ更正又ハ抹消 每一件	金一圓
支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一 件金五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ		
第七條 左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左 ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ		
一	新規登録 金二十圓	
二	登録換 金十圓	
三	取消ノ請求 金一圓	
第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師 獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (同上法律ヲ以テ假免許蹄鐵工ノ項追加)		
一	新規登録 醫師 藥劑師 獸醫 蹄鐵工 假開業醫師 假免許獸醫 假免許蹄鐵工	金二十圓 金十二圓 金十二圓 金五圓 金五圓 金三圓 金一圓
二	登録事項ノ變更 金五十錢	
第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區 別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上法律ヲ以テ改正)		
一	新規登録	



甲種船長	金十五圓
甲種一等運轉士	金十圓
甲種二等運轉士	金六圓
乙種船長	金十圓
乙種一等運轉士	金四圓
乙種二等運轉士	金三圓
丙種船長	金六圓
丙種運轉士	金二圓
機關長	金十五圓
一等機關士	金十圓
二等機關士	金六圓
三等機關士	金三圓
水先人	金二十圓
登錄事項ノ變更	金五十錢
第十條 著作權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ(同上)	
一 文藝、學術、美術ノ著作物	金十圓
但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク	
一 新聞紙及定期刊行物	

一 演劇脚本每一種一回	每一號	金五十錢
一 寫眞	每一版	金五十圓
一 著作權ノ讓渡又ハ質入	每一件	金五圓
一 無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ實名登錄	每一件	金五圓
第十一條 特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ(三十二年勅令第六十號ヲ以テ改正)		
一 讓渡又ハ共有	每一件	金十圓
二 質入	每一件	金五圓
第十二條 意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ(同上)		
一 讓渡又ハ共有	物品一類毎ニ	金二圓
二 質入	物品一類毎ニ	金二圓
第十三條 商標ニ關シ左ノ事項ノ登錄ヲ受クル者ハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ(同上)		
一 讓渡又ハ共有	每一件	金五圓
二 實施ノ許諾又ハ質入	每一件	金二圓(同上追加)

讓渡又ハ共有	商品一類毎ニ	金十圓	
第十四條 礦業權ニ關シ礦業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ			
一 試掘權ノ設定	每一件	金七十五圓	
二 試掘權ノ變更	每一件	金三十五圓	
增區又ハ増減區	每一件	金十圓	
減區	每一件	金十圓	
三 試掘權ノ移轉	每一件	金十圓	
相續	每一件	金三十五圓	
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金百五十圓	
四 採掘權ノ設定	每一件	金五十圓	
新規登錄	每一件	金五十圓	
鑛區合併	設定鑛區	每一箇	金五十圓
鑛區分割	每一件	金五十圓	
五 採掘權ノ變更	每一件	金五十圓	
鑛區訂正	每一件	金七十五圓	
增區又ハ増減區	每一件	金二十圓	
減區	每一件	金二十圓	
六 採掘權ノ移轉	相續	每一件	金二十圓

七 相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金七十五圓	
抵當權ノ設定	債權金額	千分ノ六	
新規登錄	礦業法第卅五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定	每一件	金五圓
八 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更	每一件	金十圓	
九 抵當權ノ移轉	相續	每一件	金五圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉	每一件	金十圓	
共同礦業權者ノ脱退	每一件	金五圓	
十 滯納處分以外ノ原因ニ因ル礦業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限	債權金額	千分ノ四	
十一 廢業ニ因ル礦業權ノ消滅	每一件	金五圓	
十二 登錄ノ更正、變更又ハ抹消	每一件	金十錢	
十三 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ヲキトキハ債權ノ目的タルモノノ價額ヲ以テ債權金額ト看做ス(卅八年一月法律第九號ヲ以テ本條改正)			
第十五條 (三十年法律第三十一號ヲ以テ削除)			
第十六條 (卅九年四月法律第三十五號ヲ以テ削除)			



第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徴收スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録税ヲ課セス(三十二年法律第八十三號ヲ以テ追加)

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記
- 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記(三十三年法律第四十四號ヲ以テ本號改正)
- 三 社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記(同上ヲ以テ本號中削除)

四 明治六年第十八號布告地所賃入書入規則及同八年第四百八十八號布告建物書入賃入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

第十九條ノ二 登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課税標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム(三十二年法律第八十三號ヲ以テ追加)

前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス

官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附 則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●登録税法施行規則

(明治三十二年五月勅令第二百五號)

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登録税ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所ニ送付スヘシ

第四條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第五條 土地臺帳ノ登録ニ付登録税ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徴收スルコトヲ得

第五條ノ二 管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徴收スヘシ(三十八年三月勅令第七十七號ヲ以テ追加)

第六條 登録税法第十九條ノ二ニ依ル評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五十錢以上二圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

●相續税法

(明治三十八年一月法律第十號)

第一條 相續開始シタルトキハ開始地カ帝國内ニ在ルト否トヲ問ハス又被相續人若ハ相續人カ帝國臣民タルト否トヲ問ハス本法令施行地ニ在ル相續財產ニハ本法ニ依リ相續税ヲ課ス

第二條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ左ニ掲クル財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

- 一 本法施行地ニ有ル不動産及不動産
- 二 本法施行地ニ在ル不動産ノ上ニ存スル權利

三 前二項ニ掲ケタルモノ以外ノ財產權

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ前項第一號及第二號ノ財產ヲ以テ本法施行地ニ在ル相續財產トス

船舶ノ所在ハ船籍所在ニ依ル相續開始前一年内ニ本法施行地ヨリ本法施行地外ニ轉シタルモノノ住所又ハ船籍ハ本法施行地内ニ在ルモノト看做ス

第三條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價格ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ附爲シタル贈與ノ價格ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス

- 一 公課
- 二 被相續人ノ葬式費用
- 三 債務

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續開始ノ際本法施行地ニ在ル相續財產ノ價格ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財產ニ付爲シタル贈與ノ價格ヲ加ヘタルモノヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課税價格トス



一 其ノ財産ニ係ル公課  
 二 其ノ財産ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セラルル債務  
 三 其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務  
 永代借地權ハ相續稅ノ課稅價格ニ算入セス  
 公共團體又ハ慈善事業ニ對シ贈與及遺贈ハ課稅價格ニ算入セス

第四條 相續財産ノ價格ハ相續開始ノ時ノ價額ニ依ル船舶、地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス

一 船舶ニ付テハ其ノ製造費中ヨリ製造後ノ年數ニ應シ一年ニ付其ノ二十五分ノ一宛ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ價額トス但シ製造後二十年ヲ經過シタルモノハ製造費ノ五分ノ一ヲ以テ其ノ價額トス

二 地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

殘存期間十年以下ナルモノ  
 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 二倍  
 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 三倍  
 殘存期間五十年以下ナルモノ

又ハ存續期間ノ定ナキモノ  
 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 五倍  
 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 七倍  
 地上權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 十二倍  
 永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

三 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 二倍  
 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 二倍  
 殘存期間三十年以下ナルモノ  
 又ハ存續期間ノ定メナキモノ  
 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 三倍  
 永小作權ノ目的タル土地ノ賃貸價格 五倍

四 有期定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價額トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

五 無期定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價額トス

六 終身定期金ハ目的トセラレタル人ノ年齢ニ依リ左ノ期間ニ於ケル定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價額トス

二十歳未満ノ者 十年  
 三十歳未満ノ者 八年  
 四十歳未満ノ者 六年  
 五十歳未満ノ者 四年  
 六十歳未満ノ者 二年  
 六十歳以上ノ者 一年

前項ニ於テ土地ノ賃貸價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費、保險料其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スベキ金額ヲ謂フ

第五條 條件附權利、存續期間ノ不確定ナル權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ

評定ス

第三條ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル

第六條 課稅價格カ家督相續ニ在リテハ千圓、遺産相續ニ在リテハ五百圓ニ滿タサルトキハ相續稅ヲ課セス

第七條 軍人、軍屬ノ戰死又ハ戰爭ノ爲受ケタル傷疾疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相續開始シタルトキハ相續稅ヲ課セス但シ傷疾者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

課稅價格	相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ニ依リ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系尊屬又ハ入夫ナルトキ	相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタル者ナルトキ
五千圓以下ノ金額	千分ノ十二	千分ノ十五	千分ノ二十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ十七	千分ノ二十五
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十七	千分ノ二十	千分ノ三十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十	千分ノ二十五	千分ノ三十五



三萬圓ヲ超ユル金額  
 四萬圓ヲ超ユル金額  
 五萬圓ヲ超ユル金額  
 七萬圓ヲ超ユル金額  
 十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ(百萬圓ニ至テ止ム)

千分ノ二十五  
 千分ノ三十  
 千分ノ三十五  
 千分ノ四十  
 千分ノ五ヲ加フ

千分ノ三十  
 千分ノ三十五  
 千分ノ四十  
 千分ノ四十五  
 千分ノ五ヲ加フ

千分ノ四十  
 千分ノ四十五  
 千分ノ五十  
 千分ノ五十五  
 千分ノ五ヲ加フ

遺産相續

課税價格

千圓以下ノ金額  
 千圓ヲ超ユル金額  
 五千圓ヲ超ユル金額  
 一萬圓ヲ超ユル金額  
 二萬圓ヲ超ユル金額  
 三萬圓ヲ超ユル金額  
 四萬圓ヲ超ユル金額  
 五萬圓ヲ超ユル金額  
 七萬圓ヲ超ユル金額  
 十萬圓ヲ超ユル金額ハ其ノ五萬圓毎ニ(百萬圓ニ至テ止ム)

相續人カ直系卑屬ナルトキ

相續人カ配偶者又ハ有系尊屬ナルトキノ

相續人カ其他ノ者ナルトキ

千分ノ十五  
 千分ノ十七  
 千分ノ二十  
 千分ノ二十五  
 千分ノ三十  
 千分ノ三十五  
 千分ノ四十  
 千分ノ四十五  
 千分ノ五十  
 千分ノ五ヲ加フ

千分ノ十七  
 千分ノ二十  
 千分ノ二十五  
 千分ノ三十  
 千分ノ三十五  
 千分ノ四十  
 千分ノ四十五  
 千分ノ五十  
 千分ノ五ヲ加フ

千分ノ二十五  
 千分ノ三十  
 千分ノ三十五  
 千分ノ四十  
 千分ノ四十五  
 千分ノ五十  
 千分ノ六十  
 千分ノ六十五  
 千分ノ五ヲ加フ

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相續ニ關シテハ遺産相續ニ關スル稅率ヲ準用ス

第九條 相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相續ノ承認若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相續人又ハ推定遺産相續人ニ對スル稅率ヲ適用シ相續稅ヲ課スルコトヲ得

相續人アルコト分明ナラサルトキハ稅率ノ最高キ相續人ニ對スル稅率ヲ適用シテ相續稅ヲ課ス

前二項ニ依リ課稅シタル後相續人確定シタルトキハ稅率ノ適用ヲ改訂シ稅金ノ差額ヲ徵收シ又ハ還付ス

第十條 相續稅ヲ課セラレタル後三年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

相續稅ヲ課セラレタル後五年以内ニ於テ更ニ相續開始シタルトキハ前ノ相續額ニ對スル相續稅ノ半額ニ相當スル相續稅ヲ免除ス

第十一條 相續人ハ相續開始ヲ知リタル日ヨリ遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ就職ノ日ヨリ三箇月以内ニ相續財產ノ目錄及相續財產ノ價額中ヨリ控除セラルヘキ金錢ノ明細書ヲ政府ニ提出スヘシ  
 相續カ帝國外ニ於テ開始シタルトキ又ハ前項ノ書類ヲ

提出スヘキ者カ帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ六箇月トス

相續人確定シタルトキハ前二項ノ書類ヲ提出スルト同時ニ又ハ其ノ確定ノ日ヨリ一箇月以内ニ相續人ノ相續關係ヲ記載シタル書面ヲ政府ニ提出スヘシ

第十二條 戶籍吏左ノ事項ニ關スル屆書ヲ受理シタルトキハ之ヲ收稅官廳ニ報告スヘシ

一 死亡又ハ失踪

二 戶主隱居又ハ國籍喪失

三 戶主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其ノ家ヲ去リタルコト

四 入夫婚姻ニ因リテ女戶主カ戶主權ヲ喪失シタルコト

五 戶主タル入夫ノ離婚

第十三條 課稅價格ハ政府之ヲ決定ス  
 課稅價格ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ニ通知スヘシ

第十四條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人前條ノ決定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得

相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三箇月トス



第十五條 前條ノ請求アリタルトキハ相續稅審查委員會ノ諮問ヲ經テ政府之ヲ決定ス  
審查委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 課稅價格ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十七條 相續稅ハ一時ニ之ヲ納付スヘシ但シ稅金額百圓以上ナルトキハ相續稅ニ相當スル擔保ヲ提供シ三年以内ノ年賦延納ヲ求ムルコトヲ得

前項ニ依リテ年賦延納ヲ求ムトスル者ハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ出願スヘシ  
相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ前項ノ期間ハ三箇月トス

第十八條 審査ヲ求メ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲シタル場合ト雖相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ稅金ヲ納付スヘシ

第十九條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ相續稅ヲ納付シ又ハ其ノ延納ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 相續財產ヲ以テ相續稅ヲ完納スルコト能ハサルトキハ相續開始前一年内ニ被相續人ヨリ本法施行地

ニ在ル財產ノ贈與ヲ受ケタル者ハ其ノ限度ニ於テ不足額ヲ納付スヘシ但シ相續稅ノ延納ヲ許可シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 相續稅ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人期限内ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セサルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人其ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定シ催告ニ關スル費用及稅金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ヨリ徵收スルコトヲ得

相續人二人以上ナル場合ニ於テハ各相續人ハ前項ノ徵收金ニ付連帶納付ノ責ニ任ス

第三項ノ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 左ニ掲クル場合ニ於テ本法施行地ニ在ル不動産及船舶以外ノ財產ニ付爲シタル贈與ノ價額カ五百

圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタルモノト看做シ其ノ財產ノ價格ヲ課稅價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス

一 被相續人カ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二 分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戶主又ハ家族カ分家ノ戶主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

前項ノ遺產相續ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ適用セス

第二十四條 第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相續稅ノ遺脫ヲ圖リ又ハ遺脫シタル者ハ其ノ遺脫シ又ハ遺脫セムトシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ稅金ヲ徵收シ其ノ罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十一條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ相續稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 相續稅法施行規則

(明治三十八年三月) 勅令第六十八號

第一條 相續開始地ノ稅務署ヲ以シ相續稅ノ所轄稅務署トス

相續開始地カ相續稅法施行地ニ在ラサルトキハ同法施行地ニ在ル相續財產所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス相續財產カ二箇以上ノ稅務署管内ニ在ルトキハ其ノ主タル財產ノ所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條 相續開始シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ハ相續稅法第十一條一項ニ定メタル期間内ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ニ相續財產目錄及相續財產ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ相續人二人以上ナル場合ニ於テ其ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類ヲ提出シタルトキハ他ノ相續人ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

一 被相續人ノ氏名

二 相續開始地

三 相續開始ノ日

四 家督相續、遺產相續ノ區別

五 被相續人カ相續開始前一年内ニ相續稅法施行地ニ



在ル財産ニ付贈與ヲ爲シタルトキハ其ノ財産ノ價額及受贈者ノ住所氏名

六 相續人ノ住所氏名

七 相續人ト被相續人トノ續柄

前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相續人確定セザルトキハ前項第五號及第七號ノ代リニ相續人ノ確定セザル理由ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルトキハ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ第一項第六號及第七號ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

相續稅法第二十三條ニ依リ遺產相續ノ開始ト看做サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スルヲ以テ足ル

第三條 稅務署長ハ相續財産ノ價額ヲ評定シテ課稅價格ヲ決定シ之ヲ相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ニ通知スヘシ

相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人ハ前項ノ決定ニ對シ其ノ説明ヲ求ルコトヲ得

第四條 課稅價格ノ決定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求ムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相續稅法第十四條ニ

定メタル期間内ニ所轄稅務署長ニ申出ツヘシ

第五條 稅務署長再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ課稅價格ヲ決定シ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 各稅務署所轄内ニ相續稅審査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道沖繩縣ノ區ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審査委員會ヲ置クコトヲ得

第七條 審査委員會ハ大藏大臣ノ命シタル收稅官吏二名及直接國稅百圓以上ヲ納ムル者三名ヲ以テ之ヲ組織ス

第八條 審査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第九條 審査委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員會中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第十條 審査委員會ノ會長出席セザルトキハ出席シタル審査委員會中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條 審査委員會ハ定員ノ過半数ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

第十二條 審査委員會ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相續ニ關ス

ル審査ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條 相續人二人以上ナル場合ニ於テ相續稅納付前相續財産ノ分割ヲ爲スモ相續稅ハ各相續人連帶シテ之ヲ納付スルコトヲ要ス

第十五條 相續稅ノ年賦延納ヲ求メントスル者ハ擔保ノ種類及延納期間ヲ記シ相續稅法第十七條ノ期間内ニ所轄稅務署ニ出願スヘシ

第十六條 擔保ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

二 土地

三 建物

四 稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條 擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十八條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リ

タリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條 年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條 増擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セザルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ取消シ税金ヲ一時ニ徵收スヘシ年賦延納金滯納ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十一條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ滯納シタルトキハ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ其ノ税金ニ充テ保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ其ノ税金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ税金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ之ヲ公賣ニ付シ相續稅及公賣ノ費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

保證人ニ於テ税金ヲ完納セザルトキハ納稅者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍税金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第二十二條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 相續人、遺言執行者又ハ相續財産管理人相續



稅法第十一條ニ依ル書類ヲ期限迄ニ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ期間ヲ定メテ之ヲ催告スヘシ前項ノ期間内ニ書類ヲ提出セサルトキハ所轄稅務署長ハ其ノ認ムル所ニ依リ課稅價格ヲ決定ス

附 則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●酒造稅法 (明治二十九年三月法律第二十八號)

第一條ノ一 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス

第一條ノ二 此ノ稅法ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ左ニ掲クルモノハ清酒ト看做ス

一 前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕、又ハ燒酎ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

二 清酒又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕漉シタルモノ

三 清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內燒酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ

第一條ノ三 此ノ稅法ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ

前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、若ハ稗ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス

第一條ノ四 此ノ稅法ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シテ碾碎シタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト看做ス

第一條ノ五 此ノ稅法ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米麴ト清酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シ濾過シタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノハ味淋ト看做ス

第一條ノ六 此ノ稅法ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ左ニ掲クル物品ヲ原料トシテ蒸餾シタルモノハ燒酎ト看做ス

一 清酒

第五種 酒精分二十度ヲ超ユル清酒、濁酒、白酒、酒

酒精分三十度ヲ起ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超

ユル燒酎 一石ニ付 酒精分一度毎ニ

金一圓

(卅八年法律第二號又四十二年三月法律第十八號ヲ以テ改正)

前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

第五條 政府ハ一酒造年度間清酒ハ百石濁酒ハ五十石燒

酎ハ五十石以上ヲ製造スル者ニ非サレハ酒類製造ノ免許

ヲ與ヘス但シ清酒又ハ濁酒制限石數以上ヲ製造スル者

ニハ他ノ酒類ニ關スル制限ヲ適用セス (三十二年法律第二

十三號ヲ以テ改正三十四年同第十八號ヲ以テ條中削除)

酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者本條ノ制限石數以上ノ製

造ヲ爲サザリントキハ變更其ノ他已ムヲ得サル事故ニ

因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル造

石稅ヲ課ス但シ其ノ製造セザリシ石數ニ對シテハ其ノ

年五月一日ヨリ九月三十日マテニ査定シタルモノト看

做シ第四條第一項ノ稅率ニ依リ其ノ造石稅ヲ徵收ス

第六條 造石稅ノ納期ヲ分テ左ノ四期トス (同上)

第一期 七月十六日ヨリ同三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ

二 濁酒

三 味淋粕

四 米、麥、粟、黍稗若ハ甘藷ト麴及水トヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受ク可シ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ム可シ

第三條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテヲ以テ一酒造年度トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應ジ左ノ例

合シ以テ造石稅ヲ課ス (四十二年三月法律第十八號ヲ以テ改正)

第一種 酒精分二十度以下ノ清酒、濁酒、白酒、及酒精分三十度以下ノ味淋燒酎 一石ニ付 金二十圓

第二種 酒精分三十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金二十五圓

第三種 酒精分四十度以下ノ燒酎 一石ニ付 金三十圓

第四種 酒精分四十五度以下ノ燒酎 一石ニ付 金三十五圓



係ル税額四ノ一

第二期 十月十六日ヨリ同三十一日限  
同上

第三期 翌年二月十六日ヨリ同二十八日限  
同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石  
數ニ係ル税額二分ノ一

第四期 翌年三月十六日ヨリ同三十一日限  
前納額殘數

第七條 第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル  
トキ又ハ酒類ヲ製造スル者納税保證物ノ免除ヲ得スシ  
テ保證物ノ提供ヲ爲ササルトキハ前條ノ納期ニ拘ハラ  
ス造石税ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ造石税ヲ徵  
收スル場合ニ於テハ納税ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フル  
コトヲ得 (四十一年法律第二十號ヲ以テ改正)

第八條 酒造ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス  
酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り  
命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分二以内ノ滓引減量  
ヲ控除スルコトヲ得  
犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テ  
ハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納税保證トシテ一酒造年  
度見込造石數一石ニ付金四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル  
金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許  
可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ  
提供スルコトヲ得 (同上)

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石  
數ヨリ十石以上増加シタルトキハ其ノ石數ニ應シ前項  
ノ割合ニ依リ保證物ヲ増補スヘシ

毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造  
石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ増石數ニ應シ  
第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減少ヲ請フコトヲ得

酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタルト  
キ又ハ造石税ニ關シテ滯納處分ヲ受ケタルトキハ爾後  
三年間政府ハ造石税全額マテノ保證物提供ヲ命スルコ  
トヲ得

前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ  
除クノ外保證物ノ増減ヲ爲サス

保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス  
一 相當ノ納税保證人ヲ供シタルトキ

第九條 粕漙シタル酒類ハ粕漙ニ依リ増加シタル分ノミ  
ニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醗ハ左ノ場合ニ  
於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定  
ス

- 一 他人ニ讓渡ストキ
- 二 公賣セラルルトキ
- 三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ  
造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ  
造石税ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ハ其ノ造石數ヲ免除スルコトヲ得但  
シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス  
(三十一年法律第二十三號ヲ以テ改正)

- 一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ
- 二 廢敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ  
飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ
- 三 廢敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサル  
ニ至リタル酒類ニシテ燒酎ノ製造ニ供スルモノ  
(同上改正)

四 容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脱去ニ依リ酒類ノ亡

二 納税保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存ス  
ルトキ

三 造石税ヲ前納シタルトキ

四 酒類ヲ製造スル者ノ屬サル酒造組合ニ於テ納税ヲ  
擔保シタルトキ (三十一年法律第二十三號ヲ以テ追加)

第十五條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ納メサルニ依リ滯  
納處分ヲ執行スルトキハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ  
有スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又  
ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格徵收スヘキ税金額及  
滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ  
財産ニ就キ滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス  
(三十一年法律第二十三號ヲ以テ改正)

第十六條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサル  
トキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ノ各  
組員ハ納税者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第十七條 酒類ヲ製造スル者納税保證トシテ保存ノ義務  
ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又  
ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ  
酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ  
移出スルコトヲ得ス

移出スルコトヲ得ス



第十九條 收稅官吏ハ酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築物、材料、器械其ノ他物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得 (三十四年法律第七號ヲ以テ改正)

第二十條 (廿八年一月法律第三號ヲ以テ削除)

第二十一條 (同上削除)

第二十二條 免除ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル者ハ三十圓以上五千圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒類及其ノ容器器具器械ヲ沒收ス

前項ノ酒類ニ付テハ第六條ノ納期ニ拘ハラヌ其ノ造石稅ヲ徵收ス

第二十三條 (廿八年一月法律第二號ヲ以テ削除)

第二十三條ノ二三 (同上ヲ以テ削除)

第二十四條 酒類ヲ製造スル者詐僞其他ノ不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス (同上ヲ以テ條中改正)

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十

圓ヲ下ルコトヲ得ス (同上)

第二十六條 納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滞納處分ヲ受クルモ仍稅金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス (同上)

第二十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醪ノ検査ヲ免カレ又ハ免カレムトシタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス (三十二年法律第二十號及三十四年同第七號ヲ以テ條中改正)

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ三十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス (三十四年法律第七號ヲ以テ條中改正)

第二十九條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若クハ怠リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス (同上ヲ以テ改正)

第三十條 酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ハ刑法ノ不論罪及

減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用弗ス但シ刑法第七

十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス (三十四年法律第七號ヲ以テ改正)

第三十三條 第二十四條乃至第二十八條ニ依リ處罰又ハ處分セラレタル者ニ對シテハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス (四十二年三月法律第十八號ヲ以テ改正)

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ稅法ノ規程ニ從フモノトス (四十二年三月法律第十八號ヲ以テ改正)

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石稅ヲ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル

名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス (三十一年法律第二十三號ヲ以テ改正)

第三十五條ノ二 此ノ稅法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ稅法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ此ノ稅法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ酒類ノ石數ニ應シ第四條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒類及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス (四十二年三月法律第十八號ヲ以テ本條追加)

附 則

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十一號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ稅法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日前檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍ホ明治十三年布告第四十號ニ依ル

第三十八條 (四十二年三月法律第十八號ヲ以テ削除)



第三十九條 (同上削除)  
第四十條 (卅八年三月法律第三號ヲ以テ削除)  
附 則 (三十四年法律第七號)

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒類ニハ同稅率ヲ適用ス

●酒造稅法施行規則 (明治二十九年八月勅令第二百八十七號)

第一條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ酒類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ (三十四年勅令第六十四號ヲ以テ全條改正)

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ  
一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒造稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ (卅八年一月勅令第三號ヲ以テ追加)

第二條 酒類ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ム可キモノヲ謂フ  
第三條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面竝ニ酒造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ稅務署長ニ提出ス可シ但シ酒類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ此ノ限ニ在ラス (三十四年勅令第六十四號ヲ以テ但書追加三十五年勅令第二百五十三號ヲ以テ本令中稅務署長ニ改ム)

前項ノ容器、器具、器械ヲ修理シ及ハ前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ酒類製造主ノ居所氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ  
第四條 酒類製造主ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサルハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス  
第五條 酒類製造主ハ每酒造年度ニ於テ製造スヘキ每酒類ノ見込造石數、製造着手ノ時期製造方法及仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業着手前ニ本項ノ申告ヲ爲スヘシ (三十一年勅令第三百六十二號ヲ以テ但書追加)

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受クヘシ

第六條 酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ (三十四年勅令第六十四號ヲ以テ本項改正)

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受ク可シ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許ヲ取消ヲ求ム可シ

第六條ノ二 酒類製造主其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第六條ノ三 酒類製造主其ノ製造場ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第六條ノ四 變異其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒造稅法第五條ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザリシ事由ノ證明ハ酒造年度終了後三箇月以内ニ之ヲ爲スヘシ (卅八年一月勅令第三號ヲ以テ追加)

第七條 酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條 酒造稅法第八條第二項但書ニ依リ滓引減量トシテ控除スルハ査定石數ノ百分ノ二トス  
犯則ニ係ル清酒ニ關シテハ滓引減量ヲ控除セス (三十四年勅令第六十四號ヲ以テ改正)

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ膠、酒精ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定ス可シ (同上ヲ以テ條中改正) (四十一年三月勅令第三十八號ヲ以テ改正)

第十一條 酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ檢査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ノ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第十二條 酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ消費スルトキハ其ノ公賣セラルルトキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石數ヲ査定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量時期等ヲ稅務署長ニ申告ス可シ



第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原  
酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石  
數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類  
ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其ノ造石數  
ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醗ヲ他人ニ讓  
渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトス  
ルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第十七條 酒母、醗又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗  
シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告  
ス可シ

第十八條 酒造稅法第十二條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハ  
ムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ  
申請ス可シ (三十二年勅令第三百六十二號ヲ以テ修正)

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ  
事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類  
トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキ  
ハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ (三十二年勅令第三百六十二號  
ヲ以テ修正)

腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至  
ル

リタル酒類ヲ以テ燒酎ノ製造用ニ供セムトスル者ハ稅  
金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎ノ原料品ノ取扱ヲ  
爲スヘシ (三十四年勅令第四百六十四號ヲ以テ本項中改正)

第二十條 酒類製造主ハ酒類製造著手前ニ保證物ヲ提供  
スヘシ但シ酒造稅法第十三條第一項但書ニ依リ造石數  
査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製  
造著手前ニ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ (三十二年勅令第  
三百六十二號ヲ以テ修正)

保證物ヲ増補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直  
ニ之ヲ提供スヘシ

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造稅  
法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クル者ニ限ル  
一 金錢  
二 稅務署ニ於テ確實ト認ル有價ノ證券  
三 土地  
四 火災保險ニ付シタル建物 (四十一年三月勅令第三十八  
號ヲ以テ修正)

第二十二條 保證物ノ保證價格ハ特別ノ規定アルモノヲ  
除ク外ノ稅務署長ノ定ムル所ニ依ル(同上)

第二十三條 保證物中金錢、有價證券ハ提供者之ヲ供託  
ス

シ其供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出シ土地建物ニ關シ  
トテハ稅務署ニ於テ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘ  
シ (三十四年勅令第四百六十四號ヲ以テ修正)

第二十四條 保證物トシテ提供シタル有價證券ノ償却ヲ  
受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ  
又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ稅務署  
長ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ  
對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物  
トシテ供託スヘシ (四十一年三月勅令第三十八號ヲ以テ修正)

第二十五條 酒造稅法第十三條ノ保證物ヲ提供セザルト  
キハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、質  
入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコト  
ヲ得

第二十六條 納稅保證人ハ稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪  
フル資力アリト認ムル者ニ限ル

第二十七條 稅務署長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪  
ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコ  
トヲ得

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有  
スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 稅務署長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有  
スル酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

スル酒類納稅保證ニ適セザルニ至リタリト認ムルトキ  
ハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主ハ稅務署長ニ申出保證物納稅保證  
人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ  
得

第三十一條 酒類製造主稅金ヲ納メザルトキハ納稅保證  
人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ稅金ヲ  
納メシムヘシ (三十二年勅令第三百六十二號ヲ以テ修正)

納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ稅金  
ヲ完納セザルトキハ酒類製造主ニ對シ滯納處分ヲ行フ  
ヘシ

前項滯納處分ノ後仍稅金不足アルトキハ納稅保證人  
又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シ滯納  
處分ヲ行フヘシ

第三十二條 同一製造場内ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セ  
ムトスル者ハ其ノ醸造藏置ニ供スル場所ヲ酒類別ニ特  
定シ稅務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 稅務署長容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲シタ  
ルトキハ之ニ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記  
又ハ烙記スルコトヲ得

第三十四條 收稅官吏ハ臨時酒類製造場又ハ酒類販賣場  
ニ於テ酒類ノ封緘ヲ附スルコトヲ得



ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ検査スヘシ(三十四年勅令第六十四號ヲ以テ改正)

第三十五條 收稅官吏ハ搾器械、蒸溜器械ノ使用停止中ニ封緘ヲ附スヘシ但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得收稅官吏ハ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ封緘ヲ爲ササルコトアルヘシ

收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ酒粕又ハ原料用酒類ニ封緘其他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得(三拾八年一月勅令第三號ヲ以テ改正追加)

第三十六條 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條 收稅官吏カ必要ト認メテ酒造用原料品ヲ指定シ其ノ使用前検査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ検査ヲ受クヘシ(同上改正)

第三十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ竝ニ一仕込毎ニ酒母及醪ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ彼此混淆スルコトヲ得ス

第三十九條 左ニ掲グル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第四十條 酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母醪又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ

第四十一條 二仕込以上ノ醪ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚ケムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ七仕込以上ノ醪ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條 酒粕ハ其ノ搾揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ検査スヘシ

酒類製造主ハ前項検査後ニアラサレハ酒粕ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒粕ト混合スルコトヲ得ス

第四十三條 酒造法第三十三條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母醪其ノ他半製品現存スルトキハ稅務署長ハ酒類製造主ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ(四十一年三月勅令第三十八號追加)

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒附又ハ酒精ノ造り込、酒類ノ藏出受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

附 則

第四十四條 酒造稅法施行前ニ於テ明治三十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ尙ホ引續キ酒造稅法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ

第四十五條 酒造稅法第三十六條ニ該當スル者ハ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ稅務署長ニ免許ヲ申請スヘシ

附 則 (三十一年勅令第三百六十二號ヲ以テ追加)  
本令ハ明治三十一年法律第二十三號實施ノ日ヨリ施行ス  
酒造稅法第十三條ニ依リ増補スヘキ保證物ハ明治三十二年一月一日以後製成スヘキ酒類ノ見込石數ニ依リ提供スヘシ

●酒造組合法

(明治廿八年一月) 法律第八號

第一條 本法ニ於テ酒類製造者ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ製造スル者ヲ謂フ

第二條 酒類製造者ハ稅務署管内ヲ一區域内トシ酒造組合ヲ設クルコトヲ得但シ土地ノ狀況ニ從ヒ特別ノ區域

ニ依ルコトヲ得

第三條 酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ目的トス

第四條 酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ其區域内ニ於ケル酒類製造者三分ノ二以上ノ同意ヲ得創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 酒造組合設置ノ認可アリタルトキハ其ノ區域内ニ於ケル同種酒類ノ製造者ハ當然其ノ組合員ト爲ル

第六條 酒造組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其目的ヲ達スル爲メ酒造組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

酒造組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 酒造組合及酒造組合聯合會ハ法人トス

第八條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ定款ノ變更ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 政府ハ酒造組合又ハ酒造聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法令若ハ定款ノ規定ニ違背シ又ハ公



益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ其ノ行爲ヲ制止シ、役員ノ改選ヲ命シ又ハ組合若ハ聯合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第十一條 本法ニ規定スルモノ、外酒造組合又酒造聯合組合ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第十二條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 酒造税法ニ依リ設立シタル酒造組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ施行ス

前項ノ酒造組合ニシテ其ノ區域内ニ於ケル酒類ノ製造者各種毎ニ三分ノ二以上ヨリ成立スルトキハ同區域内ニ於テ未タ組合ニ加入セサル同種酒類ノ製造者ハ本法施行ノ日ヨリ當然組合員ト爲ル

●酒造組合法施行規則 (廿八年六月勅令第八號)

第一條 酒造組合法ニ依リ酒造組合ヲ設置セムトスルトキハ五名以上ノ同業者ニ於テ其ノ組合ノ區域及酒類ヲ定メ發起ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第二條 酒造組合設立發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ其ノ組合ノ區域内ニ於ケル同業者ニ左ノ事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ

一 組合ノ名稱、區域及酒類  
二 組合員タルヘキ者ノ數但シ各種酒類毎ニ之ヲ區別スヘシ

三 組合事業ノ概目

四 創立費及經費ノ概算

五 同意表示ノ形式及期間

第三條 法定ノ同意アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作り遲滞ナク創立總會ヲ召集スヘシ

創立總會ヲ召集スルトキハ少クとも二週間前ニ會議ノ目的、日時及場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第四條 定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

但シ二種以上ノ酒類製造者組合員タルヘキ場合ニ於テハ各種酒類製造者毎ニ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第五條 創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ委任シテ其ノ表決權ヲ行フコトヲ得

第六條 創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ法定ノ同意

者アリタルヲ證スル書類、定款及創立總會ノ決議錄ノ謄本ヲ添附シ組合設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第七條 創立總會ニ於テハ其ノ議定シタル定款ノ規定ニ從ヒ役員ヲ選舉シ又ハ經費ノ豫算並徵收方法ヲ議定スルコトヲ得

第八條 發起人發起ノ認可アリタル後六箇月以内ニ組合設立ノ認可ヲ申請セサルトキ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第九條 酒造組合聯合會ノ創立總會ハ其ノ聯合會ヲ組織セムトスル組合ニ於テ選定シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條 酒造組合聯合會ノ創立總會ヲ終リタルトキハ酒造組合聯合會設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ定款ヲ添附スヘシ

第十一條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

- 二號及第十三號ノ記載ヲ要セス
  - 一 名稱
  - 二 區域
  - 三 酒類
  - 四 事務所ノ所在地
  - 五 事業
  - 六 役員ノ權限及其ノ選任解任ニ關スル規定
  - 七 總會召集ノ方法
  - 八 會議ノ方法
  - 九 經費ノ負擔及其ノ徵收方法
  - 十 定款違反者處分ノ方法
  - 十一 定款ノ變更ニ關スル手續
  - 十二 酒類製造者ノ遺石稅納付ヲ擔保スル場合ニ於ケル決議方法
  - 十三 酒造税法施行規則第三十一條第一項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於ケル處分方法
  - 十四 加入及脱退ニ關スル規定
  - 十五 解散ニ關スル規定
- 定款ニハ前項各號ニ掲クルモノノ外酒造組合又ハ酒造組合聯合會ニ於テ必要トスル事項ヲ記載スルコトヲ得
- 第十三條 定款ノ變更ヲ議定シタルトキハ認可申請書ニ



其ノ變更シタル定款及變更ノ理由書ヲ添附シ地方長官ニ提出スヘシ

第十四條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ  
組合長又ハ聯合會長 一名

評議員 若干名  
前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長ハ組合員中ヨリ、聯合會長ハ聯合會ヲ組織スル酒造組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第十五條 組合長又ハ聯合會長ハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ヲ代表シ之ヲ統轄ス

組合長又ハ聯合會長故障アルトキハ定款ノ規定ニ依リ他ノ役員之ヲ代理ス

評議員ハ組合長又ハ聯合會長ノ諮詢ニ應シ又ハ定款ノ規定ニ依リ組合又ハ聯合會ノ事務ノ一部ヲ分掌ス

第十六條 組合長又ハ聯合會長ノ解任アリタルトキ及他ノ役員ノ選任又ハ解任アリタルトキハ酒造組合又ハ酒造組合聯合會ヨリ其ノ氏名ヲ地方長官及稅務監督局長

ニ報告スヘシ

第十七條 組合又ハ組合聯合會ニ於テ定款ノ執行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ其ノ都度地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第十八條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ組合員ノ製品ヲ検査スルコトヲ得

酒造組合又ハ酒造組合聯合會ハ定款ノ規定ニ依リ違約者ニ對シ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第十九條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會ノ經費ノ豫算並徵收方法ハ定款ニ從ヒ之ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務擴張成績ハ每年少クトモ一回酒造組合ニ在リテハ組合聯合會ニ在リテハ其ノ組合ニ公示シ且地方長官及稅務監督局長ニ報告スヘシ

第二十條 役員ノ闕ケタル場合ニ於テ補闕選舉ノ手續ヲ行フヘキ者アラサルトキハ地方長官ハ組合員ヲ指定シテ其ノ手續ヲ行ハシム

第二十一條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ三分ノ二以上ノ同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

二十二條 酒造組合又ハ酒造組合聯合會解散シタルトキハ組合長又ハ聯合會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

二十三條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者アラサルトキハ地方長官之ヲ選任ス

二十四條 清算人其ノ任ニ適セス又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ改任スルコトヲ得

二十五條 清算終了シタルトキハ其ノ結果ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

二十六條 酒造組合法第十條ノ處分ハ地方長官之ヲ行フ

二十七條 本令中酒造組合又ハ酒造組合聯合會ニ關シ地方長官ニ關スル事務ニシテ二府縣以上ニ渉ルモノハ大藏大臣之ヲ行フ

附 則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前酒造組合規則ニ依リ爲シタル酒造組合設置ノ手續ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス但定款ニ記載スヘキ事項ニシテ組合契約書ニ記載ナキモノハ之ヲ議定シ本令施行後三箇月以内ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

●酒精及酒精含有飲料稅法

(明治三十四年三月法律第八號)

第一條 酒精及酒精ヲ含有スル飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス

第二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ金一圓ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シテ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付金三十一圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス(四十二年三月法律第十九號ヲ以テ改正)

第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗温器十五度ノ時ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス

第三條ノ二 本法ニ於テ葡萄酒ト稱スルハ葡萄酒ノ汁ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

左ニ掲クルモノハ葡萄酒ト看做ス

一 葡萄酒ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十四ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

但シ葡萄酒ノ汁液一石ニ付精製糖二十五斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 葡萄酒ノ汁液又ハ前號ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル葡



葡萄ノ汁液ヲ純炭酸石灰ヲ以テ除酸シ醱酵セシメタルモノ

三 葡萄酒又ハ前二號ニ依リ葡萄酒ト看做シタルモノ

ニ其ノ容量百分ノ一以内ノ酒精ヲ混和シタルモノ

第三條ノ三 本法ニ於テ果實酒ト稱スルハ葡萄酒ヲ除クノ

外果實ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

葡萄酒ヲ除クノ外果實ノ汁液ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其

ノ糖分ヲ補充シ又ハ其酸ヲ稀釋シ醱酵セシメタルモノ

ハ果實酒ト看做ス (廿八年一月法律第四號追加)

第四條 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)

ニハ本法ヲ適用セス (同上改正)

第五條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者ハ製

造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止

セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第五條ノ二 政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度

間ノ製造石數酒精ニ在リテハ五十石酒精ヲ含有スル飲

料ニ在リテハ十石以上ニ非サレハ製造ノ免許ヲ與ヘ

ス

酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者

前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サリシトキハ變災其

ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレ

ハ制限石數ニ相當スル造石税ヲ課ス其ノ製造セザリシ

石數ニ對スル造石税ハ一石金二十一圓ノ割合ニ依ル

(四十一年三月法律第十九號ヲ以テ追加)

第六條 造石税ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ

之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス

前條第二項ニ依ル造石税ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ム

ヘシ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内ト

ス (同上改正)

第七條 第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ含有スル

飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國稅徵收法第四條

ノ一ニ依リ造石税ヲ徵收スル場合ニ於テハ納税ノ擔保

トシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ差押フルコトヲ

得 (同上改正)

第八條 同一製造場内ニ於テ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲

料ヲ製造スル爲原料トシテ使用スル酒精又ハ酒精ヲ含

有スル飲料ニハ造石税ヲ課セス

前項ノ規定ニ依ラムトスル者ハ其ノ原料用ノ酒精又ハ

酒精ヲ含有スル飲料ニ付製成ノ時石數ノ檢定ヲ受クル

コトヲ要ス

第九條 製造石數ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製成

シタル時實測シテ之ヲ査定ス但シ前條ニ依リ檢定シタ

ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ此ノ限ニ在ラス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ

現在ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料若ハ證憑物件ニ就

キ製造石數ヲ査定シ造石税ヲ課ス

第十條 第八條ニ依リ檢定シタル酒精又ハ酒精ヲ含有ス

ル飲料ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ檢定石數ヲ以テ査定石

數トシ造石税ヲ課ス

一 他人ニ讓渡サレタルトキ

二 公賣セラレタルトキ

三 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造用外ニ消費セラ

レタルトキ

第十一條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ災害ニ罹

リ亡失シタルトキハ其ノ造石税ヲ免除スルコトヲ得但

シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者

ハ其ノ製造石數査定前ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入

シ消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又

ハ之ヲ販賣スル者ハ其ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ

其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ酒精又ハ酒精ヲ

含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持

ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料、其ノ製造、出入

ニ關スル一切ノ帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナ

ル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督

上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケスシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲

料ヲ製造シタル者ハ其ノ造石税五倍ニ相當スル罰金ニ

處シ仍其ノ製造ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及

其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但シ罰金ハ三十圓ヲ下ル

コトヲ得ス (同上改正)

第十六條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者詐

僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ノ査定ヲ免カ

レ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石税五倍ニ相當ス

ル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者故

意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ造石税ノ免除ヲ得ム

トシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ造石税五倍ニ

相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 第十二條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓

以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又



ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料若ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ四十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者其ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若クハ怠リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十二條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用非ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十三條ノ二 第十六條乃至第十八條ニ依リ處罰又ハ處分セラレタル者ニ對シテハ政府ハ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認

ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其他必要ノ行為ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス (四十二年三月法律第十九號ヲ以テ改正)

第二十四條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ノ製造ヲ廢止シタル者及ヒ其ノ相續人ハ造石稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

第二十四條ノ二 葡萄酒及果實酒ニハ第五條、第十三條、第十四條及第十九條乃至第二十三條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス  
免許ヲ受ケスシテ葡萄酒又ハ果實酒ヲ製造シタルモノハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス (廿八年一月法律第四號ヲ以テ追加)

第二十四條ノ三 本法ヲ施行セザル地ニ於テ製造シタル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ヌ者ハ其ノ石數ニ應シ第二條ノ稅率ニ從テ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハズ之ヲ沒收ス (四十二年三月法律第十九號ヲ以テ本項追加)

附 則

第二十五條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ同日前ニ於テ製成シタル酒精ニハ舊稅率ヲ適用ス

第二十六條 混成酒稅法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ於テ製造シタル混成酒ニハ仍該法ヲ適用セス

第二十七條 (同上ヲ以テ例除)

附 則 (四十二年三月法律第十九號ヲ以テ追加)  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行前酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ明治四十五年二月末日迄ハ第五條ノ二第二項ノ規定ヲ適用セス  
非常特別稅法中酒精又ハ酒精含有飲料ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

● 酒精及酒精含有飲料稅法施行規則

(明治三十四年八月勅令第六十五號)

第一條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ  
第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒

精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二 精酒及酒精含有飲料稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ (廿八年一月勅令第四號ヲ以テ改正)

第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及ヒ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製



造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造用容器器具器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ製造著手ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 酒精又ハ酒精含有飲料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒精又ハ酒精含有飲料製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第六條ノ二 酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造場ヲ

移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ (廿八年一月勅令第四號ヲ以テ改正)

第七條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條ノ二 變更其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒精及酒精含有飲料稅法第五條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サ、リシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ (四十二年勅令第三十九號追加)

第八條 酒精及酒精含有飲料稅法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飲料ハ製造場内ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飲料ト區別シテ藏置スヘシ

第九條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ原料廢棄、亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 酒精及酒精含有飲料稅法第十一條ニ依リ遺石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リ

テハ引取ノ日及其ノ引取先

二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三 製造シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類數量及其ノ製成ノ日

四 他ニ引渡シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條 酒精又ハ酒精含有飲料販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引取ノ日及引取先

二 販賣シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條 收稅官吏ハ隨時酒精又ハ酒精含有飲料製造場又ハ販賣場ニ就キ酒精又ハ酒精含有飲料其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 左ニ損クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒精又ハ酒精

含有飲料製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

一 醱酵液若ハ原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ

二 濾過、蒸餾又ハ調合ニ着手セムトスルトキ

三 原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

四 酒精又ハ酒精含有飲料ノ殘滓等ヲ製造場外ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セムトスルトキ

五 自己ノ所有ト否ト問ハス製造用容器器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

六 製造場外ヨリ製造場内ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ移入セムトスルトキ

七 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ (廿八年一月法律第四號ヲ以テ改正)

第十六條 酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ二依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ (四十二年勅令第三十九條ヲ以テ改正)

第十七條 收稅官吏ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者及販



賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附 則

第十八條 本令施行前酒造税法又ハ混成酒税法ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令第一條第一項及第三條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス  
第十九條 本令施行前ヨリ引續キ酒精含有飲料ヲ製造スル者ニハ本令施行ノ際ニ限リ第四條第二項ヲ適用セス

● 麥酒税法

(明治三十四年三月法律第十二號)

第一條 麥酒(ビール)ニハ本法ニ依リ麥酒稅ヲ課ス  
本法ニ於テ麥酒ト稱スルハ麥芽、「ホップ」及水ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ謂フ  
前項原料ノ外總重量麥芽ノ十分ノ五ヲ超エサル米、玉蜀黍又ハ砂糖ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノハ麥酒ト看做ス(卅八年一月法律第五號及四十一年法律第二十號ヲ以テ改正)  
第二條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ヲ取消ヲ求ムヘシ  
第三條 麥酒稅ハ麥酒一石ニ付金十圓ノ割合ヲ以テ其ノ

製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス

(四十一年三月法律第二十號ヲ以テ改正)

第三條ノ二 政府ハ其ノ年三月ヨリ翌年二月迄ノ一年度ノ製造石數千石以上ニ非サレハ麥酒製造ノ許可ヲ與ヘス  
麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サ、リシトキハ變異其他已ムヲ得サル事故ニ因ルコトヲ證明スルニ非サレハ制限石數ニ相當スル麥酒稅ヲ課ス(四十一年三月法律第二十號ヲ以テ本項追加)  
第四條 麥酒稅ハ毎月中ノ査定石數ニ依リ翌月中ニ於テ一時ニ之ヲ納ムヘシ但シ免許ヲ取消シタルトキハ即納トス(同上改正)  
前條第二項ニ依ル麥酒稅ハ翌年三月末日迄ニ之ヲ納ム可シ但シ免許取消ノ場合ニ於テハ取消後三十日以内トス(四十一年三月法律第二十號追加)  
第五條 第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ麥酒稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ納稅ノ擔保トシテ麥酒ヲ差押フルコトヲ得(四十一年三月法律第二十號ヲ以テ改正)  
第六條 麥酒ノ製造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ麥酒又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數ヲ査定シ麥酒稅ヲ課ス

第七條 災害ニ罹リ亡失シタル麥酒ニ關シテハ其ノ麥酒稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條 麥酒ヲ製造スル者ハ製造石數査定前ニ於テ其ノ麥酒ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ麥酒ノ製造、出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十條 收稅官吏ハ命令ノ規定ニ依リ麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル麥酒、其ノ製造、出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及麥酒製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 免許ヲ受ケスシテ麥酒ヲ製造シタル者ハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍其ノ麥酒及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス(四十一年三月法律第二十號ヲ以テ改正)

第十二條 麥酒ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ其ノ製造石數ヲ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 麥酒ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ麥酒稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ申請ニ係ル總石數ノ麥酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條 麥酒ヲ製造スル者第八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者其ノ原料又ハ帳簿書類ヲ隱蔽シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者麥酒ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條 本法ヲ犯シタル者ハ刑法ノ不諭罪及減輕、



再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弗ス但シ刑法第七十五條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 麥酒ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ麥酒製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十九條ノ二 第十二條乃至第十四條ニ依リ處罰又ハ處分セラレタル者ニ對シテハ政府ハ、麥酒製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

前項ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製成其ノ他必要ノ行為ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ規定ヲ適用ス(四十一年三月法律第二十號ヲ以テ本條追加)

第二十條 麥酒製造ノ免許ヲ取消サレタル者及其ノ相續人ハ麥酒稅完納前ニ在リテハ總テ本法ノ規定ニ從フ

第二十條ノ二 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル麥酒ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ本法輸入地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ石數ニ應ジ第三條ノ稅率ニ從ツテ算出シタル稅額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得

前項ノ麥酒及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス(四十一年三月法律第二十號ヲ以テ追加)

附 則

第二十一條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本法施行前ヨリ麥酒ノ製造ヲ爲ス者本法施行後十日以内ニ於テ製造場一箇所毎ニ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

附 則 (四十一年三月法律第二十號追加)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行前麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ニハ明治四十五年二月末日迄ハ第三條ノ二第二項ノ規定ヲ適用セシ非常特別稅法中麥酒ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●麥酒稅法施行規則(明治三十四年八月勅令第百六十八號)

第一條 麥酒ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轉稅務署ニ提出スヘシ  
第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ麥

酒製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 麥酒稅法若ハ本令ニ違反シタル者ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ(卅八年一月勅令第五號ヲ以テ改正)

第二條 麥酒ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 麥酒製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面製造用容器、器具、器械ノ目錄及麥酒製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ  
第四條 麥酒製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務

署ハ之ニ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ麥酒製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 麥酒製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ休止後製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條 麥酒製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ  
相續ノ場合ヲ除クノ外麥酒製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ麥酒製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ麥酒稅法

第二條ニ依リ其ノ免許ヲ取消ヲ求ムヘシ(卅八年一月勅令第五號ヲ以テ改正)  
第六條ノ二 麥酒製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ(同上追加)

第七條 麥酒製造者其ノ製造場ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ  
第七條ノ二 變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ麥酒稅



法第三條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以内ニ之ヲ爲スヘシ (四十二年三月勅令第四十號ヲ以テ追加)

第八條 製造石數査定ハ濾過シタル時ニ於テス

第九條 麥酒醸造中醱酵液廢棄、亡失其ノ他醱酵液ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條 麥酒稅法第七條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條 麥酒製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル麥酒ノ數量及其ノ製成ノ日
- 四 他ニ引渡シタル麥酒ノ數量、價額、引渡ノ日及引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條 麥酒販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

八 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ (卅八年一月勅令第五號ヲ以テ改正)

第十六條 麥酒稅法第十九條ノ二ニ依リ麥酒製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ麥酒製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ (四十一年三月勅令第四十號ヲ以テ追加)

第十七條 收稅官吏ハ麥酒製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附 則

第十八條 本令第四條第二項ハ本令施行ノ際ニ限り麥酒稅法第二十二條ニ依リ麥酒ノ製造ヲ申告シタル者ニ之ヲ適用セス

● 酒母醱及麴取締法 (明治三十八年一月法律第七號)

第一條 本法ハ酒造稅法ニ依リ酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製造スル者、販賣ノ爲ニ麴ヲ製造スル者及麴ヲ請買スル者ニ之ヲ適用ス

第二條 酒母、醱又ハ麴ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ

- 一 引取リタル麥酒ノ數量、價額、引取ノ日及引取先
- 二 販賣シタル麥酒ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス
- 第十三條 收稅官吏ハ隨時麥酒製造場又ハ販賣場ニ就キ麥酒、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ
- 第十四條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得
- 第十五條 左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命ジタルトキハ麥酒製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 麥芽汁ヲ醱酵桶ニ入レムトスルトキ
- 二 醱酵液ヲ他ノ容器ニ移替ムトスルトキ
- 三 麥酒ノ濾過ヲ爲サムトスルトキ
- 四 麥酒ノ殘滓等ヲ用非更ニ麥酒ヲ製造セムトスルトキ
- 五 麥酒ノ殘滓ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他ノ殘滓ト混合セムトスルトキ
- 六 自己ノ所有ト否トヲ問ハス製場用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
- 七 製造場外ヨリ製造場内ニ麥酒ヲ移入セムトスルトキ

第三條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者及麴ノ請買者ハ帳簿ヲ調製シ酒母、醱又ハ麴ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第四條 收稅官吏ハ酒母、醱若ハ麴ノ製造場又ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醱又ハ麴、其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收稅官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第五條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル酒母、醱又ハ麴ヲ検査シ其ノ出所又ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第六條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止スルモ製造場内ハ酒母、醱、麴製造用容器、器具又ハ器械ノ現存スル間ハ收稅官吏ハ其ノ製造場ニ臨ミ建築物又ハ其ノ現在品ヲ検査シ又ハ之ニ封印ヲ施スコトヲ得

第七條 醱ハ之ヲ讓渡シ、質入シ、飲料トシテ消費シ又ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第八條 酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル



者ニ讓渡スノ外讓渡シ又ハ質入スルコトヲ得ス  
酒母ハ政府ノ交付シタル買入認許證ヲ所持スル者ニ讓  
渡シタル場合ノ外收稅官吏ノ承認ヲ受ケスシテ製造場  
外ニ移出スルコトヲ得ス

第九條 免許ヲ受ケスシテ酒母、醱若ハ麴ヲ製造シタル  
者又ハ第七條若ハ第八條ニ違反シタル者ハ三十圓以上  
五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ製造ニ係ル酒母、醱又  
ハ麴及其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス  
前項ノ酒母、醱ハ濁酒ト看做シ酒造稅法ニ依リ其ノ總  
石數ニ對シ直ニ造石稅ヲ徵收ス (四十一年三月廿六日法律第  
二十六號ヲ以テ改正)

第十條 酒母、醱又ハ麴ノ檢査ヲ免カレ又ハ免カレムト  
シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 酒母、醱若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者酒  
母、醱又ハ麴ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタ  
ルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ヲ調製セ  
ス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ  
ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ  
收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ  
加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑

法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違  
反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例  
ヲ用非ス

第十四條 酒母、醱若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者カ未  
成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ  
發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之  
ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同  
一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 酒母、醱若ハ麴ノ製造者又ハ麴ノ請賣者ハ其  
ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者  
ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命  
令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故  
ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十六條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第  
五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ  
違反シタル者ニ之ヲ準用ス

第十七條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者ニシテ其ノ製造ヲ廢  
止シタルトキハ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

第十八條 第九條又ハ第十條ノ處罰ヲ受ケタル者ニ對シ  
テハ政府ハ酒母、醱又ハ麴ノ製造ノ免許ヲ取消スコト

ヲ得

第十八條ノ二 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル酒  
母、醱又ハ麴ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス  
犯ス者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒  
母、醱又ハ麴及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハ  
ス之ヲ沒收ス (四十一年三月法律第二十六號ヲ以テ追加)

附 則

第十九條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本法施行前酒造稅法第二十條ニ依リ酒母又ハ  
醱製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタ  
ルモノト看做ス

第二十一條 本法施行前ヨリ麴ヲ製造シ本法施行後引續  
キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後十五日以内ニ本  
法ニ依リ免許ヲ受クヘシ

前項ノ期間内ハ從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得  
第二十二條 (四十一年三月法律第二十六號ヲ以テ削除)

●酒母醱及麴取締法施行規則

(明治三十八年一月勅令第七號)

第一條 酒類ノ製造免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醱ヲ製造  
セムトスル者及販賣ノ爲ニ麴ヲ製造セムトスル者ハ製

造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申  
請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒母、  
醱又ハ麴製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

- 一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル  
場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於  
テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ  
此ノ限ニ在ラス
- 二 酒母、醱及麴取締法又ハ本令ニ違反シタル者又ハ  
其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ  
稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ム  
ル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條 酒母、醱又ハ麴ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否  
トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ酒母、醱又ハ麴製  
造場ノ圖面又ハ製造用容器、器具、器械ノ目錄ヲ提出  
スヘキコトヲ命ジタルトキハ酒母醱又ハ麴ノ製造者ハ  
之ヲ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル容器、器具、器械ヲ修理シ又ハ  
前項ノ圖面目錄ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告  
スヘシ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタル



トキ亦同シ

第五條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ヲ檢定シ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スルコトヲ得  
所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ檢定前使用スヘカラサルコトヲ命シタルトキハ製造者ハ製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 酒母、醱又ハ麴製造者ハ毎年十二月中ニ翌年製造スヘキ見込石數著手ノ時期及製造方法ヲ記載シ所轄稅務署ニ申告スヘシ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ申告スヘシ  
酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造セムトスルトキ又ハ前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第七條 酒母、醱又ハ麴ノ製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ  
相續ノ場合ヲ除クノ外酒母、醱又ハ麴ノ製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒母、醱又ハ麴製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十三條 酒母製造者ハ酒母買入認許證ト引換ニ非サレハ酒母ヲ讓渡スコトヲ得ス

酒母製造者ハ前項ノ買入認許證ヲ以テ酒母ノ移出ヲ收稅官吏ニ證明スヘシ

第十四條 酒母ヲ麴ニ混和シタルモノハ酒母ト看做ス

第十五條 酒母、醱又ハ麴製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル酒母、醱又ハ麴ノ數量及其ノ製造ノ日
- 四 酒母ヲ麴ニ混和シタルトキハ其ノ酒母及麴ノ數量、其ノ混成數量及其ノ混和ノ日
- 五 使用又ハ他ニ引渡シタル酒母、醱若ハ麴ノ數量及使用又ハ引渡ノ日、引渡シタルモノノ價額及引渡先

第十六條 麴請賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル麴ノ數量價額引取ノ日及引取先
- 二 販賣シタル麴ノ數量、價額、販賣ノ日及賣渡先小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セ

前項ノ免許申請書ニハ引繼ヲ爲サムトスル者ノ同意書ヲ添付スヘシ

第八條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 酒母、醱又ハ麴ノ製造者其ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ第七條第二項ニ依リ製造業ノ引繼ヲ爲シタルトキ亦同シ

第十條 收稅官吏ハ隨時酒母、醱又ハ麴ノ製造場若ハ麴ノ販賣場ニ臨ミ酒母、醱又ハ麴其ノ原料、製造用容器、器具、器械、建築物若ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ  
收稅官吏監督上必要ト認メタル場合ニ於テ製造者ヨリ前項ノ物件ニ封印以外ノ適當ナル方法ヲ施サムコトヲ申出テタルトキハ之ヲ承認スルコトヲ得

第十一條 收稅官吏カ必要ト認メテ酒母、醱、麴又ハ其ノ原料品ヲ指定シ其ノ讓渡、質入、消費又ハ使用前檢査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒母、醱又ハ麴ノ製造者ハ其ノ檢査ヲ受クヘシ

第十二條 酒母ヲ買入レムトスル者ハ其住所、氏名又ハ名稱、酒母ノ數量、用途及買入先ヲ記シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出シ酒母買入認許證ノ交付ヲ請求スヘシ

ス

第十七條 收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタル事項ニ付テハ酒母、醱又ハ麴ノ製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十八條 酒母、醱及麴取締法第十六條ノ施行ニ付テハ間接國稅犯則者處分施行規則ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

酒母、醱及麴取締法第二十一條ニ依リ免許ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ  
前項ノ場合ニ於テハ第二條ヲ適用セス

●醬油稅則 (明治廿一年六月勅令第四十七號)

第一條 醬油(溜ヲ併稱ス)ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受ク可シ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ム可シ (三十二年法律第二十號ヲ以テ改正)

自家用料ノミノ醬油ヲ製造スル者ニシテ一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石以下ニ止マルモノハ前項ノ免許ヲ受クルヲ要セス但左ニ記載スル者ハ此ノ限ニ



在ラス

一 醬油請賣人

二 料理店、飲食店、旅人宿營業者

三 (卅七年三月法律第七號ヲ以テ削除)

第二條 醬油製造人ハ左ノ造石稅ヲ納ムヘシ (卅九年三月法律第十六號改正)

醬油 調味一石ニ付

溜 製成一石ニ付

金一圓七十五錢 金一圓六十五錢

第三條 (卅七年三月法律第七號ヲ以テ削除)

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其際之ヲ納ムヘシ

第一期 七月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額

第二期 十一月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第三期 翌年三月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油トヲ混和シタル

キハ直チニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條 (卅九年三月法律第十六號ヲ以テ削除)

第十五條 (卅七年三月法律第七號ヲ以テ削除)

第十六條 (卅九年三月法律第十六號ヲ以テ削除)

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高竝仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證憑ヲ携帶スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證憑ヲ携帶スヘシ

トキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其二箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條 醬油ヲ原料トシテ醬油ヲ製造スルトキハ原料醬油ニハ造石稅ヲ課セス (同上)

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡讓渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避クヘカシサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタル

第十九條 免許ヲ受ケス醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其造石數ニ應シ第二條ノ造石稅ヲ課ス (同上改正)

第二十條 造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十一條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第二十二條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第二十三條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第二十四條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第二十五條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第二十六條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第二十七條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第二十八條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第二十九條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十一條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十二條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十三條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十四條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十五條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十六條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十七條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十八條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第三十九條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十一條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十二條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十三條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十四條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十五條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十六條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十七條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十八條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第四十九條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十一條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十二條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十三條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十四條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十五條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十六條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十七條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十八條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第五十九條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第六十條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第六十一條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第六十二條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第六十三條 罰金ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス



第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

改正稅率ニ依リ造石稅ヲ課セラルル醬油ニ付テハ非常特別稅法ニ依ル醬油稅ノ増徴ヲ爲サス

第二十八條 沖繩縣及東京府管下小管原島伊豆七島ニハ

●醬油稅則施行規則 (明治三十二年三月 勅令第四十六號)

當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ (三十二年法律第二十

第一條 醬油ヲ製造セムトスル者ハ其ノ製造場及居所、氏名ヲ記シ稅務署長ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ

五號改正ニ依ル)

スヘシ (三十五年勅令第二百五十三號ヲ以テ本令中稅務管理局長ヲ稅務署長ニ改ム) (廿七年三月勅令第八十八號ヲ以テ改正)

第二十九條 (廿七年三月法律第七號ヲ以テ削除)

醬油製造場ヲ移轉セムトスルトキハ稅務署長ニ申請シ

此法律ハ明治三十二年三月一日ヨリ施行シ同日以後ノ査定ニ係ル醬油ニハ其製造著手ノ時期ニ拘ハラヌ此法律ヲ適用ス

テ其ノ免許ヲ受クヘシ

此法律施行ノ際醬油製造營業ノ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ

第二條 (同上削除)

此法律ニ依テ製造ヲ免許シタルモノト看做ス

第三條 醬油製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總

此法律施行ノ際自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ明治三十二年三月二十日マテ其現在諸味石高ヲ記載シ政府ニ申告スヘシ但明治三十二年ニ限リ第一條第二項ノ制限石數ハ

第四條 醬油製造人其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面並醬油製造用容器ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ハ

此法律施行ニ於テ仕込ムモノノミヲ計算ス

稅務署長ニ提出スヘシ

附 則 (廿九年三月法律第十六號追加)  
醬酒製造人カ本法施行前ニ買受ケタル鹽ヲ以テ仕込ミタル醬油ニ關シテハ本法施行後ト雖舊稅率ニ依リ造石稅ヲ課ス

第九條 醬油ノ造石稅ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル醬油ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

容器ニ關シ同條第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務署長ハ其ノ容器ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定ニ非サレハ醬油製造人ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條 醬油ヲ醬油製造ノ原料ニ供セントスルトキハ醬油ハ製成前溜ハ製成ノ際其ノ石數ノ檢定ヲ受クヘシ

稅務署長容器ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ番號其ノ他必要ナル事項ヲ標記シ又ハ烙記スヘシ

前項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ製造場外ニ移サムトスルトキハ稅務署長ニ申告スヘシ

第六條 醬油製造人ハ毎年見込仕込石數、見込査定石數及製造方ニ記シ前年十二月ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ前年ノ製造方法ニ依ルモノハ其ノ旨ヲ申告シ別ニ製造方法ヲ記載スルコトヲ要セス

第十一條 前條第一項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ賣渡、貸渡、讓渡又ハ自用シ若ハ前條第二項ノ申告ヲ爲サスシテ其ノ製造場外ニ移シタルトキハ檢定石數ニ依リ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ

第十二條 醬油製造人ハ左ノ場合ニ於テ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ之ヲ申告スヘシ

一 自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器ヲ製造場外ニ移サムトスルトキ

第七條 醬油製造人ノ相續人其ノ製造ヲ繼續セムトスルトキハ稅務署長ニ申出テ繼續ノ免許ヲ受クヘシ

二 原料用醬油ヲ使用セムトスルトキ

相續ノ場合ヲ除ク外醬油製造ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ醬油製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造人ハ醬油稅則第一條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

三 諸味又ハ原料用醬油ノ容器ヲ變換セムトスルトキ

第八條 醬油ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第十三條 造石數査定未滿ノ醬油漏溢其ノ他ノ事故ニ依リ減量又ハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ稅務署長ニ申告スヘシ



第十四條 醬油稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十五條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄ヲ認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

第十六條 外國ニ輸出シタル醬油ノ造石稅下戻ヲ請求セムトスル者ハ輸出港稅關ノ檢査濟證明書並輸入港稅關ノ陸揚免狀若ハ其ノ他ノ證憑書類ヲ當初ノ輸出港稅關ニ提出スヘシ

第十七條 醬油ヲ製成シタル後其ノ諸味造石數ノ算出ヲ要スルトキハ所轄稅務署管内ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依ル但シ輸出醬油ノ造石稅下戻ノ場合ニ於テハ全國ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依ル

第十八條 溜粕ハ其ノ製成シタル溜ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

第十九條 醬油製造人ハ毎年一月三十一日限リ前年中ニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ稅務署長ニ申告スヘシ  
醬油製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ年一月一日ヨリ廢止

ノ日ニ至ルマテニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ其ノ際申告スヘシ

第二十條 醬油製造人ハ醬油製造用原料品ノ受拂、醬油ノ仕込、製成、出入、消費ニ關シ詳細ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第二十一條 本令ニ於テ醬油製造人ト稱スルハ醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂フ

●自家用醬油稅法 (明治三十三年三月法律第四十三號)

第一條 自家用醬油 (溜ヲ併稱ス) 一箇年五石以下ヲ製造セムトスル者ハ本法ニ依リ政府ノ免許ヲ受クヘシ、其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

前項ニ依リ免許ヲ受ケタル製造高ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ同年內ニ於テハ製造高ノ變更ヲ許可セス

第二條 自家用醬油製造免許ハ一家一人ニ限ル

第三條 自家用醬油製造人ハ其ノ製造見積高ニ依リ毎年左ノ製造稅ヲ納ムヘシ

- 第一種 一石未滿 金五十錢
- 第二種 二石未滿 金二圓

第三種 三石未滿 金二圓

第四種 四石未滿 金三圓

第五種 五石以下 金四圓

(廿七年三月法律第八號ヲ以テ改正)

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年三月ヲ以テ納期トス但シ納期後免許ヲ受クルトキハ即納トス

第五條 自家用醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ各自ノ居宅域內ニ限リ之ヲ製造スルモノトス

第六條 當該官吏ハ自家用醬油製造者ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第七條 自家用醬油製造者其ノ製造シタル醬油ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用醬油ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 自家用醬油製造者免許制限ヲ超過シテ醬油ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ醬油稅則第二條ノ造石稅ヲ課ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用非ス

第十條 自家用醬油製造者ノ家族、雇人等ニシテ其ノ製造ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ

出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十一條 左ニ記載シタル者ニハ本法ヲ適用セス

- 一 醬油製造營業人、醬油請賣人
- 二 料理店、飲食店、旅人宿營業人
- 三 前二號ノ者ト同居スル者

本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者前項各號ニ該當スルニ至リタルトキハ本法ニ依リ免許ヲ以テ醬油稅則ニ依リ免許ト看做シ以後製造ニ係ル醬油ニハ同稅則ヲ適用ス但シ其ノ年ノ製造稅ハ之ヲ免除セス (廿七年三月法律第八號ヲ以テ改正)

第十二條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ醬油稅則ヲ適用セス

第十三條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ノ明治三十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日マテノ間ニ製造シタル醬油ニシテ醬油稅則ニ依リ査定ヲ受ケタルモノニ關シテハ其ノ造石稅ヲ免除ス

第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠原島、伊豆七島ニハ當分本法ヲ施行セス



● 自家用醬油稅法施行規則

(明治三十三年三月勅令第百六十七號)

- 第一條 自家用醬油稅法第一條ニ依リ自家用トシテ醬油ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所、氏名、自家用醬油稅法第三條ノ種別及醬油製造方法ヲ記シ稅務署長ニ申請スヘシ (三十五年勅令第百五十三號ヲ以テ本令中稅務管理局長ヲ稅務署長ニ改ム)
- 第二條 自家用醬油稅法第三條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ前年中ニ變更ノ申請書ヲ稅務署長ニ差出スヘシ
- 第三條 自家用醬油製造者其ノ居所、氏名又ハ製造方法ヲ變更シタルトキハ直ニ稅務署長ニ申告スヘシ
- 第四條 自家用醬油稅法ニ依リ免許ヲ受ケタル者同法第十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ
- 第五條 自家用醬油ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ
- 自家用醬油製造者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人又ハ財產管理人ヨリ其ノ旨稅務署長ニ申告スヘシ

● 鹽專賣法 (明治三十八年二月法律第十一號)

- 第一條 政府ハ鹽ノ專賣權ヲ有ス
- 第二條 政府ハ便宜ノ地ニ鹽取扱所ヲ設置シ鹽ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム
- 第三條 鹽及鹹水ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコトヲ得ス (廿九年三月法律第十五號ヲ以テ改正)
- 智利硝石「カインニツト」「シルグイニツト」「ポリハリツト」「キーゼリツト」「カルナリツト」「ハルトザルツ」其ノ他礦物ニシテ其ノ百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ變性ヲ施スニ非サレバ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコトヲ得ス (同上追加)
- 第四條 鹽及鹹水ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス (同上改正)
- 第五條 政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ非サレハ所有シ所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ス
- 但シ納付期日前若ハ正當ノ事由ニ因リ納付ヲ遅延シタル場合ニ於テ又ハ製造者ノ自家用ノ爲所有、所持スルハ此ノ限ニ在ラス

鹹水ハ之ヲ讓渡シ質入シ又ハ鹽製造以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ス但シ鹽製造者ニ讓渡スルハ此ノ限ニアラス (同上追加)

- 第六條 政府ハ製鹽地ノ區域又ハ鹽ノ製造期間若ハ生産高ヲ制限スルコトヲ得
- 前項ニ依ル制限ハ鹽ノ試製ニ之ヲ適用セス
- 第七條 鹽製造者ノ製造シタル鹽ハ政府之ヲ收納ス但シ命令ノ定ムル制限數量以内ノ鹽ニシテ鹽製造者ノ自家用ニ供スルモノ又ハ政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ依リ再製シタル鹽ハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 鹽ノ賠償價格ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ
- 第九條 鹽ヲ製造セムトスル者ハ製鹽ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、貯藏場及一年ノ生産見込高ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第十條 鹽ノ製造業ト鹽ノ賣捌業トハ同一ノ場所ニ於テ相兼ヌルコトヲ得ス
- 但シ政府ノ賣渡シタル鹽ニ依リ再製スルハ此ノ限ニ在ラス
- 第十一條 相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ其ノ旨政府ニ届出ツヘシ

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

- 第十二條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ政府ニ申告スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケテ製造ヲ廢止スルハ此ノ限ニ在ラス
- 第十三條 鹽製造者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ政府ハ製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得
- 第十四條 鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ總テ之ヲ政府ニ納付スヘシ但シ第七條但書ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 政府ハ鹽製造者ヲシテ前項ニ依リ納付スヘキ鹽ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘキコトヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府カ鹽ノ數量ヲ定メ引渡ヲ命シタルトキ製造者之ヲ政府ニ納付シタルモノト看做ス
- 第十五條 鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ政府ハ鑑定人ヲシテ其ノ品質ヲ鑑定セシメ相當ノ賠償金ヲ交付スヘシ
- 製造者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス



再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 鹽製造者ノ納付セムトスル鹽ニシテ其ノ品質甚シク粗惡ナルモノニ付テハ政府ハ更ニ相當ノ處理ヲ爲シタル上納付スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十七條 政府ハ鹽ノ製造又ハ包裝ノ方法、納付場所、納付期日及其ノ運搬通路ヲ定ムルコトヲ得

第十七條ノ二 鹽ハ政府又ハ政府ノ指定シタル鹽元賣捌人若ハ鹽小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス  
鹽賣捌人及鹽ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
(四十一年四月法律第四十九號ヲ以テ追加)

第十八條 政府ハ定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スヘシ前項ノ定價ハ賠償金ヲ交付シテ收納シタル鹽ニ付テハ賣渡當時ノ品質ニ相當スル賠償金ニ一石ニ付金二圓五十錢又ハ百斤ニ付金一圓四十八錢ノ割合ノ金額ヲ加算シタルモノヲ超エテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第十九條 左ニ掲クル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特ニ定メタル價格ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得  
一 外國ニ輸出シ又ハ本法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲賣渡ヲ請求スル者アリタルトキ  
二 命令ヲ以テ指定スル用途ニ使用スル爲賣渡ヲ請求

ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ第十八條ノ賣渡定價ニ相當スル金額ヲ追徴ス  
一 第三條、第四條又ハ第五條ニ違反シタル者  
二 許可ヲ受ケサル土地ニ於テ鹽ヲ製造シタル者  
三 情ヲ知リテ政府ヨリ賣渡ササル鹽ヲ讓受ケタル者

第二十六條 鹽製造者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル者ニ引渡ヲ爲ササルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス政府ノ指定シタル運搬通路ニ依ラスシテ鹽ヲ運搬シタルトキ亦同シ

第二十七條 鹽製造者政府ノ定メタル製造期間外ニ於テ鹽ヲ製造シ又ハ政府ノ許可シタル場所以外ニ於テ鹽ヲ製造シ若ハ貯藏シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス情ヲ知リテ其ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第二十八條 前條ニ該當スル場合ヲ除クノ外鹽製造者許可ヲ受ケスシテ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十條ニ違反シタルモノハ三圓以上三十圓

スル者アリタルトキ  
三 前各號ノ外特ニ命令ヲ以テ定メタル場合ニ該當スルトキ

前條又ハ前項第三號ニ依リ賣渡シタル鹽ニシテ外國ニ輸出シ、本法ヲ施行セサル地ニ移出シ又ハ命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付ス (四十一年四月法律第五十九號ヲ以テ改正)

第二十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鹽賣捌業者ノ販賣スル鹽ノ價格ヲ制限スルコトヲ得 (同上改正)

第二十一條 鹽賣捌業者ハ鹽ニ他物ヲ混和シテ販賣スルコトヲ得ス

第二十二條 鹽製造者及鹽賣捌業者ハ帳簿ヲ調製シ政府ノ指示ニ從ヒ營業ニ關スル要件ヲ記載スヘシ

第二十三條 當該官吏ハ探鹹地、製鹽場、貯藏場其ノ他鹽ノ所在ト認ムル場所ニ立入り輸水、鹽、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得  
當該官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十四條 當該官吏ハ運搬中ニ在ル鹽ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ當該官吏監督上必要ト認メタルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ又

以下ノ金ニ處ス

第三十條 第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條ノ二 鹽賣捌業者第二十條ノ二ノ制限ヲ超エテ鹽ヲ販賣シタル時ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス (同上追加)

第三十一條 鹽賣捌業者第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ犯罪ニ係ル物件ハ之ヲ沒收ス

第三十二條 鹽製造者又ハ鹽賣捌業者其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十四條 政府ヨリ賣渡ササル鹽ニシテ犯人以外ノ所有ニ係ルモノハ政府之ヲ收納ス此ノ場合ニ於テハ他物ヲ混和シタル鹽ヲ除クノ外第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

第三十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ



違反シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第三十六條 鹽製造者、鹽賣捌業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 鹽製造者又ハ鹽賣捌業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第三十八條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第三十九條 鹽製造者其ノ製造ノ許可ヲ取消サレ又ハ鹽製造者若ハ鹽賣捌業者其ノ業務ヲ廢止スルモ製鹽場、貯藏場又ハ販賣場ニ鹽ノ現在スル間ハ仍本法ノ規定ヲ適用ス

政府ニ申告スヘシ申告ヲ怠リ又ハ不正ノ申立ヲ爲シタルトキハ其數量ニ對スル税金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

鹽稅ノ徵收ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム第二項ニ依ル納稅濟ノ鹽ハ政府ノ賣渡シタル鹽ト看做ス納稅期日前ニ於ケル鹽ノ所有又ハ所持ニ關シテハ第五條ヲ適セス

第四十五條 本法發布前ヨリ鹽ヲ製造スル者ハ本法發布ノ日ヨリ三箇月以内ニ命令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受ケヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十六條 本法施行ノ際鹽ヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ本法ニ依リ許可ヲ受ケヘシ其ノ期間内ハ鹽ノ製造ヲ爲スコトヲ得

附 則 (廿九年三月法律第十五號追加)  
本法ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行ノ際鹹水ノミヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ本法ニ依リ許可ヲ受ケヘシ其ノ期間内ハ鹹水ノ製造ヲ爲スコトヲ得

第十八類 第一章 租稅

第四十條 本法ニ依リ收納シタル鹽ノ賠償金ノ仕拂ニ關シテハ主任ノ官吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 本法ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十四條第四項及第四十五條ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル地方ニ之ヲ施行セス

第四十三條 本法施行ノ際鹽消費者ノ所有ニ係ル鹽ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十四條 本法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ政府ニ納付スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

本法施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ所有シ又ハ所持スル鹽ニ付テハ百斤ニ付金一圓三十錢ノ割合ニ依リ鹽稅ヲ納ムヘシ

前項ノ鹽ヲ所有シ又ハ所持スル者ハ其ノ數量及所在ヲ

本法ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十七條ノ第二項ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鹽賣捌業者ハ明治四十一年六月三十日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル鹽ノ種類、等級、數量ヲ明治四十一年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

鹽賣捌人ノ指定ヲ受ケタル者ハ本法施行前ヨリ所持スル鹽ハ本法施行後一年ヲ限リ之ヲ販賣スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ販賣者ハ販賣ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治四十一年七月以後毎月末日ニ於ケル鹽ノ種類、等級、數量及其ノ月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ

鹽專賣法施行細則 (明治三十八年四月)

第一條 鹽ヲ製造セムトスル者ハ製鹽ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場及一箇年ノ生産見込數量ヲ定メ所轄鹽務局ニ製造ノ許可ヲ出願スヘシ



新ニ鹽田ヲ作り鹽ヲ製造セムトスル者ハ鹽田ヲ作ラムトスル際、鹽田ニ依ラスシテ鹽ヲ製造セムトスル者ハ其ノ設備ニ着手セムトスル際第一項ノ出願ヲ爲スヘシ

(卅九年三月大藏省令第十二號ヲ以テ改正)

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ鹽務局ハ鹽ノ製造ヲ許可セサルコトヲ得

一 採鹹セムトスル場所カ製鹽ニ適當ナラスト認ムルトキ

二 鹽專賣法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者カ出願シタルトキ

三 取締上不便ト認ムル場所ニ於テ製鹽セムトスルトキ

四 鹽ノ生産高ヲ制限スル必要アルトキ

第三條 所轄鹽務局ニ於テ必要ト認メ製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ製鹽造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ圖面又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第四條 鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ所轄鹽務局ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

三 住所又ハ氏名若ハ名稱ヲ變動シタルトキ

第八條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止シ又ハ休止シタルトキ現存スル鹹水又ハ鹹砂ハ鹽務官吏ノ承認ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第九條 鹽製造者製鹽場所在市町村ニ現在セサルトキハ鹽專賣法ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ鹽製造者及管理人連署シ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第十條 鹽製造者ハ製鹽場ニ一箇年ノ製鹽見込數量、製造者又ハ管理人ノ住所、氏名、許可ノ年月日ヲ記載シタル標札ヲ掲クヘシ

第十一條 一 鹽專賣法第六條第一項ニ依リ鹽ノ製造期間又ハ生産高ヲ制限スル必要アルトキハ鹽務局長ハ鹽ノ製造期間又ハ生産高ヲ定メ之ヲ鹽製造者ニ知通スヘシ

第十二條 鹽ノ賠償價格ハ毎年十二月ニ於テ其ノ翌年ニ適用スヘキモノヲ定メ之ヲ告示スヘシ但シ翌年中ニ於テ特殊ノ事情アリタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得 (四十年一月大藏省令第二號追加)

第十三條 鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ少クとも二日ヲ經過シタル後之ヲ所轄鹽務局ニ納付スヘシ

第十四條 鹽務局長ハ特ニ鹽製造者ヲ指定シ一定ノ期間

第十五條 鹽製造者ハ其ノ代理人ヨリ納付ノ爲鹽ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ運送中ハ其ノ代理人ト爲リタルモノト看做ス

第十六條 鹽製造者ノ納付スヘキ鹽ニハ一定ノ包裝ヲ施スヘシ但シ鹽務局長ハ包裝ヲ施ササル鹽ノ納付ヲ許可スルコトヲ得

第十七條 鹽ノ品質ハ其ノ含有スル鹽化曹達ノ量ニ依リテ之ヲ定メ左ノ五等ニ區分ス

一 製鹽ノ方法ヲ變更セムトスルトキ

二 採鹹地ヲ變更シ又ハ製鹽段別ヲ増減セムトスルトキ

三 製鹽場鹹水又ハ鹹砂貯藏場製鹽貯藏場ヲ新設又ハ移轉セムトスルトキ

第五條 相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄鹽務局ニ申告スヘシ

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ製造者及承繼者連署シ所轄鹽務局ニ出願シ許可ヲ受クヘシ但シ鹽務局ニ於テ正當ノ事由アリト認メタルトキハ製造者ノ連署ヲ要セス

第六條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クとも一箇月前ニ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

前項ノ期間ヲ經過セスシテ鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ所轄鹽務局ニ廢止ノ許可ヲ出願スヘシ

第七條 鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

一 製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ヲ改築又ハ増築シタルトキ

二 災害ニ因リ採鹹地、製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ニ異動ヲ生シタルトキ

每ニ其ノ製造シタル鹽ノ數量ヲ鹽務局ニ申告セシムルコトヲ得

鹽務局長ハ前項ノ鹽製造者ニ對シ鹽ノ數量ヲ定メ之ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘキコトヲ命スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ鹽製造者ハ鹽務局長ノ定メタル期日及場所ニ於テ之ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

第十四條 鹽製造者前條ニ依リ鹽務局長ノ定メタル期日又ハ場所ニ於テ鹽ノ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄鹽務局ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第十五條 鹽製造者ハ代理人ヲ以テ鹽ノ納付ヲ爲スコトヲ得

運送業者カ鹽製造者又ハ其ノ代理人ヨリ納付ノ爲鹽ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ運送中ハ其ノ代理人ト爲リタルモノト看做ス

第十六條 鹽製造者ノ納付スヘキ鹽ニハ一定ノ包裝ヲ施スヘシ但シ鹽務局長ハ包裝ヲ施ササル鹽ノ納付ヲ許可スルコトヲ得

包裝ノ方法、重量及一包裝ノ鹽數量ハ所轄鹽務局長之ヲ定ム

第十七條 鹽ノ品質ハ其ノ含有スル鹽化曹達ノ量ニ依リテ之ヲ定メ左ノ五等ニ區分ス



一 含有鹽化曹達量百分ノ九十以上  
 二 含有鹽化曹達量百分ノ八十五以上  
 三 含有鹽化曹達量百分ノ八十以上  
 四 含有鹽化曹達量百分ノ七十五以上  
 五 含有鹽化曹達量百分ノ七十以上

前項鹽化曹達ノ量ハ可檢物ノ量ヨリ其ノ含有スル水及夾雜物ノ量ニ左ノ係數ヲ乘シタルモノヲ控除シテ之ヲ含ム

一 水 一、一  
 二 夾雜物 一、二

第十八條 鹽製造者ノ納付セムトスル鹽ニシテ前條五等ノ品質ニ達セサルトキハ鹽務局長ハ製造者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ但シ第十三條第二項ノ場合ニ於テ鹽務局長ノ指定シタル者カ引取ヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ鹽務局長ハ其ノ品質ヲ鑑定シ相當ノ賠償金ヲ交付ス

第二十條 鹽製造者前條ノ鑑定ニ不服アルトキハ其ノ要領ヲ具シ即時再鑑定ヲ求ムルコトヲ得

再鑑定ノ申立アリタルトキハ鹽務局長ハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ分析鑑定ヲ爲サシメ之ヲ決定スヘシ

再鑑定決定シタルトキハ其ノ決定書ヲ作り再鑑定申立人ニ交付スヘシ

再鑑定ノ結果ニ依ル品質ノ等級カ最初鑑定シタル等級ヨリ上進セサルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ申立人ノ負擔トス

第二十一條 鹽製造者災害ニ因リ納付前ノ鹽ニ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第二十二條 鹽製造者ノ自家用ニ供スル鹽ニシテ政府ニ納付スルコトヲ要セサルモノハ一箇年一人ニ付キ二十斤以内トス但シ一家ヲ通シテ一箇年三百斤ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十三條 鹽製造者其ノ製造シタル鹽ノ一部ヲ自家用ニ供セムトスルトキハ豫メ申告シテ鹽務官吏ノ検査ヲ受ケ政府ニ納付スヘキ鹽ト區別シテ貯藏スヘシ

第二十四條 鹽製造者政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ鹹水ニ混和シテ鹽ヲ製造シタルトキハ其ノ製造シタル鹽ノ全部ヲ政府ニ納付スヘシ但シ鹽務官吏ノ検査ヲ受ケ混和鹽及製造鹽ノ數量ニ付其ノ承認ヲ得タルトキハ混和鹽ノ數量ニ相當スル製造鹽ヲ政府ニ納付スルコトヲ要セス

第二十五條 鹹水ノミヲ以テ鹽ヲ製造スル者政府ヨリ賣

渡シタル鹽ノ再製ヲ兼營スルトキハ政府ヨリ賣渡シタル鹽、之ヲ以テ製造シタル鹽、及鹹水ノミヲ以テ製造シタル鹽ヲ各別ニ區分シテ貯藏スヘシ

第二十六條 政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ再製ヲ爲ス者ハ一箇月毎ニ其ノ再製シタル鹽ノ數量ヲ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第二十七條 乃至第三十六條 (四十二年四月大藏省令第ヲ以テ削除)

第三十七條 鹽製造者ハ少クトモ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 採取シタル鹹水ノ容量及比重
- 二 煎熬シタル鹹水ノ容量及比重
- 三 焚上ケタル釜數及鹽ノ數量
- 四 政府ニ納付シタル鹽ノ數量、等級納付月日
- 五 自家用トシテ検査ヲ受ケタル鹽ノ數量
- 六 讓渡シタル鹹水ノ容量比重量價格讓渡月日及讓受人
- 七 讓受ケタル鹹水ノ容量比重量價格讓受月日及讓渡人

(廿九年三月大藏省令第十二號追加)

政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ再製スル者ハ少クトモ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

鹹水ノミノ製造ヲ爲ス者ハ毎日前項第一號及第六號ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ (同上追加)

一 買入レタル鹽ノ數量、價格、買入月日、買入先

二 使用シタル原料鹽ノ數量

三 製造シタル鹽ノ數量

四 賣渡シタル鹽ノ數量、價額、賣渡月日及賣渡先

第三十八條 (四十二年四月大藏省令第二十一號ヲ以テ削除)

第三十九條 鹽專賣法第二十三條、第二十四條ニ依リ検査又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲ス官吏ハ左ノ證票ヲ携帶スヘシ

四 寸

第 號	官 氏 名
鹽 務 官 吏 章	何 鹽 務 局
局 何 鹽 務 局	何 鹽 務 局
印	何 鹽 務 局

分 五 寸 二

第四十條 本令中鹽務局ニ屬スル事務ハ鹽務局出張所アル地方ニ於テハ鹽務局出張所之ヲ行フ

第四十條ノ二 鹹水ノ製造ニ關シテハ第一條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス(廿九年三月大藏省令第十二號追加)

附 則

第四十一條 本令ハ鹽專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



第四十二條 鹽專賣法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ明治三十八年六月三十日迄ニ之ヲ鹽務局ニ納付シ又ハ鹽務局長ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

本令中「鹽務局」ヲ「專賣局收納所」ニ「鹽務局長」ヲ「專賣局收納所長」ニ「鹽務官吏」ヲ「專賣官吏」ニ改ム(四十二年四月大藏省令第二十一號)

●鹽賣捌規則 (明治四十一年四月 大藏省令第二十號)

第一條 鹽元賣捌人ハ政府ヨリ鹽ヲ買受ケ之ヲ鹽小賣人ニ賣渡スモノトス  
鹽小賣人ハ鹽元賣捌人ヨリ鹽ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス

鹽元賣捌人ハ他ノ鹽元賣捌人ト鹽ヲ賣買スルコトヲ得鹽賣捌人ハ特ニ政府ノ認許シタル場合ニ限り鹽賣捌人ニ非サル者ヨリ鹽ヲ買受クルコトヲ得

第二條 鹽元賣捌人及鹽小賣人ハ專賣局長官之ヲ指定ス外國ヨリ輸入シ又ハ鹽專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入スル鹽ニ付テハ專賣局長官ハ特ニ其ノ賣捌人ヲ指定スルコトヲ得

第三條 本令發布ノ日迄六箇月以上引續キ鹽ノ卸賣又ハ仲買ヲ業トシ明治四十年分ノ第一種又ハ第三種ノ所得稅ヲ納ムル者ハ其ノ申請ニ依リ本令施行ノ際ニ限り鹽

元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得

本令發布ノ際鹽ノ販賣ヲ業トセル者ハ其ノ申請ニ依リ本令施行ノ際ニ限り鹽小賣人ニ指定セラルルコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依リ鹽元賣捌人タラムトスル者ハ明治四十一年五月二十日迄ニ第一號書式ニ依リ鹽小賣人タラムトスル者ハ同年五月三十日迄ニ第二號書式ニ依リ其ノ申請ヲ爲スヘシ

第五條 專賣局長官ハ地方ノ狀況ニ應ジ必要ト認ムルトキハ第三條ニ掲タル以外ノ者ニ對シ其ノ申請ニ依リ隨時鹽賣捌人ヲ指定スルコトアルヘシ

前項ニ依リ鹽賣捌人タラムトスル者ハ第二號書式ニ依リ其ノ申請ヲ爲スヘシ  
第六條 左ニ掲クル者ハ鹽元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス  
一 專賣法規若ハ租稅法規ニ違反シ罰金以上ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者  
二 身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者  
三 國稅滯納處分ヲ受ケ又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一箇年ヲ經サル者

四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

前項第一號ニ該當スル者ハ鹽小賣人ニ指定セラルルコトヲ得ス法人ノ場合ニ於テハ第一項各號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第七條 鹽元賣捌人ト鹽小賣人トハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス又其ノ營業所ヲ同シクスルコトヲ得ス

第八條 鹽元賣捌人ノ營業所ハ一人一箇所トス但シ本令發布ノ日六箇月以前ヨリ引續キ二箇以上ノ營業所ヲ有スル鹽元賣捌人ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 鹽元賣捌人ハ專賣局長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業所ヲ變更スルコトヲ得ス

鹽小賣人其ノ營業所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ  
第十條 鹽ノ收納地、輸入地又ハ移入地以外ニ鹽ヲ回送シテ之ヲ賣渡ストキハ回送ニ關スル費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトアルヘシ

第十一條 大藏大臣ハ鹽賣捌人ノ販賣スル鹽ノ格價不當ナリト認メタルトキハ其ノ價格ヲ制限ス

前項ニ依リ鹽ノ價格ヲ制限シタルトキハ大藏大臣ハ之ヲ公示ス

第十二條 鹽元賣捌人ハ第三號書式ニ依リ毎月末日迄ニ翌々月分ノ鹽買受額見込書ヲ鹽販賣官署ニ提出スヘシ

第十三條 鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ産地、等級包製ノ種類及數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ鹽販賣官署ニ提出スヘシ

第十四條 鹽ヲ買受クル者ハ其ノ代金及回送費納付ノ擔保トシテ保トシテ國債證券、地方債證券若ハ專賣局長官ノ指定シタル株式會社ノ株券又ハ債券ヲ提供シテ三箇月以内代金及回送費ノ延納ヲ請求スルコトヲ得

當時鹽ノ買受ヲ爲ス爲代金及回送費納付ノ擔保トシテ前項ノ擔保物件ヲ豫メ提供シ置クトキハ其ノ價額ニ達スル迄代金及回送費ノ延納ヲ請求スルコトヲ得

前二項ニ依リ延納ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ其ノ一回ノ買受代金及回送費百圓以上タルコトヲ要ス鹽專賣法第十四條第二項ニ依リ指定引渡ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第一項及第二項ノ有價證券ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シテ計算ス



代金及回送費納付ノ擔保トシテ提供スヘキ有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十五條 第十三條ノ請求アリタルトキハ鹽販賣官署ハ鹽ノ賣渡請求者ニ對シ代金及回送費即納ノ場合ニ於テハ納入告知書ヲ第十四條第一項ニ依ル代金及回送費延納ノ場合ニ於テハ擔保提供通知書ヲ同條第二項ニ依ル代金及回送費延納ノ場合ニ於テハ擔保充當通知書ヲ交付スヘシ

鹽販賣官署所在地外ニ於テ鹽ノ賣渡ヲ爲ストキハ專賣官吏ハ口頭ヲ以テ前項ノ告知又ハ通知ヲ爲スコトヲ得第十六條一鹽ノ賣渡請求者前條ノ告知又ハ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ代金及回送費ヲ納付シ又ハ擔保物ヲ提供シ現品ヲ引取ルヘシ若シ五日以内ニ之ヲ引取ラザルトキハ相當保管料ヲ徵ス但シ鹽販賣官署ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ此ノ限ニ在ラス鹽販賣官署所在地外ニ於テ鹽ヲ賣渡シタルトキハ買受人ハ直ニ現品ヲ引取ルヘシ第十七條 鹽元賣捌人ハ第四號及五號書式ノ帳簿ヲ製シ翌月五日迄ニ第六號書式鹽受拂月計表ヲ鹽販賣官署ニ提出スヘシ

鹽小賣人ハ帳簿ヲ製シ鹽ヲ買受ケタルトキハ其ノ買受先買受年月日並其ノ等級、包裝ノ種類、數及代金

ヲ記載スヘシ

第十八條 鹽賣捌人ハ營業所ノ見易キ場所ニ其ノ販賣スル鹽ノ價格表ヲ掲シヘシ

第十九條 本令ニ依リ指定セラレタル鹽賣捌人ハ二箇年以内ニ於テ專賣局長官ノ指定シタル期間其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

鹽賣捌人死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續人ハ專賣局長官ニ申告シテ殘期間其ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ鹽賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 鹽賣捌人ニシテ其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ廢業ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ鹽賣捌人ノ指定ヲ取消スコトヲ得但シ第四號ノ規定ハ鹽小賣人ニハ之ヲ適用セス

一 制限價格ヲ超エテ鹽ヲ販賣シタルトキ  
二 本規則ニ違反シ當該官吏ノ注意ヲ受クルモ尙之ニ從ハザルトキ  
三 鹽元賣捌人ニ在リテハ第六條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ鹽小賣人ニ在リテハ第六條

第一項第一號ニ該當スルニ至リタルトキ

四 鹽販賣官署ヨリノ鹽買受代金一箇年千圓未滿ナルトキ

法人カ鹽賣捌人ニ指定セラレタル場合ニ於テ前項第二號及第三號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第二十二條 鹽賣捌人引續キ指定セラレタルトキハ現存スル鹽ハ當然之ヲ引繼クモノトス  
鹽賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレ若ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル鹽ハ事實ノ發生後三十日以内ニ鹽賣捌人ニ讓渡スコトヲ得

第二十三條 鹽賣捌人ノ指定申請又ハ其ノ廢止、變更ニ關スル書類ハ其ノ地所轄ノ專賣局收納所又ハ其ノ出張所ニ提出スヘシ

鹽賣捌人ノ鹽買受ニ關スル書類ハ別ニ定ムル區域ニ依リ關係ノ鹽販賣官署ニ提出スヘシ但シ鹽賣捌人ノ營業所所轄收納所ニ於テ鹽ノ買受ニ關シテハ其ノ書類ヲ當該收納所又ハ其出張所若ハ藏置所ニ提出スヘシ  
鹽賣捌人ニ非サル者ノ鹽買受ニ關シテハ其ノ書類ヲ何レノ鹽販賣官署ニ提出スルモ妨ケナシ

臺灣鹽ノ買受ニ關スル書類ハ大阪收納所神戸出張所ニ外國鹽ノ買受ニ關スル書類ハ東京收納所橫濱出張所又ハ大阪收納所神戸出張所ニ提出スヘシ

附 則

本令ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中鹽賣捌人ノ指定及其ノ申請ニ關スル規定ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號書式)

鹽元賣捌人指定申請書

一 營業所

本店	府縣	郡市	町村	字	番地
支店	府縣	郡市	町村	字	番地

一 營業期間  
明治 年 月 日ヨリ即賣又ハ仲買開始  
右ノ通ニ付鹽元賣捌人ニ指定相成度申請候也

住 所  
年 月 日  
氏 名  
生年月日

專賣局長官宛  
一 法人ノ申請ニ付テハ氏名、簡所ニ會社名又ハ組合名ヲ記載シ代







ノ砂糖及糖水 百斤ニ付八圓五十錢(同上)

第四種 砂糖色相和蘭標本第二十號ヲ超ユル砂糖及氷砂糖百斤ニ付金十圓(同上)

第四條 前條ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムルトキハ六箇月以内消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ税金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第五條 内地消費ノ目的ニ非ラスシテ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラル、砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月内ニ外國ニ輸出セラレタルノ證明ナキモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費稅ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消

費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第六條 消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトヲ得ス

第七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ得スシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第八條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ販賣スル者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラ

ルル砂糖及糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス(三十五年法律第二十一號ヲ以テ全條改正)

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以内ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費稅ヲ徵收ス

第四條第二項及第三項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ適用ス但災害ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス(前八年二月法律第六號追加)

第十一條ノ二 第六條及第七條ノ規定ハ前條ノ砂糖又ハ糖蜜ノ引取及引渡ニ之ヲ適用セス(同上)

第十二條 第六條又ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ上ルコトヲ得ス

第十三條 政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者、砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詳リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ

テ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ

正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用カス但シ刑法第七十五條

第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族、同業者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

附 則

第十八條 本法ハ明年三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

●砂糖消費稅法施行規則 (明治三十四年八月勅令第六十九號)

第一條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ



第二條 製造場ハ敷地ハ連續スルト否トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造休止後更ニ著手セントスルトキ亦同シ

第五條 第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水其ノ原料品、製造用器具、器械又ハ帳簿、種類ヲ検査スヘシ

第八條 收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ

得

第九條 砂糖、糖蜜、糖水製造者砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキハ其ノ種類量目及移出先ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條 製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ内地消費ノ目的ヲ以テスルモノト否トヲ區別シ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條 砂糖消費稅法第四條第一項但書及同法第十一條ノ第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ(三十五年勅令第五十二號ヲ以テ本條改正)

第十二條 砂糖消費稅法第十一條ノ第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申請ノ際砂糖又ハ糖蜜ノ種類量目、引取ノ場所及時期製造スヘキモノノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申出ツルコトヲ要ス

第十三條 砂糖消費稅法第十一條ノ第一項ニ依リ收稅官吏ノ承認シタル砂糖又ハ糖蜜ニ付テハ第九條第二項ヲ準用ス

第十四條 收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條 砂糖消費稅法第四條、第五條及第十一條ノ一ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及有價證券ニ限ル(三十五年勅令第五十一號ヲ以テ本項中改正)

第十六條 有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十七條 砂糖、糖蜜、糖水製造者、税關又ハ保税倉庫

第十八條 砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費稅納付擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス(三十五年勅令第五十一號ヲ以テ本條中改正)

第十九條 砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ擔保提供濟ナルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シ擔保ヲ提供シタル稅務署ニ申請スヘシ

第二十條 砂糖消費稅法第四條第二項、第五條第二項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ(同上ヲ以テ本項中改正)

第二十一條 砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ所轄稅務署ニ提出スヘシ

一 輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二 外國輸入港税關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第二十二條 砂糖消費稅法第十一條ノ一ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ擔保提供濟ナルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シ擔保ヲ提供シタル稅務署ニ申請スヘシ

第二十三條 砂糖消費稅法第四條第二項、第五條第二項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ(同上ヲ以テ本項中改正)

第二十四條 砂糖消費稅法第四條、第五條及第十一條ノ一ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及有價證券ニ限ル(三十五年勅令第五十一號ヲ以テ本項中改正)

第二十五條 有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第二十六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者、税關又ハ保税倉庫



第三十條 前條ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、證券ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十一條 公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條 砂糖消費稅法第四條第二項但書、第五條第二項但書及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得 (三十五年勅令第五十一號ヲ以テ本條中改正)

第二十三條 砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖、糖蜜、他ノ砂糖又ハ糖蜜トテ區別シテ之ヲ藏置スヘシ (同上ヲ以テ改正)

第二十四條 砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セントスルトキハ豫メ收稅官吏ノ檢査ヲ受クヘシ (同上)

第二十五條 前條砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期間内ニ其ノ使用シタル原料ノ種類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ (同上)

第二十六條 砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人住所、氏名又ハ名稱
- 二 使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ使用ノ日
- 三 製造シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目及其ノ製造ノ日
- 四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十七條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

- 一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額
- 二 販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
- 三 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額
- 四 販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十八條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十九條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

(三十五年勅令第二百五十二號ヲ以テ改正)

附 則

第三十條 砂糖消費稅法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附 則 (三十五年勅令第五十一號)

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年法律第二十一號附則ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

● 煙草專賣法 (明治三十七年三月 法律第十四號)

第一條 煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス

第二條 煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス

第三條 煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス

第四條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ政府之ヲ收納ス

第五條 煙草ノ耕作區域ハ政府之ヲ定ム

第六條 政府ハ毎年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕作段別及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ豫メ之ヲ公示ス

第七條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年煙草苗床ノ位置及坪數、煙草耕作地ノ位置及段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 煙草耕作者ニ非サレハ煙草苗ヲ育成スルコトヲ得ス

第十條 煙草耕作者ハ政府ノ定ムル方法及手續ニ依リ其ノ耕作ヲ完成スル義務ヲ負フ

第十一條 政府ハ收穫前ニ於テ葉煙草ノ收穫量目又ハ葉數ヲ査定ス

第十二條 煙草耕作者前條ノ量目又ハ葉數ノ査定ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得



異議ノ申立アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス異議申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ量目又ハ葉數ト前項決定額トノ差カ前條ノ査定額ト前項決定額トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ異議申立人ノ負擔トス

第十三條 煙草耕作者ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ第十一條ノ査定前ニ於テ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ拔除スルコトヲ得ス第十二條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタル者其ノ決定前ニ於テ亦同シ

第十四條 煙草耕作者一番葉ノ收穫ヲ終リタルトキハ直ニ幹根ヲ拔除シ其ノ幹ニ附着スル葉煙草ハ之ヲ廢棄スヘシ  
種子ノ採取又ハ二番葉ノ收穫ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ乾燥調理ノ後政府ニ納付スヘシ  
納付ノ期日及場所ハ政府之ヲ定ム

煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ニシテ政府ノ收納ニ適

セサルモノハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ  
第十六條 煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシメ其ノ等級ニ依リ賠償金ヲ交付ス

煙草耕作者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再賠償ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

再鑑定申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ等級ト再鑑定等級トノ差カ第一項ノ鑑定等級ト再鑑定等級トノ差ヨリ大ナルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ査定若ハ決定シタル量目又ハ葉數以上ノ葉煙草ヲ納付セサルトキハ政府ハ其ノ不足額ニ對シ第十八條第二項ノ規定ニ準シテ算定シタル金額ノ三倍以下ヲ納付セシムルコトヲ得

第十八條 煙草耕作者私ニ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ耕作地又ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ耕作地又ハ耕作地ニ生産スヘキ葉煙草ノ價格ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得

前項葉煙草ノ價格ハ其ノ年ニ於ケル近傍類似煙草耕作

地ノ葉煙草生産額及之ニ對スル賠償金額ヲ標準トシ之ヲ算定ス

第十九條 煙草耕作者其ノ耕作段別ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ耕作ヲ承繼スル者ナキトキハ政府ハ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ヲ廢棄セシムルコトヲ得

第二十條 煙草耕作者ノ葉煙草ハ其ノ耕作地、乾燥場、藏置場又ハ其ノ收納官署ノ外他ニ之ヲ運送スルコトヲ得ス

政府ハ必要ト認ムルトキハ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルコトヲ得

第二十一條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ試作ニ關シテハ第四條、第七條、第九條、第十五條、第十六條第一項及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シタル煙草元賣捌人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

煙草賣捌人及煙草ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第二十四條 煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタル製造煙草ノ包裹ヲ開披シ若ハ之ヲ改裝シ又ハ包裹ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコトヲ得ス

第二十五條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ政府ハ特ニ定メタル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スルコトヲ得

前項煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ調製シ其營業ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

輸出ニ供スル煙草ヲ製造セムトスル者ノ爲政府ハ一定ノ地域ニ於テ煙草自由倉庫ヲ設置シ又ハ其ノ設置ヲ特許スルコトヲ得

煙草自由倉庫及其ノ特許ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 前條ニ依リ輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀ニ外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添

ヘ政府ニ差出スヘシ  
正當ノ事由ナクシテ前項ノ免狀及書類ヲ差出ササルトキハ政府ハ葉煙草ニ付テハ第二十九條製造煙草ニ付テ



第三十條ノ規定ニ依リ相當金額ヲ納付セシム  
 第二十七條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製  
 造煙草ハ輸出前之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得  
 ス但シ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルモノハ政府ノ許  
 可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二十八條 輸出ノ爲政府ヨリ買受ケタル葉煙草又ハ製  
 造煙草ノ輸出ヲ廢止シタルトキ又ハ買受ノ日ヨリ一箇  
 年ヲ過キ之ヲ輸出セサルトキハ其ノ使用ニ適スルモノ  
 ニ限リ政府之ヲ收納シ其ノ他ハ之ヲ廢棄セシム  
 前項ノ收納ヲ爲ストキハ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ償金  
 ヲ交附ス但シ其ノ賠償金ハ第二十五條ニ依ル賣渡價格  
 ニ超過スルコトヲ得ス

第二十九條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納セ  
 ラレタル葉煙草並現在葉煙草ノ總量目カ政府ヨリ買受  
 ケタル葉煙草ノ總量目ニ比シ正當ノ事由ナクシテ不足  
 シタルトキハ政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ第  
 二十五條ノ賣渡價格ニ相當スル金額ノ四倍以下ヲ納付  
 セシム

第三十條 本法ノ規定ニ依リ輸出シ、廢棄シ及收納セラ  
 レタル製造煙草並現在製造煙草ノ總量目カ政府ヨリ買  
 受ケタル製造煙草ノ總量目ニ比シ正當ノ事由ナクシテ

不足シタルトキハ政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ對  
 シ第二十三條ノ賣渡價格ト第二十五條ノ賣渡價格トノ

差額ニ相當スル金額ノ二倍以下ヲ納付セシム  
 第三十一條 政府ハ標本ニ供スルモノニ限リ葉煙草ヲ交  
 付シ又ハ煙草ノ輸入ヲ許可スルコトヲ得

標本ニ供スル煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケ標本トシテ他ニ  
 讓渡シ又ハ試驗ノ用ニ供シ又ハ廢棄スルノ外之ヲ處分  
 スルコトヲ得ス  
 第三十二條 健康上若ハ習慣上缺クヘカラサル製造煙草  
 ハ自用ニ供スルモノニ限リ自用者ニ於テ政府ノ許可ヲ  
 受ケ之ヲ輸入スルコトヲ得

第三十三條 輸出ノ爲買受ケタル煙草ハ政府ノ許可ヲ受  
 ケタル場所ニ非サレハ之ヲ藏置スルコトヲ得ス  
 第三十四條 何人ト雖本法ニ於テ認メタル場合ノ外葉煙  
 草、政府ノ證書ヲ附セサル製造煙草又ハ煙草製造専用  
 ノ器具機械及卷紙ヲ所持シ、讓渡シ若ハ讓受クルコト  
 ヲ得ス  
 前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外政府ニ於テ  
 之ヲ處分ス

第三十五條 何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ煙草ニ代用スヘ  
 キ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三十六條 煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ハ政府ノ許  
 可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製作シ、販賣シ又ハ藏  
 置スルコトヲ得ス

第三十七條 煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造専用ノ器  
 具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者本法又ハ本  
 法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ政府ハ耕  
 作、試作、藏置又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三十八條 政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作地、乾燥  
 場、藏置場又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製造器具機械及  
 卷紙ノ所在ト認ムル場所又ハ煙草苗、煙草若ハ煙草製  
 造器具機械及卷紙ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲  
 スコトヲ得  
 當該官吏ハ前項ノ検査ニ際シ必要ト認ムルトキハ關係  
 人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第三十九條 行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付セシムル  
 場合ニ於テ義務者ニ交付スヘキ金額アルトキハ之ヲ差  
 引スルコトヲ得

第四十條 本法ノ規定ニ依リ納付セシムヘキ金額ノ徵收  
 ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得  
 第四十一條ノ一 政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草  
 ノ輸入ヲ圖リ若ハ其輸入ヲ爲シタル者ハ其煙草ノ價格

ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其煙草ヲ沒收ス但其ノ罰  
 金額ハ百圓ヲ下ルコトヲ得ス前項ノ價格ハ其煙草ノ生  
 產地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費運送費保險料其  
 他輸入地ニ到着スル迄ノ諸費及輸入税ニ相當スル金額  
 ヲ加ヘタルモノトス(四十年三月法律第十二號ヲ以テ追加)

第四十一條ノ二 第三條又ハ第九條第一項ニ違反シタル  
 者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル  
 煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス許可ヲ受ケスシテ試作ヲ  
 爲シタル者亦同シ

第四十二條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル土地ニ煙草ヲ耕  
 作シ若ハ煙草苗ヲ育成シ又ハ許可ヲ受ケサル種類ノ煙  
 草ヲ耕作シ又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草苗ヲ讓渡シ若ハ  
 讓受ケタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ  
 犯罪ニ係ル煙草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス  
 第四十三條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル場所ニ葉煙草ヲ  
 乾燥シ又ハ藏置シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金  
 ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス  
 情ヲ知リテ前項ノ場所ヲ供與シタル者ハ五圓以上百圓  
 以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以  
 下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス



第四十五條 第十四條及第十九條ニ依リ葉煙草ヲ廢棄スヘキ者其ノ煙草ヲ收穫シ又ハ種子ヲ採取シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草又ハ種子ハ之ヲ沒收ス

第四十六條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ依ルニ非スシテ第二十條第一項ニ違反シ又ハ政府ノ指定シタル通路若ハ時間ニ依ラスシテ葉煙草ヲ運送シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス

第四十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニ葉煙草ヲ納付セサルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費シ又ハ隱蔽シタル者ハ四十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

情ヲ知リテ葉煙草隱蔽ノ場所ヲ供與シタル者ハ四十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 煙草賣捌人ニ非スシテ製造煙草ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ四十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

ル葉煙草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス

第五十七條 第三十四條第一項ニ違反シテ製造煙草ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受ケタル者ハ煙草賣捌人ニ在リテハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ他ノ者ニ在リテハ四十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十八條 私ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草及煙草製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第五十九條 第三十五條ニ違反シタル者ハ四十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物品並其ノ原料、製造器械機具及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十條 第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利者不明ノ煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ヲ所持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草製造專用ノ器械機具及卷紙ハ之ヲ沒收ス

第六十一條 本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第六十二條 當該官吏ハ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又

第五十條 第二十三條又ハ第二十四條ニ違反シタル者ハ五圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 煙草輸出者帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ四十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 第二十七條ニ違反シタル者ハ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十三條 第三十一條第二項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ煙草ヲ讓受ケタル者亦同シ

第五十四條 第三十二條ニ依リ輸入シタル煙草ヲ他ニ讓渡シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第五十五條 第三十二條ニ違反シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第五十六條 許可ヲ受ケサル者ノ耕作若ハ試作シタル葉煙草又ハ煙草耕作者、試作ニ非サル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナル葉煙草若ハ煙草苗ヲ所持スル者ハ四十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係

ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ四十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第六十三條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ再犯減輕、再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用非ス

第六十五條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、煙草製造專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處分ヲ免カルコトヲ得ス

第六十六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス



第六十七條 間接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第六十八條 本法ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條第二項及第七十三條ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本法施行ノ際ニ於ケル煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日迄刻煙草ノ製造ニ限リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

前項刻煙草ノ製造及其ノ原料ニ供スル葉煙草ノ賣買ニ關シテハ明治三十八年三月三十一日迄本法ノ規定ニ適用セス仍葉煙草賣法ヲ適用ス

第六十九條 本法施行ノ際ニ於ケル葉煙草耕作者ハ本法ニ依ル煙草耕作者ト看做ス

第七十條 左記ノ物件ハ政府之ヲ徵收シ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

一 明治三十七年六月三十日ニ現在スル煙草製造専用ノ器具機械及卷紙但シ刻煙草製造専用ノモノヲ除ク  
二 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル刻煙草製造

專用ノ器具機械

三 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル葉煙草第七十一條 本法施行ノ際政府ノ保管ニ係ル輸出葉煙草ニ關シテハ本法施行後ト雖仍葉煙草專賣法ヲ適用ス

第七十二條 明治三十七年六月三十日ニ現在スル刻煙草以外ノ煙草製造業者ノ所有ニ係ル葉煙草ハ明治三十八年三月三十一日迄ハ刻煙草製造業者若ハ葉煙草賣買者ニ限リ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ所有スルコトヲ得但シ外國產葉煙草ニ限リ明治三十七年七月二十日迄ニ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第七十三條 本法發布ノ際ニ現在スル煙草製造用ノ建物其ノ敷地其ノ製造場備付ノ煙草製造用ノ器具器械ハ政府ニ於テ之ヲ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

政府ハ本法發布ノ後煙草製造業者ノ營業場ニ就キ前項ニ依リ徵收スヘキ物件ヲ調査シ徵收目錄ヲ調成ス徵收目錄ハ本法發布後六十日以内ニ之ヲ所有者ニ告知ス

前項ノ告知後ハ所有者ハ政府ノ承認ヲ受ケルニ非サレハ徵收目錄ニ記載シタル物件ヲ處分スルコトヲ得ス  
第七十四條 煙草製造業者ノ所有ニ係ル煙草ノ製造及裝

置ニ使用スヘキ物件並其ノ現ニ使用スル煙草製造及裝

置用器具器械ニシテ第七十條ノ規定ニ該當セルモノハ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得但シ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年六月三十日ニ現在スルモノニ限リ刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日ニ現在スルモノニ限ル

前項ニ依リ買上ヲ請求シ得ヘキ物件ノ種類數量並器具器械ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條 政府ハ煙草製造業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ二割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金五百圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金五百圓ヲ交付ス但シ煙草製造用ノ建物及其ノ敷地ヲ所有スル者ニシテ其ノ建物及敷地ノ全部ノ徵收又ハ買上ヲ受ケサル者ニ對シテハ尙交付金ニ相當スル金額ノ六分ノ一ヲ増給ス

政府ハ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニテ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ一割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金二百五十圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金二百五十圓ヲ交付ス但シ煙草製造業者兼ネタル葉煙草賣買業者カ自己ノ製造用ニ供シタル葉煙草ノ代金ハ本項ノ煙草賣渡代金中ニ算入スルコトヲ得サル

モノトス(四十年五月法律第五十號ヲ以テ追加)

煙草製造業者ニシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレタルモノニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セス

第一項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計金九百十萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス

第二項ニ依リ交付スヘキ金額ハ總計金二百萬圓ヲ以テ限度トス若此ノ金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ各自ニ按分シテ之ヲ減少ス(同上追加)

第一項及第二項ノ賣渡代金ハ明治三十五年ヨリ明治卅六年ニ至ル二箇年間ノ賣渡代金ノ平均高ニ依リ明治三十五年二月以後ニ其ノ營業ヲ開始シタル者ハ明治三十六年ノ賣渡高ニ依ル

第一項ニ煙草製造業者トアルハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ以前ヨリ明治三十七年六月三十日ニ至ル迄、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ被相續人ノ營業ミタル煙草業ヲ繼續シタル場合ニ於テ被相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス



第二項ニ葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者トアルハ明治三十六年一月三十一日以前ヨリ明治三十八年三月三十一日ニ至ル迄其ノ營業ヲ繼續シタルモノニ限ル但シ家督相續人カ被相續人ノ營業ニタル葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ヲ繼續シタル場合ニ於テ被相續人ノ營業期間ハ家督相續人ノ營業期間ト看做ス(同上追加)

第七十六條 第七十五條第一項第二項ノ賣渡代金ハ確實ナリト認ムル帳簿書類ニ依リ政府之ヲ決定ス(同上改正)  
第七十七條 第七十條、第七十三條ノ補償價格及第七十二條、第七十四條ノ買上價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議整ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス  
前項ノ決定ニ對シ不服アル者ハ十日以内ニ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ更ニ鑑定人ノ意見ヲ徵シテ之ヲ裁定ス

鑑定人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第七十八條 第七十條第一號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十七年七月五日迄ニ、同條第二號ノ物件ヲ所有スル

製造業者ノ明治三十八年三月三十一日迄ニ製造シタル刻煙草ハ本法ノ規定ニ依ラス之ヲ所持シ讓受クルコトヲ得  
政府ハ必要ト認メタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造煙草ニ包裹ヲ施サシメ並一定ノ證據ヲ貼附セシムルコトヲ得  
前項ニ依ル命令ニ違反シ包裹ヲ施サス又ハ證據ヲ貼附セサル煙草ニ關シテハ第三十四條及第五十七條ヲ準用ス

第八十三條 煙草製造業者又ハ製造煙草ヲ販賣スル者ハ明治三十七年六月三十日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草以外ノ製造煙草ノ種類數量ヲ明治三十七年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ  
刻煙草製造業者ハ明治三十八年三月三十一日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル刻煙草ノ種類數量ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

第八十四條 本法施行後政府ノ賣渡ササル製造煙草ヲ販賣スル者ハ營業ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治三十七年七月以後末日ニ於ケル製造煙草ノ種類數量及其ノ月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ  
第八十五條 第八十三條及第八十四條ノ規定ニ違反シタ

者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第三十六條及第六十條ヲ適用ス前項ニ依リ申告ヲ爲シタル物件ノ藏置ニ關シテハ之カ徵收ヲ終ル迄第三十六條ヲ適用セス  
第七十九條 第七十條第三號ノ物件ヲ所有スル者ハ明治三十八年四月五日迄ニ其ノ種類數量ヲ政府ニ申告スヘシ此ノ期限ヲ過キ申告ヲ爲ササルトキハ其ノ物件ノ藏置ニ關シテハ第五十六條ノ例ニヨリ處分ス

第八十條 第七十四條ニ依ル物件買上ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年七月五日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年四月五日迄ニ之ヲ爲スヘシ  
第八十一條 第七十五條ニ依ル交付金ノ請求ハ刻煙草以外ノ煙草製造業者ニ在リテハ明治三十七年九月三十日迄ニ、刻煙草製造業者ニ在リテハ明治三十八年六月三十日迄ニ、葉煙草賣買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ在リテハ明治四十年十二月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ(同上改正)

第八十二條 本法施行ノ際現在スル製造煙草又ハ刻煙草ル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第八十六條 葉煙草專賣法ニ違反シタル者ニハ本法施行後ト雖仍同法ヲ適用ス  
第八十七條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ之ヲ施行セス  
本法ヲ施行セサル地ト本法施行地トノ間ニ於ケル煙草ノ移入移出ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ヌ犯シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス

第八十八條 明治三十八年ニ於テハ煙草製造業者及葉煙草賣買業者ニ係ル免許料ハ之ヲ徵收セス  
明治三十七年ニ於ケル刻煙草以外ノ製造業者ニ係ル免許料ハ其ノ十二分ノ六ヲ還付ス

第八十九條 第七十條、第七十三條ノ補償金、第七十二條第七十四條ノ買上金及第七十五條ノ交付金ニ充ツル爲政府ハ國庫債券ヲ發行スルコトヲ得  
第七十五條ノ交付金ハ國庫債券ヲ以テ之ヲ給付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス  
第七十條、第七十三條ノ補償金及七十二條、第七十四條ノ買上金ハ本人ノ請求ニ依リ國庫債券ヲ以テ給付

ル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第八十六條 葉煙草專賣法ニ違反シタル者ニハ本法施行後ト雖仍同法ヲ適用ス  
第八十七條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ之ヲ施行セス  
本法ヲ施行セサル地ト本法施行地トノ間ニ於ケル煙草ノ移入移出ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ヌ犯シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス



スルコトアルヘシ  
 國庫債券ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附シ發行ノ年ヨリ七箇年以内ニ之ヲ償還ス  
 國庫債券ニ關シテハ本條ニ規定スルモノノ外整理公債條例ニ準據ス  
 但シ第七十五條第二項ニ依リ交付スル國庫債券ニ限リ發行ノ年ヨリ十箇年以内ニ之ニ償還ス(尙上追加)

●煙草專賣法施行細則 (明治三十七年五月(大藏省令第十九號))

第一條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ、葉煙草收納所長ノ定ムル期間内ニ第一號書式ノ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受クヘシ  
 前項耕作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ノ許可證ヲ交付スヘシ  
 第二條 葉煙草收納所長ハ左ノ順序ニ依リ煙草ノ耕作ヲ許可スヘシ  
 一 前年ニ於テ煙草ノ耕作、乾燥、調理、包裝、品質等他ノ模範トナルヘキモノト認メラレタル者  
 二 前年迄煙草ノ耕作ヲ申請セル者  
 三 本年新規耕作ヲ申請セル者  
 第三條 葉煙草收納所長ハ耕作許可申請ニ係ル段別カ申

請者ノ資力及其ノ耕作上ノ設備ニ比シテ過當ナリト認ムルトキハ其ノ段別ヲ減少シテ許可スルコトアルヘシ  
 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ煙草耕作者タルコトヲ得ス  
 一 煙草賣捌人  
 二 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者、販賣者又ハ藏置者  
 三 煙草ノ輸出又ハ移出ヲ業トスル者  
 四 前各號ノ一ニ該當スル者ト同一ノ家ニ在ル者又ハ其ノ同居者  
 第五條 葉煙草收納所長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ煙草耕作ヲ許可セサルコトアルヘシ  
 一 煙草ニ關スル法令ニ違反シタル者  
 二 煙草耕作ノ成績不良ナリシ者  
 三 不適當ト認ムル場所ニ煙草ヲ耕作セムトスル者  
 四 取締上不便ト認ムル場所ニ煙草ノ耕作、乾燥又ハ藏置ヲ爲サムトスル者  
 五 段別五畝步未滿ノ土地ニ煙草ヲ耕作セムトスル者  
 六 其ノ他煙草耕作者タルニ不適當ナリト認ムル者  
 第六條 煙草耕作者苗床ノ場所、坪數、煙草耕作地ノ場所、段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ變更

増減シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキハ第一號書式ニ準シ所管葉煙草收納所ニ申請シ許可ヲ受クヘシ  
 第七條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスル者ハ其ノ耕作許可證並第三號書式ノ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受クヘシ  
 相續ニ因リ其ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ其ノ耕作許可證並第四號書式ノ申告書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ耕作許可證ヲ交付ヲ受クヘシ  
 第八條 煙草耕作者其ノ耕作段別ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ煙草專賣法第三十七條ニ依リ耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ  
 第九條 煙草耕作者煙草苗ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲サムトスルトキハ第五號書式ノ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受クヘシ  
 第十條 煙草耕作者其ノ許可證ヲ亡失シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ之カ再交付ヲ所管葉煙草收納所ニ申請スヘシ  
 第十一條 左ニ掲クル事項ハ葉煙草收納所長ノ指示スル所ニ從フヘシ

- 一 種子ノ採收
- 二 苗床ノ設備及其ノ管理
- 三 播種期
- 四 移植期
- 五 畦間株間ノ距離
- 六 腋芽摘搔
- 七 心止
- 八 其ノ他ノ耕作方法
- 九 葉分ノ選別
- 十 乾燥ノ方法
- 十一 葉燻ノ方法
- 十二 一把ノ葉數
- 十三 一包ノ把數又ハ量目
- 十四 結束材料
- 十五 包裝ノ方法
- 第十二條 煙草ノ移植ヲ了シタルトキハ殘存セル煙草苗ハ直ニ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ豫備苗トシテ必要ノ本數ヲ保存スルコトヲ得
- 第十三條 煙草耕作者ハ其ノ耕作地一箇所毎ニ字、地番氏名及許可番號ヲ記シタル目標ヲ設クヘシ
- 第十四條 煙草專賣法第十一條ニ依リ葉煙草ノ量目又ハ



葉數ヲ査定セムトスルトキハ葉煙草收納所長ハ其ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ公示スヘシ

第十五條 煙草耕作者當該官吏ノ査定シタル量目又ハ葉數ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サルトキハ即時異議申立簿ニ其ノ不服ノ要領ヲ記入シ捺印スヘシ

第十六條 煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ選定スヘキ鑑定人葉煙草收納所長ニ於テ少クモ其ノ半數ヲ煙草專賣局員以外ヨリ選定スルモノトス

第十七條 葉煙草收納所長煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ決定書ヲ異議申立人ニ交付スヘシ

第十八條 煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ耕作煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管葉煙草收納所ニ届出ツヘシ

第十九條 枯葉、不熟葉、他損葉、立枯等アルトキハ煙草耕作者ハ當該官吏ニ申出テ其ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十條 煙草耕作者種子採取ノ爲母木ヲ保存セムトスルトキハ其ノ種類、本數ヲ定メ豫メ所管葉煙草收納所長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 葉煙草ハ其ノ種類、乾燥法、葉分、品質、

葉並ニ依リ區分調理スヘシ  
第二十二條 前條ノ葉分ハ總テ左ノ區分ニ依ルヘシ

- 一 土葉
- 二 中葉
- 三 本葉
- 四 天葉

前號ノ葉分ニ依リ雜キモノハ雜葉トスヘシ

第二十三條 乾燥調理ノ際生シタル葉屑等ニシテ收納ニ適セサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第二十四條 葉煙草納付ノ場所及期日ハ葉場草收納所長之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第二十五條 煙草耕作者納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ耕作認可證ヲ携帶スヘシ

前項ノ許可證ハ納付ノ際之ヲ所管葉煙草收納所ニ提出シ葉煙草ノ納付量目、賠償金等ノ記入ヲ受クヘシ

第二十六條 煙草耕作者ノ納付セムトスル葉煙草ニシテ乾燥、調理、包裝ノ不完全ナルモノハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十七條 煙草耕作者煙草專賣法第二十六條ニ依リ再鑑定ヲ求メムトスルトキハ賠償金ノ請求前ニ於テ第七號書式ニ依リ其ノ不服ノ要領ヲ所管葉煙草收納所長ニ

申出ツヘシ

第二十八條 第二十七條ニ依リ再鑑定ノ申立アリタルトキハ葉煙草收納所長ハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ第八號書式ノ決定書ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項ノ鑑定人ハ少クトモ其ノ半數ヲ煙草專賣局員以外ヨリ選定スヘシ

第二十九條 葉煙草收納所長ハ取締上必要ト認メタルトキハ煙草耕作者ニ對シ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルコトヲ得

第三十條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サルトスルトキハ第一號書式ニ準シタル申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項試作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ニ準シタル許可證ヲ交付スヘシ

第三十一條 輸出ノ爲、葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ノ輸出煙草賣渡申請書ヲ煙草專賣局長官ニ差出シ其ノ指定スル煙草專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ但シ政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回當萬五千圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請

求スルコトヲ得

輸出ノ爲常時製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ豫メ國債證券ヲ提供シ置クトキハ其ノ證券ノ價格ニ達スル迄代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得但シ毎回ノ買受代金當萬五千圓ヲ下ラサルコトヲ要ス

前二項ノ國債證券ノ價格ハ明治三十八年勅令第二十號ニ規定セラレタル國債證券ニ就キテハ該勅令ノ規定ニ依リテ算定シ其ノ他ノ國債證券ニ就キテハ市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シテ算定

シ第二項ノ場合ニ於テハ毎年四月之ヲ改算ス

製造煙草ノ代金納付ノ擔保トシテ提供スヘキ國債證券ハ提供者之ヲ依託シ其ノ供託受領證ヲ差出スヘシ

第一項但書及ヒ第二項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收濟ノ日ヨリ起算シ三箇月以内ニ完納スヘシ

輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者煙草ノ藏置場ヲ變更セムトスルトキハ所管煙草收納所ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

(四十年五月大藏省令第十九號ヲ以テ改正)

第三十二條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ輸出後煙草專賣局長ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀並外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ煙草專賣局ニ差出スヘシ



第三十三條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 葉煙草ノ買入年月日、拂出(輸出、納付又ハ廢業)年月日、包裝番號、種類、葉分、量目、代金及仕向先

二 葉煙草ノ改裝年月日、元包裝番號、元量目、改裝番號及改裝量目

三 製造煙草ノ買受年月日、拂出(輸出、納付又ハ廢業)年月日、種類、名稱、數量、(本數別又ハ量目別)代金及仕向先

第三十四條 輸出ノ爲買受タル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ其ノ使用ニ適セサルニ至リ之ヲ廢棄セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管葉煙草收納所ニ申出テ許可ヲ受ケヘシ

第三十五條 標本ニ供スル爲葉煙草ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第十號書式ノ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出スヘシ

第三十六條 標本ニ供スル爲葉煙草又ハ製造煙草ノ輸入ヲ爲サムトスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ煙草專賣局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

第三十七條 第三十五條及第三十六條ノ標本煙草ヲ標本

トシテ他ニ讓渡サムトスルトキハ第十二號書式ノ申請書ヲ所管葉煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

第三十八條 煙草專賣法第三十二條ニ依リ製造煙草ヲ輸入セムトスル者ハ第十三號書式ノ申請書ヲ煙草專賣局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

第三十九條 煙草專賣法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ煙草專賣局長ハ特ニ定メタル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得

第四十條 移出ノ爲ニ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ニ準シタル賣渡申請書ヲ煙草專賣局長ニ差出シ其ノ指定スル煙草專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ(三十七年十二月大藏省第四十四號ヲ以テ改正)

第四十一條 移出ノ爲ニ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ買受後相當ノ期間内ニ其買受ヲ爲シタル煙草專賣官署ニ差出スヘシ正當ノ事由ナクシテ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタル數量カ買受ヲ爲シタル數量ヨリ少キトキハ移出者ヲシテ其ノ不足額ニ對スル煙草ノ定價ト其ノ買受價額トノ差額ニ相當スル金額ヲ其ノ買受ヲ爲シタル煙草專賣官署ニ納付セシム(同上改正)

第四十二條 移出者ハ第三十三條ノ規定ニ準シ、帳簿ノ

調製記載ヲ爲スヘシ

第四十三條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ヲ製作シ又ハ藏置セムトスル者ハ第十四號又ハ第十五號書式ノ申請書ヲ所管煙草收納所ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ廢セムトスルトキハ其ノ旨所管煙草收納所ニ届出ツヘシ

第四十四條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者又ハ販賣者ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ器具機械又ハ卷紙ノ種類、數量、代金、製作月日又ハ買受先賣渡月日、賣渡先ヲ記載スヘシ

第四十五條 煙草、煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ運送ヲ委託セラレタル者ハ其ノ運送中ハ委託者ノ代理人トナリタルモノト看做ス

附 則

第四十六條 本省令ハ煙草專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條 明治三十年大藏省令第十六號葉煙草再鑑定規定及明治三十四年大藏省令第四號葉煙草專賣法施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ煙草專賣法附則第六十八條第二項ニ依リ刻煙草ノ製造ヲ業トスル者及葉煙草ノ賣買ヲ業トスル者ニ對シテハ仍葉煙草專

賣法施行細則ヲ適用ス

第四十八條 煙草專賣法第八十三條ニ依ル申告書ハ第十號書式ニ依リ所管煙草收納所ニ差出スヘシ

第四十九條 煙草專賣法第八十四條ニ依リ調製スヘキ帳簿ニ關シテハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス

明治三十七年七月以後ニ於ケル毎月末日現在製造煙草ノ種類、數量及其ノ月ノ受拂高ハ第十七號書式ニ依リ翌月五日迄ニ所管葉煙草收納所ニ申告スヘシ(書式略ス)

● 煙草賣捌規則

(明治三十八年二月 大藏省令第四號)

第一條 煙草元賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ煙草小賣人ニ賣渡スモノトス

煙草小賣人ハ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス

政府ハ特殊ノ場合ニ於テ製造煙草ヲ特定價格ヲ以テ煙草小賣人又ハ消費者ニ賣渡スコトアルヘシ

煙草元賣捌人ハ他ノ煙草元賣捌人ト製造煙草ヲ賣買スルコトヲ得

第二條 煙草元賣捌人及煙草小賣人ハ煙草專賣局長之ヲ指定ス



煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人タラントスル者ハ第一號書式ニ依リ申請スヘシ

第三條 左ニ掲クル者ハ煙草元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス

一 煙草耕作者之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ煙草耕作者ノ同居者

二 專賣法規若ハ租稅法規ニ違反シ罰金以上ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者

三 身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ確認スルニ至ル迄ノ者

四 國稅滯納處分ヲ受ケ又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一箇年ヲ經サル者

五 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

六 公權剝奪若ハ停止中ノ者

七 履行期日ヲ過キ仍ホ製造煙草ノ買入代金ヲ完済セサル者

會社ノ場合ニ於テハ前二項各號ノ事實ノ有無ハ會社又ハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員取締役又ハ監査役ニ付之ヲ定ム

第四條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ハ五箇年以内ニ於テ煙草專賣局長ノ指定シタル期間其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續人ハ煙草專賣局長ニ申告シ殘期間其ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得

第五條 煙草元賣捌人相互ニ組合契約ヲ締結シ共同シテ其業務ヲ營マントスルトキハ第七號書式ニヨリ組合契約書ヲ添ヘ煙草專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ニヨリ組合契約ヲ締結シタル者ハ其組合員タル期間各自單獨ニ營業ヲナスコトヲ得ス但二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草元賣捌人カ其ノ一部營業所ノ營業ニ付キ組合ニ加入シタルトキハ他ノ營業所ニ於テ單獨ニ營業ヲナスコトヲ妨ケス

組合契約ヲ變更セムトスルトキハ變更契約書ヲ添ヘ煙草專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者會社ヲ設立シ第一號書式ニヨリ煙草專賣局長ニ申請シタルトキハ煙草元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス(廿九年七月大藏省令第卅三號改正)

定セラル、コトヲ得此場合ニ於テハ會社ヲ組織シタル煙草元賣捌人ノ指定ハ當然消滅ス

前二項ノ規定ニヨリ煙草元賣捌人ニ指定セラレタル會社ハ其會社ヲ組織シタル前ノ煙草元賣捌人ノ所有スル製造煙草ヲ引受クルモノトス

定款ヲ變更セムトスルトキハ變更定款ヲ添ヘ煙草專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ本條ニ依ラスシテ煙草元賣捌人ニ指定セラレタル會社亦同シ (廿九年七月大藏省令第卅三號ヲ以テ改正)

第六條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニシテ其ノ營業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ廢業ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨ヲ煙草專賣局長ニ申告スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テ煙草專賣局長ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得但シ第三號ノ規定ハ煙草小賣人ニハ之ヲ適用セス

一 本規則ニ違反シ當該官吏ノ注意ヲ受クルモ尙之ニ從ハサルトキ

二 煙草元賣捌人ニ在リテハ第三條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ煙草小賣人ニ在リテハ第三條第一項第二號又ハ第七號ニ該當スルニ至リタルトキ(同上改正)

三 政府ヨリノ煙草買受代金一箇年五千圓未滿ナルトキ

會社カ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラレタル場合ニ於テ前項第一號第二號ノ事實ノ有無ハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役又ハ監査役ニ付之ヲ定ム

第八條 煙草元賣捌人ノ買受クル製造煙草ノ代金ハ政府ノ定メタル價格ニ對シ一定ノ割引歩合ニ依リ之ヲ定ム

第九條 煙草元賣捌人、製造煙草ヲ買受ケントスルトキハ第三號書式ニ依リ毎月五日迄ニ翌月分ノ製造煙草買受申込書ヲ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ニ差出スヘシ

第十條 政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回五百圓ニ達セサル者ハ其ノ金額ヲ納付シタル後ニ非レハ現品ノ引渡ヲ受クルコトヲ得ス

政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回五百圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券地方債證券若クハ煙草專賣局長ノ指定シタル株式會社ノ株券又ハ債券ヲ提供シ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得 (三十九年五月大藏省令第十八號改正)

常時製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ前



項ノ有價證券ヲ豫メ提供シ置クトキハ其ノ證券ノ價格ニ達スルマテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得但シ毎回ノ買受代金五百圓ヲ下ラサルコトヲ要ス

前二項ノ有價證券ノ價格ハ市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シテ計算シ第三項ノ場合ニ於テハ毎年四月之ヲ改算ス

代金納付ノ擔保トシテ提供スヘキ有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ差出スヘシ

第二項第三ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收濟ノ日ヨリ二箇月以内ニ之ヲ完納スヘシ

第十一條 煙草元賣捌人カ買受ケタル製造煙草ハ煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ニ於テ之ヲ引渡スモノトス

煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ヨリ煙草元賣捌人ノ營業所ニ至ル迄ノ製造煙草運搬費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス但シ煙草元賣捌人ノ營業所カ煙草販賣所煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ノ所在地及之ニ準スヘキ地ニ在ルトキハ其ノ運搬費ヲ支給セス

煙草專賣局長ハ必要アリト認メタルトキハ前項ニ依リ運搬費ヲ支給スヘキ場合ニ於テハ其ノ製造煙草ノ運送

置所ニ差出スヘシ

第十七條 煙草元賣捌人ハ製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草製造所又ハ煙草製造所分工場ニ之レカ引替ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ煙草元賣捌人ハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ調製シ其ノ製造煙草ハ別ニ之ヲ保存シ當該官吏ノ検査ヲ受ケ其ノ證明書ヲ添ヘ煙草製造所又ハ煙草製造所分工場ニ現品ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲メニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

前二項ノ規定ハ第一條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス (廿九年七月六號省令第卅三號追加)

第十八條 煙草小賣人第二十二條ニ依リ製造煙草ノ引替ヲ請求シ又ハ第二十四條ニ依リ製造煙草ノ買戻ヲ請求シタルトキハ煙草元賣捌人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 煙草元賣捌人ハ第四號及第五號書式ノ帳簿ヲ

業者ヲ指定スルコトアルヘシ

前三項ノ規定ハ第一條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ互ニ相當スルコトヲ得ス又其ノ營業所ヲ同クスルコトヲ得ス

第十三條 煙草元賣捌人ノ營業所ハ一人一箇所ニ限ルモノトス但シ既ニ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草元賣捌人ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 煙草元賣捌人ハ煙草專賣局長ノ許可ヲ受ケタルニ非レハ其ノ營業所ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第十五條 煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼ヌルトキハ其ノ營業所ト他ノ營業所トノ間ニ相當ノ區劃ヲ設クヘシ

第十六條 製造煙草ノ價格ヲ引下ケタル場合ニ於テハ煙草元賣捌人ハ舊價格ニテ買受ケ變更價格ノ適用期日ニ至ル迄所有シタル製造煙草ノ買受代金ト變更價格ニ基キ計算シタル金額トノ差額ノ拂戻ヲ變更價格ノ適用期日後十五日以内ニ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ製造煙草ノ種類、名稱、包裹別、數量ヲ證明スルニ足ル書類及拂戻金計算書ヲ其ノ煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏

調製シ翌月五日マテニ第六號書式ノ製造煙草受拂月計表ヲ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場、又ハ煙草藏置所ニ差出スヘシ

第二十條 煙草元賣捌人引續キ指定セシタルトキハ現存スル製造煙草ハ當然之ヲ引續クモノトス

煙草元賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレタルトキハ現存スル製造煙草ハ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ニ之レカ買戻ヲ請求スルコトヲ得 (四十年三月六號省令第十五號ヲ以テ改正)

煙草元賣捌人死亡シ其營業ヲ承繼スルモノナキトキ又ハ其指定ヲ取消サレ若クハ其營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル製造煙草ハ事實ノ發生後三十日以内ニ煙草專賣局長ノ指定シタル煙草販賣所、煙草製造所、煙草製造所分工場又ハ煙草藏置所ニ之レカ買戻ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於ケル買戻價格ハ現行價格ヨリ煙草元賣捌人ヘノ現行割引歩合ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス (廿九年七月六號省令第卅三號改正)

第二十一條 煙草小賣人ハ營業所ノ見易キ場所ニ製造煙草ノ定價表ヲ掲クヘシ



第二十二條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ煙草小賣人ハ買受先ニ之レカ引替ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ煙草小賣人ハ其ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ調製シ其ノ製造煙草ハ別ニ之ヲ保存シ當該官吏ノ検査ヲ受ケ其ノ證明書ヲ添ヘ買受先ニ現品ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ辨償スヘシ

第二十三條 煙草小賣人ハ帳簿ヲ調製シ製造煙草ヲ買受ケタルトキハ其ノ買受先買受年月日並其ノ種類、名稱數量、代金ヲ記載スヘシ

第二十四條 煙草小賣人引續キ指定セラレタルトキハ現存スル製造煙草ハ當然之ヲ引續クモノトス

煙草小賣人死亡シ其營業ヲ承繼スル者ナキトキ又ハ其指定ヲ取消サレタルトキハ現存スル製造煙草ハ事實ノ發生後三十日以内ニ其買受先ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ第一條第三項ニ依リ政府ヨリ直接ニ賣渡シタル製造煙草ノ買戻シ價格ハ煙草小賣人ヘノ現行賣渡價格ヲ以テス(同上改正更ニ四十年三月大藏省令第十五號ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ若ハ包裹ノ破損シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除スヘシ

第二十五條 本規則中煙草專賣局長ニ差出スヘキ書類ハ別表ノ區域ニ依リ關係ノ煙草製造所煙草製造分工場若クハ煙草販賣所藏置所ヲ經由スヘシ(同上改正)(書式略之)

(明治四十一年三月大藏省令第十號ヲ以テ次項ノ改正アリ)

本規則中「煙草專賣局長」ヲ「專賣局長官」ニ「煙草販賣所」ヲ「專賣局販賣所」ニ「煙草製造所」ヲ「專賣局製造所」專賣局製造所藏置所ニ「煙草製造所分工場」ヲ「專賣局製造所分工場」ニ「煙草藏置所」ヲ「專賣局販賣所藏置所」ニ改ム

●煙草仲買人及葉煙草耕作者葉煙草納付規程 (明治三十年九月)

第一條 煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ニシテ葉煙草專賣法施行ノ際煙草ヲ所持スル者ハ左ノ期限ニ從ヒ所管葉煙草專賣所ニ納付スヘシ但葉煙草耕作者ニシテ此ノ期限ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セントスルトキハ所管葉煙草專賣所ノ認許ヲ受クヘシ

賣所ノ認許ヲ受クヘシ

- 一 煙草仲買人 明治三十一年一月三十一日限
- 一 葉煙草耕作者 明治三十一年三月三十一日限
- 第二條 煙草仲買人及葉煙草耕作者ヨリ納付スル葉煙草ニ對シテハ大藏大臣定ムル所ノ賠償金ヲ交付ス
- 第三條 煙草仲買人及葉煙草耕作者納付葉煙草ノ再鑑定ヲ求ムルトキハ明治三十年大藏省令第十六號ヲ準用ス
- 第四條 葉煙草耕作者ヨリ納付スヘキ葉煙草ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外葉煙草專賣ニ關スル一般ノ規定ヲ準用ス

●石油消費稅法 (明治四十一年三月十六日)

- 第一條 石油ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス
- 第二條 消費稅ハ石油一石ニ付金一圓ノ割合トス
- 第三條 外國ニ輸出スル石油ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費稅ヲ免除ス
- 消費稅ヲ納付シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ニ相當スル金額ヲ交付ス
- 第四條 消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ石油ヲ引取ルトキハ引取人之ヲ納付スヘシ
- 第五條 消費稅額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ

政府ハ三月以内ノ期間ヲ以テ消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第六條 石油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セスシテ之ヲ貯藏場ニ移出スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第七條 消費稅ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル石油ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ數量ニ付政府ノ承認ヲ受クルトキハ其ノ數量ニ相當スル石油ニ付テハ更ニ消費稅ノ徵收ヲ爲サス

第八條 製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ石油ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ數量ヲ政府ニ申告スヘシ

第九條 第五條又ハ第六條第一項ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ石油ヲ引取ルトコトヲ得ス

第十條 石油製造者ハ第五條又ハ第六條第一項ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ石油ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス

第十一條 石油ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ

第十二條 石油製造者ハ同一ノ場所ニ於テ石油ノ販賣業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得石油ノ製造場ト販賣場トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス



第十三條 石油ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ石油ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ石油ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り石油、原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル石油ヲ検査シ其ノ出所及到著先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費稅ヲ徵收ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 政府ニ申告セシテ石油ヲ製造シタルトキ  
二 外國ニ輸出スル爲消費稅ヲ免除セラレタル石油ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 第六條第一項ニ依リ移出シタル石油ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セス又ハ之ヲ消費シタルトキ

四 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタルトキ第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十四圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十二條ノ規定ニ違反シタルトキ  
二 石油ノ製造者又ハ販賣者石油ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第十九條 石油ノ製造者又ハ販賣者カ未成年者若ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 石油ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

附 則

第二十一條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本施行前ヨリ石油ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後一ヶ月以内ニ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

第二十三條 本法ヲ施行セル地ニ於テ製造又ハ輸入シタル石油ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス前項ノ石油及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ニ沒收ス

●石油消費稅法施行規則

(明治四十一年三月十六日勅令第四十一號)

第一條 石油ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ製造場所轉稅務署ニ申告スヘシ

第二條 製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得

第三條 所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ石油製造者ニ製造所ノ圖面又ハ製造用ノ器具、機械ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四條 石油製造者、製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第五條 石油製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ著手スル毎ニ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 第一條若ハ前條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 石油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

石油製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條 石油製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條 外國ニ輸出スル石油ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ其ノ石油ニ封印ヲ施シ之ヲ護送シ又ハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

消費稅ノ免除ヲ得タル石油ヲ製造場、稅關又ハ保税倉



庫ヨリ引取リタル後六月以内ニ外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出セサルトキハ外國ニ輸出セラレサルモノト看做シ引取人ヨリ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十條 消費稅ヲ納付シタル石油ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際其ノ旨輸出港稅關ニ申告スヘシ

前項ニ依リ輸出ヲ爲シタル者其ノ石油ニ付消費稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類及外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付シ輸出港稅關ニ出願シタルトキハ消費稅ニ相當スル金額ヲ交付ス

第十一條 石油消費稅法第六條ニ依リ石油ヲ移出セムトスル者ハ運搬線路及運搬光ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第十二條 第九條及前條ノ場合ヲ除クノ外製造場、又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引取ラムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十三條 金庫所在地以外ニ限り收稅官吏ハ消費稅金ノ領收ヲ爲スコトヲ得  
第十四條 擔保物ノ種類ハ金錢及所轄稅務署ノ確實ト認

擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十五條 擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十六條 擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ  
前項ノ場合ニ於テ擔保有價證券ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充ツ  
前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十八條 石油製造者ハ少クモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ  
一 原料ノ種類數量他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

附 則

本令ハ石油消費稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
石油消費稅法第二十二條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

●印紙稅法

(明治三十二年三月法律第五十四號)

第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未満トナリ又ハ一錢未満ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價格ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條 約束手形ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ(四十年三月法律第七號追加)  
金高千圓以下ノモノ 印紙稅 五 錢

二 使用シタル原料種類、數量及其ノ使用ノ日  
三 製造シタル種類數量及其ノ製造ノ日  
四 他ニ引渡シタル種類、數量、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所氏名又ハ名稱  
第十九條 石油販賣者ハ少クモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ  
一 引取リタル數量引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱  
二 販賣シタル數量販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱  
小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス  
第二十條 本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場又ハ貯藏場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス  
第二十一條 收稅官吏ハ石油ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス  
第二十二條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラルル石油ニ關シテハ稅關之ヲ行フ



金高五千圓以下ノモノ	印紙稅	十錢	一地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書	印紙稅二錢
金高一萬圓以下ノモノ	印紙稅	二十錢	一使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書	印紙稅二錢
金高二萬圓以下ノモノ	印紙稅	五十錢	一定款及組合契約書	印紙稅二錢
金高三萬圓以下ノモノ	印紙稅	一圓	一權利ノ變更ニ關スル證書	印紙稅二錢
金高五萬圓以下ノモノ	印紙稅	二圓	一追認、承認ニ關スル證書	印紙稅二錢
金高十萬圓以下ノモノ	印紙稅	四圓	一物品切手	印紙稅二錢
金高十萬圓ヲ超ユルモノ	印紙稅	七圓	一賣買仕切書	印紙稅二錢
第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シテニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ (同上改正)			一送狀	印紙稅二錢
一委任狀	印紙稅一錢		一受取書	印紙稅二錢
一爲替手形	印紙稅二錢		一金高記載ナキ證書	印紙稅二錢
一銀行預金證書	印紙稅二錢		一擔保品差入證書、擔保品預證書	印紙稅二錢
一船荷證券	印紙稅二錢		一通帳	印紙稅二錢
一運送貨物引換證	印紙稅二錢		一判取帳	印紙稅二十錢
一倉荷預證券	印紙稅二錢		第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス	
一倉荷質入證券	印紙稅二錢		一官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿	
一保險證券	印紙稅二錢		一官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿	
一債券	印紙稅二錢		一國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書	
一株式申込證	印紙稅二錢			

一慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳又ハ公署ニ提出スル證書		第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ
一俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書		第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ
一小切手		第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買仕切書、送狀ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ
一金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形		第十一條 證書、帳簿ニ相當印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス
一營業ニ關セサル受取書		第十二條 第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
一主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約		第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
一證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書		第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用非ス
一株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載		附 則
一手形ノ引受保證		第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
一手形及證券ノ拒絕證書		第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
一手形及證券ノ複本、謄本		第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル
第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得 (三十四年法律第十六號ヲ以テ條中刪除)		
第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス		



手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ税金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

●收入印紙ニ關スル件 (明治三十一年七月) (勅令第百四十號)

證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ヲ貼用スヘキ場合ニハ自今一樣ノ收入印紙ヲ用ウヘシ其ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム但シ從來ノ證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ハ當分ノ内收入印紙ニ代ヘ使用スルコトヲ得

●印紙類賣下賣捌規則 (明治二十三年十一月) (勅令第百七十二號)

第一條 此ノ規則ニ依リ賣下賣捌ヲ爲スヘキ印紙類ハ左ノ如シ  
證券印紙手形用紙共  
煙草印紙  
訴訟用印紙  
賣藥印紙  
登記印紙

收入印紙(三十一年勅令第百八十七號ヲ以テ追加)

第二條 各府縣廳ニ左ノ印紙賣捌人ヲ置ク

元賣捌人

府縣廳ヨリ印紙類ヲ拂受ケ之ヲ其管内ニ於ケル賣捌人ニ賣渡スモノトス

賣捌人

元賣捌人ヨリ印紙類ヲ買受ケ之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 賣捌人ハ左ノ順序ニ從ヒテ之ヲ許可スヘシ但本條第三ニ該當スル者ハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ許可スルモノトス

一 陸海軍人其他公務ノ爲メニ受ケタル傷痕又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者

二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

三 一般人民

第四條 印紙類賣捌ヲ爲サントスル者ハ府縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第五條 (同上勅令ヲ以テ削除)

第六條 印紙類ノ賣下ハ其額面ニ對シ百分ノ七以内ノ割引ヲ爲スヘシ

第七條 印紙類ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ

印紙類ノ賣下代金一回二千圓以上ハ公債證書ヲ抵當ト爲シ六箇月以内ノ延納ヲ許スコトヲ得

第八條 元賣捌人及賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ印紙類額面ニ對シ百分十以内ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得但交換印紙ハ拾錢以上取纏メタルモノニ限ル

- 一 印紙類損傷又ハ汚染シタルトキ
- 一 印紙不用ニ歸シタルトキ

第九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ルトキハ其效ヲ失フモノトス  
恩給若ハ扶助料ヲ受クル者其權利消滅若ハ停止セラレタルトキ

一 賣捌區域外ニ移住スルトキ

第十條 印紙類ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クヘシトヲ得ス  
印紙類ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ  
前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス

第十一條 元賣捌人及賣捌人ノ配置並ニ第六條第八條ノ割引歩合其他此規則ニ關スル施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附

第十二條 此規則ハ府縣知事地方ノ實況ヲ量リ大藏大臣ノ認可ヲ經テ明治二十四年一月一日ヨリ漸次之ヲ施行スヘシ

第十三條 此規則中印紙類ノ割引ニ關スル條項ハ此規則ノ施行ニ拘ラス來ル明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十九年六月大藏省令第二十一號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 此規則ハ北海道及東京府管轄小笠島伊豆七島ニハ之ヲ施行セス(廿七年四月大藏省令第八十二號ヲ以テ改正)

●印紙類賣下賣捌規則施行細則

(明治二十三年十一月大藏省令第三十四號)

第一條 元賣捌人ハ本店ヲ府縣廳所在ノ地ニ置キ各稅務署所轄内ニ支店又ハ代理店ヲ設クヘシ(三十五年大藏省令第二十八號ヲ以テ本令中「開稅分署」及「開稅署」ヲ「稅務署」ニ「府縣知事」ヲ「稅務監督局長」ニ「稅務管理局長」ヲ「稅務署長」ニ改ム)

賣捌人ハ各稅務署所轄内ヲ一區若クハ數區トシ其區内ノ地勢商業等ノ實況ニ應シ稅務監督局長適宜其人員ヲ定ムヘシ(二十六年大藏省令第二十四號ヲ以テ一區ノ下「若クハ數區」ノ五字ヲ加フ)



第二條 印紙類ハ額面ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下ケ又ハ賣渡スモノトス(三十一年大藏省令第十五號ヲ以テ改正)

一 稅務署ヨリ元賣捌人ニ賣渡ストキ(百分ノ六)

一 元賣捌人ヨリ賣捌人ニ賣渡ストキ(百分ノ四)

第三條 規則第八條ノ割引歩合ハ額面ニ對シテ左ノ如シ(同上)

一 賣捌人ヨリ元賣捌人ニ請求スルトキ(百分ノ九)

一 元賣捌人ヨリ稅務署ニ請求スルトキ(百分ノ八)

印紙類ノ交換又ハ買戻ヲ請求セントスルトキハ賣捌人又ハ元賣捌人ニ元賣捌人ハ稅務署ニ申出ヘシ

第四條 規則第七條ノ公債證書ハ有利息ノモノニ限リ其ノ擔保價格ハ稅務署長ニ於テ相當ト認ムル價格ニ依ルヘシ(三十五年大藏省令第二十三號ヲ以テ改正)

第五條 免許ヲ得タル元賣捌人ハ稅務署ヨリ賣捌人ハ稅務署ヨリ各免許賣捌所ノ標札ヲ受ケ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

各賣捌人ノ改名轉居等ニ依リ異動ヲ生シタルトキハ其ノ訂正ヲ請フヘシ

廢業シタルトキハ標札ヲ返納スヘシ

第六條 規則第九條ノ場合ニ於テハ總テ廢業ノ取扱ニ依ルヘシ

第二條 三等郵便電信局郵便局及郵便切手賣捌所ニ於テ買受クヘキ收入印紙ハ其ノ買受高ニ對シ左ノ割合ヲ以テ賣渡スヘシ

一 郵便配事務ヲ取扱フ三等郵便電信局郵便局ニ對シテハ收入印紙買受高ノ百分ノ六

二 郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局郵便及郵便切手賣捌所ニ對シテハ收入印紙買受高ノ百分ノ四(同上改正)

第三條 三等郵便電信局郵便局及郵便切手 捌所ニ於テ買受ケタル收入印紙ノ汚損毀損シタルモノ又ハ效用ヲ失フヘキ處アルモノ及不用ニ歸シタルモノハ百分ノ九ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ爲スヘシ(同上改正)

第四條 郵便切手賣捌人其ノ郵便切手賣捌所ニ於テ收入印紙ノ賣捌ヲ爲サルトスルトキハ收入印紙賣捌免許申請書(第一號様式)ヲ作り所轄ニ三等郵便電信局郵便局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ郵便切手賣捌免許ヲ申請スル者ヨリ同時ニ收入印紙ノ賣捌免許ヲ申請スルトキ亦同シ

第五條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケ之ヲ許可スルトキハ郵便切手收入印紙賣捌免許證ヲ交付シ其ノ郵便切手賣捌人ノ申請ニ對シ收入印紙ノ賣

第七條 印紙類元賣捌人及ヒ賣捌人ハ印紙類受拂帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ但賣捌人ニ於テ煙草印紙賣藥印紙ヲ賣捌キタルトキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

第八條 印紙類賣下賣捌規則施行ノ前日ニ現在スル印紙賣捌人ハ更ニ願出ツルヲ要セス將來該規則ニ從ヒ繼續賣捌ヲ爲スコトヲ得

附 則

● 收入印紙賣下ニ關スル件 (明治二十二年三月勅令第五十號)

郵便切手ノ賣下ヲ爲ス郵便及電信局所並郵便切手賣下所ニ於テ收入印紙ノ賣下ヲ爲スコトヲ得其ノ賣下ニ關スル規定ハ遞信大臣之ヲ定ム

● 郵便局所收入印紙賣捌規則 (明治三十三年九月遞信省令第七十二號)

第一條 明治三十二年(二月)勅令第五十號ニ依リ賣下クヘキ收入印紙ハ郵便電信局及收入印紙賣捌ノ許可ヲ得タル郵便切手賣捌所ニ於テ之ヲ賣捌ク(廿八年三月遞信省令第六號ヲ以テ改正)

捌ヲ許可スルトキハ郵便切手免許證ト引替ニ之ヲ交付スヘシ

第六條 收入印紙賣捌ノ許可ヲ得タル郵便切手賣捌人ハ自費ヲ以テ郵便切手收入印紙賣捌所標札(第二號様式)ヲ調製シ公衆ノ看易キ場所ニ掲出スヘシ

第七條 郵便電信受取所ニ對シテハ總テ郵便受取所ニ關スル規定ヲ適用ス此ノ規定シタルモノノ外郵便切手類賣捌此ノ規則中郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局及郵便切手賣捌所ニ關スル規定ハ總テ在外郵便受取所及郵便切手賣捌所ニ準用ス(同上改正)

第八條 收入印紙賣捌ノ許可ヲ得タル郵便切手賣捌人此ノ規則ニ違背シタルトキハ其ノ賣捌免許ヲ取消スルトコトアルヘシ

第九條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第十條 此ノ規則施行以前郵便切手收入印紙賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ繼續ス

(本規則中賣下ク總テ賣捌ト改ム廿八年三月遞信省令第六號)

收入印紙賣捌免許申請書 (第一號様式)



本籍  
現住所

職業

「郵便切手賣捌人」

氏名

右ハ從來現住所若ハ何地ニ於テ郵便切手類賣捌致居  
「又ハ今般現住所若ハ何地ニ於テ郵便切手類賣捌免許申  
請」候處同所ニ於テ郵便切手類ト共ニ收入印紙賣捌致  
度候間免許相成度此段申請候也

年月日

氏

名印

何郵便電信(郵便局)御中

(第二號樣式)

二尺五寸

分五寸七

郵便切手  
賣捌所  
收入印紙

●郵便切手類賣捌規則 (明治三十三年九月號 信省令第七十五號)

第一條 此規則ニ於テ郵便切手類ト稱スルハ政府ニ於テ  
發行スル郵便切手郵便葉書郵便封皮郵便封緘紙郵便切  
手貯金票紙ヲ謂フ (三十四年逓信省令第九號第五十九號ヲ以テ本  
條中追加)

第二條 郵便切手類ハ郵便電信及電信局所ニ於テ之ヲ賣  
捌ク但シ郵便及電信局所内又ハ電話交換局内ニ設置ノ  
電話所及官應用電信電話又ハ私設ノ電信電話ニ依ル公  
衆通信取扱所ニ於テハ此ノ限ニアラス

前項ノ外必要ナル場所ニ郵便切手賣捌所ヲ置キ郵便切  
手類ノ賣下ヲ爲サシム

第三條 郵便切手類ハ前條ニ定メクル場所ノ外ニ於テ賣  
捌クコトヲ得ス

第四條 郵便切手類ハ定價ヲ以テ賣下クハシ

第五條 郵便切手類ノ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ關  
クヘキ處アルモノハ賣捌クコトヲ得ス

第六條 郵便切手類ノ賣捌時限ハ郵便及電信局所ニ於テ  
ハ郵便又ハ電報受附時限ニ依リ電信局所ニ於テハ電話  
所ノ電話通信時間ニ依ル但シ時間ヲ定メス受付ヲ爲ス  
ヘキ郵便又ハ電報ヲ差出スルハ本項ノ時限ニ拘ラス之

ニ要スル郵便切手類ヲ賣捌クヘシ (三十四年逓信省令第九號  
ヲ以テ但書追加)

郵便切手賣捌所ニ於テハ左ノ時限中ハ郵便切手類ノ賣  
捌ヲ謝絶スルコトヲ得ス (廿八年三月逓信省令第七號改正)

自三月一日至十月三十一日

午前六時ヨリ午後十時マテ

至十一月一日至二月末日

午前七時ヨリ午後十時マテ

第七條 郵便電信及電信局所並郵便切手賣捌所ニ於テ賣  
捌クヘキ郵便切手類ハ豫メ日ノ賣捌高ヲ見積リ常ニ  
相當ノ種類及員數ヲ備ヘ置クヘシ

第八條 三等郵便局ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ郵便  
集配事務ヲ取扱フ局ニ在リテハ所轄一等郵便局又ハ特  
ニ指定シタル二等郵便局ヨリ、郵便集配事務ヲ取扱ハ  
サル局ニ在リテハ其ノ他ノ郵便集配事務受持郵便局ヨ  
リ買受クヘシ

郵便切手賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ地  
ノ郵便集配事務受持郵便局ヨリ買受クヘシ但シ船舶内  
ノ郵便切手賣捌所ニ在リテハ其ノ船籍アル地ノ郵便集  
配事務受持郵便局ヨリ、郵便切手類買受組合ヲ設ケタ  
ル郵便切手賣捌所ニ在リテハ其ノ總代人ヨリ買受クヘ

シ

土地ノ狀況其ノ他特殊ノ事由ニ因リ前二項ノ規定ニ依  
ルヲ不便トスルトキハ所轄一二等郵便局長ノ承認ヲ受  
ケ他ノ郵便局ヨリ買受ケヲ爲スコトヲ但得シ此ノ場合  
ニ於テハ買受ケノ都度其ノ承認ヲ呈示スヘシ (同上改正)

第九條 三等郵便及電信局郵便切手賣捌所ニ於テ賣捌ク  
ヘキ郵便切手類ハ其ノ買受高ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣  
渡スヘシ

一 郵便集配事務ヲ取扱フ三等郵便及電信局ニ對シテ  
ハ郵便切手類買受高ノ千分ノ五十

(同上改正)

二 郵便集配事務ヲ取扱サル三等局及郵便切手賣捌所  
ニ對シテハ郵便切手類買受高ノ千分ノ三十五

第十條 郵便切手類ハ破産若ハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ又  
ハ國稅滯納處分法ニ依リ財產ヲ公賣ニ附スルトキ及監  
獄則第二十四條ニ依リ監獄慈善ノ用ニ充ツルトキニ限  
リ百分ノ十ノ割引ヲ以テ一等郵便電信局ニ於テ之ヲ買  
戻スコトアルヘシ但シ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ  
關クヘキ處アルモノハ此ノ限ニアラス

第十一條 三等郵便及電信局郵便切手賣捌所カ買受タル  
郵便切手類ノ汚斑毀損シタルモノ又ハ效用ヲ關クヘキ



處アルモノアルトキハ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ其ノ交換ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ外三等郵便及電信局郵便切手賣捌所ノ廢止又ハ三等郵便及電信局長ノ退職若ハ死亡ノ場合ニ於テ殘存セル郵便切手類ハ所轄一等郵便電信局ニ其ノ買戻ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 前條第一項ノ郵便切手類ハ定價ニ對シ百分ノ十ノ割引ヲ以テ交換ヲ爲スヘシ但シ天災事變其ノ他避クヘカラサル事故ニ起因スルモノハ額面ヲ以テ交換ヲ爲スコトアルヘシ

前條第二項ノ郵便切手類ハ第九條ノ割引額ニ相當スル金額ヲ控除シ之ヲ買戻スコトアルヘシ

第三項ノ場合ニ於テ割引計算上交換價格ニ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ五厘以上ハ五厘ヲ以テ計算シ五厘未滿ハ切捨トス

第十三條 第二條第二項ニ依リ郵便切手類ノ賣捌ヲ爲サムトスル者ハ郵便切手賣捌免許申請書(第一號様式)ヲ作リ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第十四條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手類ノ賣捌ヲ許可スルトキハ郵便切手賣捌免許證ヲ交付スヘシ

第十八條 郵便切手類買受組合總代人ノ選舉手續選舉期日及其ノ任期等ハ所轄一等郵便電信局長ノ決定ム但シ總代人ノ任期ハ滿一箇年以上三箇年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十九條 一二等郵便電信局長郵便局長ニ於テ郵便切手類買受組合總代人ヲ不適當ト認メタルトキハ更ニ改選ヲ命スルコトアルヘシ第十七條第二項ニ依リ總代人ヲ届出タル場合ニ於テ之ヲ不適當ト認メタルトキ亦同シ

第二十條 郵便切手賣捌人ト其ノ郵便切手類買受組合總代人トノ間ニ於ケル郵便切手類及其ノ代金ノ受授並組合ノ費用ニ關スル條件等ハ各其ノ組合ノ協議ヲ以テ之ヲ定メ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ノ認可ヲ受クヘシ(同上改正)

第二十一條 三等郵便局及電信局ノ郵便切手類買受回数ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 一箇月賣捌高百圓未滿 一箇月二回
  - 二 一箇月賣捌高百圓以上二百圓未滿 一箇月三回
  - 三 一箇月賣捌高二百圓以上 一箇月四回
- 郵便受取及郵便切手賣捌所ノ郵便切手類買受回数ハ其ノ郵便切手類買受組合總代人ヨリ請求スルモノハ毎日一回其他ハ一箇月二回ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條 郵便切手賣捌人ハ自費ヲ以テ郵便切手賣捌標札(第二號様式)ヲ調製シ公衆ノ看易キ場所ニ掲出スヘシ但シ船舶内ノ郵便切手賣捌所ハ郵便切手類ノ賣捌ヲ表彰スヘキ適宜ノ標札ヲ掲出スルコトヲ得

第十六條 一二等郵便電信局郵便局郵便局内ノ郵便切手賣捌所ハ郵便切手類ノ買受組合ヲ設ケ總代人ヲ置キ其ノ買受ヲ爲スヘシ

但土地ノ狀況ニ依リ一等郵便局長ニ於テ其必要ナシト認メタルトキハ此ノ限リニアラス(廿七年八月通信省令第廿七號ヲ以テ追加)

前項郵便切手類買受組合ハ郵便受取所及郵便切手賣捌所數ノ多寡ニ應シ一組合又ハ數組合ニ分チ所轄一二等郵便電信局長郵便局長之ヲ定ム

郵便區市内ノ郵便受取所及郵便切手賣捌所十五箇所ニ滿タサルモノ並郵便區市外ノ郵便受取所及郵便切手賣捌所ハ郵便切手類買受組合ヲ設ケサルモ妨ナシ

第十七條 郵便切手類買受組合總代人ハ郵便切手賣捌人中ヨリ互選シ毎組合ニ一人ヲ置クヘシ(同上改正)

總代人ヲ選舉シタルトキハ連署ヲ以テ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ニ届出認可ヲ受クヘシ

前各項ノ制限ニ依リ難キ事情アルモノハ當該局所ノ申請ニ依リ所轄郵便電信局長郵便局長ニ於テ特ニ其ノ買受回数ヲ増加スルコトヲ得臨時多數ノ賣捌等アリタルトキ亦同シ

第二十二條、三等郵便局、郵便切手類買受組合總代人及郵便切手賣捌人ニ於テ郵便切手類ノ買受ヲ爲サムトスルトキハ郵便切手類買受請求書(第三號様式)ヲ作リ代金ト共ニ第八條所定ノ郵便局ニ差出シ其ノ賣渡ヲ求ムヘシ

郵便切手類買受組合員ニ於テ其ノ總代人ヨリ郵便切手類ノ買受ヲ爲サムトスルトキ亦前項ニ同シ但シ其ノ買受請求書ハ所定ノ様式ニ據ラサルコトヲ得(同上改正)

第二十三條 三等郵便電信局郵便局郵便局市外ノ郵便切手賣捌人ニ於テ豫メ所轄局ノ承認ヲ得タルトキハ其ノ所轄集配人ニ郵便切手類ノ買受ヲ依託スルコトヲ得但シ特ニ指定シタル三等郵便局ノ市外ニ在ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ郵便受取所取扱人又ハ郵便切手賣捌人ハ當該局長ト協議シ郵便切手類買受依託ノ條件並其ノ責任ニ關スル事項ヲ定メ所轄一等郵便電信局長ノ認可ヲ受クヘシ(同上改正)



第二十四條 郵便切手賣捌人ハ其ノ印鑑ヲ所轄郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ改印又ハ紛失ノトキ亦同シ但シ郵便切手類買受組合ヲ設ケタルモノハ其ノ組合總代人ノ外本條ノ届出ヲ要セス(同上改正)

第二十五條 郵便切手賣捌人改姓名ヲ爲シタルトキ又ハ郵便切手賣捌免許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ其ノ郵便切手賣捌免許證ノ書替又ハ再渡ヲ申請スヘシ

第二十六條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ郵便切手賣捌免許證ヲ書替交付シ又ハ其ノ再渡ヲ爲スヘシ

第二十七條 郵便切手賣捌人其ノ住所ヲ移轉シタルトキハ速ニ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ郵便切手賣捌人其ノ郵便切手賣捌所ヲ移轉セムトスルトキハ三十日以前ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條 郵便切手賣捌人廢業セムトスルトキハ三十日以前ニ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ

第二十九條 郵便切手賣捌人自ラ廢業ノ届出ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ逃亡失踪若ハ死亡シタルトキハ其ノ

家族又ハ親族ニ於テ速ニ廢業ノ届出ヲ爲スヘシ

第三十條 郵便集配區畫ノ變更郵便函場ノ廢置郵便切手賣捌所ノ位置ノ關係其ノ他郵便切手賣捌人ヲ不適當ト認ムル場合ニ於テハ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ於テ郵便切手賣捌人ニ廢業ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條 一二等郵便電信局郵便局ニ於テ第二十七條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ其ノ移轉地ヲ郵便切手賣捌所ノ位置ニ適當ト認ムルモノハ郵便切手賣捌免許證ヲ書替交付シ其ノ不適當ト認ムルモノハ廢業ヲ命スヘシ

第三十二條 郵便切手賣捌人自ラ廢業スルトキ又ハ廢業ヲ命セラレタルトキハ郵便切手賣捌免許證ヲ所轄一二等郵便電信局郵便局ニ返納スヘシ

第三十三條 郵便切手賣捌人ハ其ノ郵便受取所及郵便切手賣捌所ニ設置シアル郵便函又ハ其ノ近傍ニ設置シアル郵便函ヲ保護スヘシ

若シカレバカラサル事故ニ因リ郵便函ノ水火盜難ニ罹リタルトキ又ハ其ノ毀損若ハ郵便物集配時刻表ノ剝脱汚損シタルトキハ速ニ所轄郵便電信局郵便局ニ報告スヘシ(同上改正)

第三十四條 郵便切手賣捌人郵便函ノ位置ヲ變更スルノ

必要アリト認メタルトキハ所轄郵便電信局郵便局ニ申出ヘシ(同上改正)

第三十五條 此ノ規則ニ依リ三等郵便電信局郵便局區内ノ郵便切手賣捌所ヨリ一等郵便電信局ニ差出スヘキ文書又ハ返納スヘキ郵便切手賣捌免許證ハ其ノ所轄三等郵便電信局郵便局ヲ經由スヘシ(同上改正)

一等郵便電信局ヨリ交付スヘキ文書又ハ郵便切手賣捌免許證ハ所轄三等郵便電信局郵便局ヲ經テ之ヲ交付スヘシ

第三十六條 第三十三條及第三十四條ノ文書ハ無料郵便トシテ差出スコトヲ得

第三十七條 第三條乃至第五條ニ違反シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 郵便切手賣捌人此ノ規則ニ違背シタルトキハ郵便切手賣捌免許ヲ取消スコトアルヘシ

第三十九條 郵便集配事務ヲ取扱ハサル二等郵便局及郵便切手賣捌所ニ對シ一二等郵便電信局郵便局ノ有スル職務權限ハ在外郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局及郵便切手賣捌所ヲ所轄スル在外郵便電信局ニ準用ス(同上改正)

第四十條 此ノ規則中郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵

便局及郵便切手賣捌ニ關スル規定ハ總テ在外郵便受取所及郵便切手賣捌所ニ準用ス特ニ指定シタル三等郵便局ニハ三等郵便局ニ於ケル郵便切手ノ交換買戻及買受ニ關スル規定ヲ準用セス(同上改正)

特ニ指定シタル三等郵便局及吏員ヲ派出シ其事務ヲ取扱ハシムル郵便及電信受取所ニハ三等郵便局及郵便受取所ニ於ケル郵便切手類ノ交換買戻及買受ニ關スル規定ヲ適用セス

(三十六年三月遞信省令第十五號改正)

第四十一條 此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治三十二年(三月)遞信省令第十一號郵便切手及收入印紙賣捌規則並此ノ規則ニ抵触スル規定ハ之ヲ廢止ス

第四十二條 此ノ規則施行以前郵便切手賣捌所ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ繼續ス

現在ノ郵便切手類買受組合總代人ハ此ノ規則施行ノ爲資格ヲ失フコトナク又其ノ任期ヲ中斷セラルルコトナシ但シ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ニ於テ現在ノ組合區域ヲ變更スルトキハ此ノ限ニアラス(明治三十八年三月遞信省令第二十七號ヲ以テ改正)



從來ノ郵便切手賣捌所賣捌人ニシテ現ニ郵便切手類買受組合ノ總代人タル者ハ本令施行ノ爲資格ヲ失フコトナク又其ノ任期ヲ中斷セラルルコトナシ但シ所轄一二等郵便局長ニ於テ現在ノ組合區域ヲ變更スルトキハ此ノ限ニアラス

從來ノ郵便受取所取扱人ニシテ現ニ郵便切手類買受組合ノ總代人タル者ハ其ノ組合ニ於テ新ニ選舉シタル總代人就職ニ至ルマテハ其ノ職務ヲ繼續スヘシ(同上追加)  
(明治三十八第七號ヲ以テ本規則中「賣下」ヲ總テ「賣捌」ト改ム)

(第一號樣式)

郵便切手類賣捌免許申請書

本籍  
現住所

職業

氏名

右ハ現住所又ハ何地若ハ所有船何九ニ於テ郵便切手類賣捌致度候間免許相成度此段申請候也

年月日 氏名印

何郵便電信局(郵便局)

御中

(第二號樣式)

七寸五分

二尺五寸



郵便切手賣捌所

(第三號樣式)(三十四年逓信省令第五十九號ヲ以テ改正)

郵便切手類買受請求書

一切手何錢

此價格金何程

一切手何錢

此價格金何程

小計價格金何程

此買受代金何程

但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五

一通常葉書何錢

此價格金何程

一往復葉書何錢

此價格金何程

一封緘葉書何錢

此價格金何程

一 小形價格表記封緘紙何枚續一組何錢

此價格金何程

小計價格金何程

此買受代金何程

但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五

一切手貯金葉紙何錢

此價格金何程

此買受代金何程

但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五

合計價格金何程

此買受代金何程

右請求候也

現住所

何郵便及電信局長又ハ何郵便及電信受取所取扱人若ハ郵便切手賣捌人

年月日 氏名印

何郵便電信局又ハ郵便局

御中

此價格金何程

何組  
何枚

小計價格金何程  
此買受代金何程  
但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五

一大形價格表記封皮何錢

此價格金何程

一小形價格表記封皮何錢

此價格金何程

小計價格金何程

此買受代金何程

但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五

一大形價格表記封緘紙何枚續一組何錢

此價格金何程

一角形封皮何錢

此價格金何程

一長形封皮何錢

此價格金何程

小計價格金何程

此買受代金何程

但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五

一大形價格表記封皮何錢

此價格金何程

一小形價格表記封皮何錢

此價格金何程

小計價格金何程

此買受代金何程

但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五

一大形價格表記封緘紙何枚續一組何錢

此價格金何程

一角形封皮何錢

此價格金何程

一長形封皮何錢

此價格金何程

小計價格金何程

此買受代金何程

但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五

一大形價格表記封皮何錢

此價格金何程

一小形價格表記封皮何錢

此價格金何程

小計價格金何程

此買受代金何程

但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五

一大形價格表記封緘紙何枚續一組何錢

此價格金何程

何組

何枚



●賣藥稅法 (明治三十八年五月 法律第七十一號)

第一條 賣藥ニハ定價一割ノ賣藥稅ヲ課ス  
定價一錢未満ナルトキ又ハ一錢未満ノ端數アルトキハ一錢未満ノ金額ハ總テ之ヲ一錢トシテ賣藥稅ヲ計算ス

第二條 賣藥稅ハ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス

第三條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ定價ヲ附記シ其ノ賣藥稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シ印紙面ヨリ他所ニカケ消印スヘシ

第四條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ賣藥ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第五條 賣藥營業者定價ヲ增加シテ賣藥ヲ販賣セムトスルトキハ其ノ定價ヲ改記シ其ノ賣藥稅ニ相當スル印紙ヲ増貼スヘシ

第六條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ帳簿ヲ調製シ賣藥ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第七條 賣藥營業者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣スルコトヲ得ス

賣藥請賣者又ハ行商者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第

三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條 收稅官吏ハ前條ニ違反シタル賣藥ヲ發見シタルトキハ處罰セラレタルト否ト問ハス賣藥營業者ノ費用ヲ以テ印紙ヲ貼用シ、貼用印紙ニ消印シ又ハ相當ノ裝置ヲ爲スコトヲ得

前項ノ費用徵收ニハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第九條 收稅官吏ハ賣藥ノ所在ニ就キ檢査ヲ爲シ又ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ帳簿書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第十條 外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ賣藥稅ヲ免除ス

前項ノ賣藥ニ付テハ第二條乃至第五條、第七條、第八條及第十一條乃至第十三條ヲ適用セス

第十一條 賣藥營業者ニシテ所持ノ賣藥中性效ヲ失シタルモノヲ廢棄セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ既貼印紙ト新印紙トノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 賣藥營業者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ販賣シ又ハ附記定價以上ニ賣藥ヲ販賣シタルトキハ脫稅高二倍ノ罰金ニ處ス但シ稅高二倍ノ金額五圓ニ達セサルトキハ五圓ノ罰金ニ處ス

賣藥營業者定價ヲ附記セサル賣藥ヲ販賣シタルトキハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス因リテ脫稅ヲ爲シタル者ハ前項ニ依リテ處斷ス

第十三條 賣藥營業者第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣シタルトキハ三圓以上十五圓以下ノ罰金ニ處ス

賣藥請賣者又ハ行商相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ三圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 賣藥營業者、請賣者又ハ行商賣藥ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、

再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

第十七條 賣藥營業者、請賣者及行商者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ノ規定ニ依リ賣藥營業者、請賣者及行商者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十九條 賣藥類似品及其ノ營業者、請賣者及行商者ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用ス

賣藥類似品ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

賣藥印紙稅規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際販賣ノ爲賣藥類似品ヲ所持スル者ハ本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本法第三條及第四條ニ依リ印紙ヲ貼用スヘシ

●賣藥稅法施行規則 (明治三十八年五月 勅令第五百十五號)

第一條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ其ノ住所



氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

第二條 賣藥營業者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 製造又ハ輸入シタル賣藥ノ品名、數量、定價及其ノ製造又ハ輸入ノ日

二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

三 買入レタル印紙ノ數量、金額及其ノ買入先

四 貼用シタル印紙ノ數量、金額

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號引渡先ノ記載ヲ要セス

第三條 賣藥請賣者及行商者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル賣藥ノ品名、數量、價額、引取ノ日及引取先

二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額及引渡ノ日

第四條 收稅官吏賣藥稅法第八條第一項ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作り違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者ト共ニ署名捺印スヘシ

前項ノ場合ニ於テ違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者署名捺印ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ之ヲ拒ミタルトキハ收

稅官吏ハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第五條 賣藥ヲ外國ニ輸出シ賣藥稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ賣藥ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ賣藥ヲ運搬セムトスルトキ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ賣藥ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第六條 前條第一項ノ承認ヲ受ケタル後六箇月ヲ過キ賣藥ヲ輸出セサルトキハ承認ハ其ノ效力ヲ失フ

前條第一項ノ承認カ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ賣藥營業者又ハ輸出者ニ於テ其ノ賣藥ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項輸出者ニ關シテハ賣藥營業者ノ例ニ限ル

第七條 賣藥稅法第十一條ニ依リ印紙ノ交換ヲ請求セムトスル者ハ賣藥ノ品名、數量、定價及交付ヲ受クヘキ賣藥ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ印紙ノ交換ヲ爲サス

一 既貼印紙ノ金額一口十圓未満ナルトキ

二 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用不完全ナルトキ

三 既貼印紙汚染又ハ毀傷ニ係ルトキ

第九條 印紙ノ交換ハ左ノ割合ニ依ル

一 既貼印紙 二十圓未満一圓ニ付

新印紙 八十錢

二 既貼印紙 十二圓以上一圓ニ付

新印紙 八十五錢

第十條 所轄稅務署ニ於テ印紙ノ交換ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷シタル後其ノ賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ交付スヘシ

第十一條 藥品ヲ用非又ハ之ヲ配伍シテ製造シタル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル效驗アリトシテ發賣スルモノハ賣藥稅法第十九條ニ依ル賣藥類似品トス但シ

醫藥又ハ單ニ滋養若ハ消毒ノ效驗アリトスルモノ及大藏大臣ノ特ニ認許シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 疾病ヲ豫防スルコト

二 治病ニ効驗アリト謂フニ非サルモ心身ヲ爽快ニシテ音聲ヲ改善シ又ハ精氣ヲ増進スルコト

三 皮膚毛髮ノ色澤組織ヲ變更シ又ハ身體ノ惡臭ヲ去ルコト

四 疥癬其ノ他皮膚ノ障害ヲ除去スルコト

第十二條 前條但書ニ依リ大藏大臣ノ認許ヲ得ムトスル

者ハ其ノ物品ノ製造方法及效能ヲ記載シ見本ヲ添ヘ所轄稅務署ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十四條 本令中賣藥營業者、請賣者及行商者ニ關スル規定ハ之ヲ賣藥類似品營業ニ準用ス

附 則

本令ハ賣藥法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ● 間接國稅犯則者處分法

(明治三十三年三月法律第六十七號)

第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコルトヲ得

第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得

第四條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スコトキ



ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ  
 第五條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ、必要ナルトキハ、警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六條 收稅官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ立會ハシムヘシ

前項ニ掲クル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七條 收稅官吏犯罪事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目録ヲ作ルヘシ但シ所有者又ハ所持者ニ其ノ差押目録ノ原本ヲ請求スルコトヲ得(明治四十二年三月法律第八號ヲ以テ改正)

差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徵シ所有者所持者又ハ市町村ヲシテ保管ヒシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

差押物件腐敗其他損傷ノ虞アルトキハ稅務署長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得 (廿七年三月法律第十一號ヲ以テ改正)

第八條 收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

日没前ヨリ開始シタル臨檢、搜索又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日没迄之ヲ繼續スルコトヲ得(四十二年三月法律第八號ヲ以テ追加)

第九條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第十條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ顛末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十一條 犯罪事件ノ證憑採取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏之ヲ爲ス

稅務監督局收稅官吏ノ採取シタル證憑ハ之ヲ所轄稅務署收稅官吏ニ引繼クヘシ

同一犯罪事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ採取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ(同上改正)

第十二條 收稅官吏各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ其ノ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區域内ニ限ル但シ既ニ著手シタル犯罪事件ニ關係シ他

ノ稅務監督局又ハ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索尋問又ハ差押ヲ爲スヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上改正)

稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯罪事件ノ調査ヲ必要トスルトキハ其ノ地ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得

第十三條 收稅官吏犯罪事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ(同上改正)

一 犯罪嫌疑者ノ居所分明ナラサルトキ

二 犯罪嫌疑者逃走ノ虞アルトキ

三 證憑隠滅ノ虞アルトキ

第十四條 稅務署長ハ犯罪事件ノ調査ニ依リ犯罪ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收品ニ相當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及書類送達並差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ沒收品ニ相當スル物品ニ付テハ納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルコトヲ得

犯罪者通告ノ旨ヲ履行スルノ資力ナシト認ムルトキハ前項ノ通告ヲ要セス直ニ告發スヘシ(四十二年三月法律第八號ヲ以テ改正追加)

第十五條 第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中斷ス

第十六條 犯罪者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第十四條第一項但書ニ依ル通告ニ對シ犯罪者通告ノ旨ヲ履行シタル場合ニ於テ沒收品ニ相當スル物品ヲ所持スルトキハ公賣其ノ他必要ノ處分ヲ爲ス迄之ヲ保管スルノ義務アルモノトス但シ保管ニ要スル費用ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス(同上追加)

第十七條 犯罪者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履行セザルトキハ稅務署長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上改正)

犯罪者ノ居所分明ナラサル爲又ハ犯罪者書類ノ受領ヲ拒ミタル爲通告スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ(四十二年三月法律第八號ヲ以テ追加)

第十八條 犯罪事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アリタルトキハ差押目録ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ



前項ノ差押物件所有者所持者ハ市町村ノ保管ニ係ルトキハ保管證ヲ以テ引繼ヲ爲シ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第十九條 稅務署長犯罪事件ヲ調査シ犯罪ノ心證ヲ得サルトキハ其ノ旨ヲ犯罪嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之ヲ解除ヲ命スヘシ(同上改正)

第二十條 本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

●間接國稅犯則者處分法施行規則

(明治三十三年三月勅令第五十二號)

第一條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス(三十四年勅令第七十號ヲ以テ改正)

- 一 酒造稅
- 二 酒精及酒精含有飲料稅
- 三 沖繩縣酒類出港稅
- 四 麥酒稅
- 五 醬油稅(自家用醬油稅トモ)

六 砂糖消費稅

七 賣藥印紙稅

八 印紙稅

九 骨牌稅(三十五年勅令第四百十五號ヲ以テ追加)

十 毛織物消費稅

十一 石油消費稅(廿七年三月勅令第九十二號追加)

第二條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキハ之ニ封印ヲ爲シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ(四十一年三月勅令第四十二號改正)

第三條 差押目録ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、簡數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所氏名ヲ記載スヘシ

第四條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目録ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ

第五條 收稅官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量公賣ノ事由公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ(三十五

年勅令第二百五十三號ヲ以テ本令中稅務管理局長ヲ稅務署長ニ改ム)

第七條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル顛末書ニハ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ノ事實場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徵スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

第十一條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯罪ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯罪嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ

第十二條 犯罪事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ

記載スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

附 則

本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●地方稅規則 (明治三十三年四月)

(第十六號布告)

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

一 地租三分一以內(十三年第四十八號布告ヲ以テ本項改正)

一 營業稅並雜種稅

一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム(十五年第二號布告ヲ以テ及制限ノ三字ヲ削ル)

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ(十五年第二號布告ヲ以テ各項共改正)

- 一 警察費
- 一 警察廳舍建築修繕費
- 一 土木費
- 一 區町村土木補助費
- 一 府縣會議諸費
- 一 衛生及病院費



教育費

- 一 區町村教育補助費
- 一 郡區廳舍建築修繕費
- 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
- 一 教育費
- 一 浦役場及難波船諸費
- 一 諸達書揭示諸費
- 一 勸業費

戸長以下給料旅費(十七年第十三號布告ヲ以テ本項改正)

地方稅取扱費(豫算ニ屬スル爲換方給料爲)

府縣廳舍建築修繕費

府縣監獄建築修繕費

府縣監獄費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

豫備費(豫算外ニ生シタル事件ノ費途(十五年第六十九號布告ヲ以テ本項改正)及豫算ノ臨時不足ニ充テル者(告ヲ以テ本項改正))

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立翌年度ノ定額トナシ府縣會

ノ議決ヲ取り其年五月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十七年第二十九號布告ヲ以テ改正)

地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得(十五年第六十九號布告ヲ以テ本項追加)

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十四年第五號布告ヲ以テ報告スヘシノ下其念施云云ノ五十四字ヲ削ル)

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトハキ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得(十五年第六十九號布告ヲ以テ本項追加)

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ一周年度ノ出納ヲ調査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十四年第五號布告ヲ以テ改正)

第八條 (十四年第五號布告ヲ以テ削除)

第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本府縣會ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得

第十條 (十三年第二十六號布告ヲ以テ追加シ十四年第八號布告ヲ以テ削除)

營業稅雜種稅ノ種類制限

(明治十三年四月第十七號布告)

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(十五年第三號布告ヲ以テ各項共改正)

商業

但區稅アルモノハ課稅ノ限リニ非ラス

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(同上)

- 料理屋、待合茶屋、遊船宿、芝居茶屋、飲食店ノ類
- 湯屋
- 理髮人
- 雇人請宿
- 遊藝師匠、遊藝稼人、相撲、俳優、習問、藝妓ノ類
- 市場

演劇其他興業遊覽所

遊技場(玉突、大弓、楊弓、射的、吹矢ノ類)

人寄席

船(解流船、川船及五車、馬車人力車、荷積車、荷積大七、大船、拾石、未滿海船、八車、荷積中小車、荷積半車ノ類)

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 (十五年第三號布告ヲ以テ削除)

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條

類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ

府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ(十五年第三號布告ヲ以テ決議ヲ以テノ下稅額云云ノ八字ヲ削ル)

第六條 (十五年第三號布告ヲ以テ削除)

第七條 (同上)



第八條 第四條第五條ニ於テ議定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ内務大臣兩卿ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大臣兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ (十五年第三號布告ヲ以テ第三條稅目ノ五字ヲ改メ課稅種類ノ四字トナス)

○内務大臣省達 明治十五年十月 官用ノ船舶馬車ハ明治十六年度以後地方稅ヲ賦課スルヲ得サル儀ト可心得此旨相違候事

但從前ノ違及指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス  
○内務省達 明治十六年六月 皇族所有ノ車馬ハ明治十六年度以降地方稅賦課不相成候條此旨相違候事

●非常特別稅法 (明治廿七年三月 法律第三號)

第一條 (廿九年三月法律第七號ヲ以テ削除)

第二條 左ニ掲クル租稅ニ付テハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ増徴ス (廿八年一月法律第一號改正)

- 一 地租
- 市街宅地 地價百分ノ十七箇五
- 郡村宅地 地價百分ノ五箇五
- 其ノ他ノ土地

二 營業稅 地價百分ノ三箇 營業稅法ニ依ル稅額十五箇

三 所得稅 第一種 所得 甲 株主二十一人以上又ハ株主及社員ノ數二十一人以上ヲ以テ組織シタル株式會社又ハ株式合資會社 所得稅法ニ依ル稅額十五箇

乙 其ノ他ノ法人 所得稅法ニ依ル稅額十五箇  
所得金額五千圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額八箇  
所得金額一萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額九箇  
所得金額一萬五千圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十箇  
所得金額二萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十二箇  
所得金額三萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十七箇  
所得金額五萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額二十三箇

所得金額十萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額二十四箇  
所得金額十萬圓以上 所得稅法ニ依ル稅額二十七箇

所得金額十萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額三十箇  
所得金額十萬圓以上 所得稅法ニ依ル稅額四十箇

四 酒稅 酒造稅法ニ依ル酒類 第一種 一石ニ付金二圓  
第二種 一石ニ付金二圓  
第三種 一石ニ付金二圓  
第四種 一石ニ付金二圓  
第五種 一石ニ付酒精分一度毎ニ金十錢  
麥酒(四十一年法律第廿號ヲ以テ本稅刪除)  
酒精又ハ酒精含有飲料(四十一年法律第十九號ヲ以テ同上)  
沖繩縣酒類出港稅 酒造稅法ニ依ル酒類ニ對スル増徴稅率ニ同シ

第三種 所得 所得金額五百圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十箇  
所得金額千圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十一箇  
所得金額五千圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十三箇  
所得金額一萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十四箇  
所得金額一萬五千圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十五箇  
所得金額二萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十七箇  
所得金額三萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額十九箇  
所得金額五萬圓未滿 所得稅法ニ依ル稅額二十一箇

五 砂糖消費稅(四十一年二月法律第一號ヲ以テ本稅刪除)  
六 醬油稅 醬油稅則第二條本文ニ依ル場合 諸味一石ニ付金五十錢  
溜 製成一石ニ付金五十錢



醬油稅則第二條但書ニ依ル場合

醬油 諸味一石ニ付金二十五錢  
溜 製成一石ニ付金二十五錢

七 登録稅

不動産ニ關スル登記

登録稅法第二條第三號ノ登録

不動産價格千分ノ二十

登録稅法第二條第四號ノ登記

不動産價格千分ノ十

從來保有セル所有權ノ保存

不動産價格千分ノ三

華族世襲財產ノ創設

不動産價格千分ノ五

船舶ニ關スル登記

登録稅法第三條第三號ノ登記

船舶價格千分ノ三十

登録稅法第三條第四號ノ登記

船舶價格千分ノ十

從來保有セル所有權ノ保存

船舶價格千分ノ二

登録稅法第六條及第六條ノ二ニ依ル登録稅

課稅標準ノ千分比例ヲ以テ稅率ヲ定メタルモノ

課稅標準千分ノ一

一箇所毎ニ又ハ一件毎ニ稅額ヲ定メタルモノ

稅額金十圓ナルトキ金五圓

稅額金五圓ナルトキ金二圓

稅額金三圓ナルトキ金二圓

稅額金二圓ナルトキ金一圓

稅額金一圓ナルトキ金五十錢

稅額金五十錢ナルトキ金二十錢

鑛業ニ關スル登録

試掘權ノ設定 每一件金二十五圓

増區又ハ増減區ニ依ル試掘權ノ變更 每一件金十圓

相續以外ノ原因ニ因ル試掘權ノ移轉 每一件金十圓

採掘權ノ新規登録 每一件金五十圓

増區又ハ増減區ニ因ル採掘權ノ變更 每一件金二十五圓

相續以外ノ原因ニ因ル採掘權ノ移轉 每一件金二十五圓

八 取引所稅

商品、有價證券

賣買各約定代金高萬分ノ六

國債及地方債證券

同 萬分ノ二

九 狩獵免許稅

一等 金二十圓

二等 金二十圓

三等 金五圓

十 鑛區稅

試掘 鑛區一千坪毎ニ一箇年金二十錢

採掘 鑛區一千坪毎ニ一箇年金二十錢

十一 賣藥營業稅

每方劑一箇年ノ製造高ニ對スル定價總額三百圓

未滿ノモノ 金一圓

同五百圓未滿ノモノ 金三圓

同千圓未滿ノモノ 金五圓

同二千圓未滿ノモノ 金七圓

同三千圓未滿ノモノ 金十圓

同五千圓未滿ノモノ 金十五圓

同一萬圓未滿ノモノ 金二十圓

同二萬圓未滿ノモノ 金三十圓

同三萬圓未滿ノモノ 金四十圓

同五萬圓未滿ノモノ 金五十五圓

同七萬圓未滿ノモノ 金七十圓

同十萬圓未滿ノモノ 金八十五圓

同十萬圓以上 金百圓

十二 印紙稅

印紙稅法第四條ニ掲ケタル證書帳簿但シ約束手

形及判取帳ヲ除ク 印紙稅金一錢

判取帳 印紙稅金五錢

(四十年三月法律第廿七號ヲ以テ改正)

十三 輸入稅

大砲、小銃、拳銃、刀劍、砲彈、裝藥其ノ他諸兵器

從價五分

權衡及尺度 從價一割

晴雨計 從價五分

埧塙(各種) 從價一割

刃物(別項ニ掲ケサルモノ) 從價五分

電燈器械及同部分品 從價五分



消防器及同部分品	從價五分	酒精(アルコール)各種變性アルコール、各種酒精劑(阿片丁幾ヲ除ク)龍腦、艾片、寫真用古魯胃謨及附屬ノ沃度意撒兒、麝香、人造麝香、松脂、曹達灰及苛性曹達ヲ除ク	從價五分
農具、工匠具及同部分品	從價五分	酒精(アルコール)	每リートル六錢
樂器及同附屬品	從價一割	各種變性アルコール	每リートル六錢
理學器、化學器、測量器、外科器其ノ他諸學術器(別項ニ掲ケサルモノ)	從價五分	各種酒精劑阿片丁幾ヲ除ク)	每リートル六錢
寫真器及同部分品	從價一割五分	龍腦及艾片	從價一割
蓄音器及同部分品	從價一割	寫真用古魯胃謨及附屬ノ沃度意撒兒	從價一割
眼鏡及同部分品	從價一割	麝香及人造麝香	從價一割
獵銃及同附屬品	從價一割	關稅定率法附屬輸入稅表第五類ニ掲クル物品但シ酸化古拔爾篤、金液、銀液及白金液、乾藍及ログウ	從價五分
電話機及同部分品	從價五分	關稅定率法附屬輸入稅表第六類ニ掲クル物品但シ	關稅定率法附屬輸入稅表第七類ニ掲クル物品但シ
寒暖計	從價一割	關稅定率法附屬輸入稅表第四類ニ掲クル物品但シ	關稅定率法附屬輸入稅表第四類ニ掲クル物品但シ
關稅定率法附屬輸入稅表第二類ニ掲クル物品但シ	從價一割五分	生卵ヲ除ク	生卵
生卵	從價一割	甲 絹製及絹入ノモノ、金銀珠玉入ノモノ、白金製、金製及銀製ノモノ	從價二割
關稅定率法附屬輸入稅表第三類ニ掲クル物品	從價一割五分	乙 其ノ他各種	從價一割五分
關稅定率法附屬輸入稅表第四類ニ掲クル物品但シ	從價一割五分		

綿種子	從價五分	鉛	從價五分
關稅定率法附屬輸入稅表第八類ニ掲クル物品但シ		板	從價五分
獸骨獸毛(羊毛、山羊毛及駱駝毛ヲ除ク)牛皮及水牛皮(生、乾若ハ鹽漬等ノ治理ヲ經サルモノ)象牙、屑象牙、鼈甲、屑鼈甲及貝殼ヲ除ク	從價五分	筒及管	從價五分
眞鍮	從價五分	鋼(軟鋼ニ非サルモノ)	從價五分
條、竿及板	從價五分	線(傘骨用凹形ノモノ)	從價五分
筒及管	從價五分	線索(電鍍シタルト否ト別タス)	從價五分
螺旋釘	從價五分	黃銅	從價五分
銅	從價五分	板	從價五分
條、竿及板	從價五分	條及竿	從價五分
釘	從價五分	筒及管	從價五分
筒及管	從價五分	別項ニ掲ケサル釘及螺旋釘	從價五分
線	從價五分	提袋用金具	從價一割
銅貨及白銅貨	從價五分	キヤブシユール(罎ノ口ニ用ナル金具)	從價五分
日耳曼銀	從價五分	戶鎖、戶鉗、戶栓、蝶鎖類	從價一割
枚、竿及線	從價五分	金銀其ノ他金屬箔及粉但シ青銅粉ヲ除ク	從價一割
鐵及軟鋼	從價五分		
線索(電鍍シタルト否ト別タス)	從價一割		



金銀器(別項ニ掲ケサルモノ)	從價一割
鍍金銀器(別項ニ掲ケサルモノ)	從價一割
壁爐、置爐及附屬品	從價一割
貨幣匣	從價一割
傘骨及附屬金具	從價一割
其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ金屬製品但シ建築材、橋梁材、電線支柱其ノ他類似ノ材料ヲ除ク	從價一割
關稅定率法附屬輸入稅表第十類ニ掲クル物品但シ椰子油、石油、亞麻子油、松精油及スチヤリンヲ除ク	從價五分
石油	從價三割
集書帖(寫真用及郵便切符貼用ノモノ)	從價一割
白紙帳簿及書式類	從價一割
墨汁(寫字用筆記用ノモノ)	從價五分
唐紙類(各種)	從價五分
鉛筆	從價一割
甲 金製及白金製ノモノ	從價五分
乙 其ノ他各種	從價五分

箔嘴	從價一割
甲 金製ノモノ	從價五分
乙 其ノ他各種	從價五分
封蠟	從價五分
葉紙	從價一割
其ノ他各種ノ文具	從價一割五分
砂糖(和蘭標本色相第十五號未滿)	從價二割
糖蜜	從價二割
糖水	從價一割
綿縫絲	從價一割
製本用綿布	從價一割五分
毛フェルト地	從價一割
絹絲類(別項ニ掲ケサルモノ)	從價一割
支那縮緬	從價一割
支那絹紬	從價一割
支那絹織子	從價一割
支那絹紋織子	從價一割
絹綿織子	從價一割
刺繡絹布及刺繡綿布	從價一割
其ノ他各種ノ絹布(純絹ト他物ヲ交ヘタルト別	從價一割

タス但シ絹ノ重量超過スルモノ)	從價一割
麻縫絲	從價一割
フェルト氈	從價一割五分
氈帷	從價二割
甲 絹製及絹入ノモノ	從價一割五分
乙 其ノ他各種	從價一割五分
靴護謨布	從價一割
甲 絹入ノモノ	從價一割
乙 其ノ他各種	從價一割
護謨紐類	從價一割
手巾	從價一割五分
甲 綿製、麻製及麻綿製ノモノ(單製)	從價二割
乙 絹製及レース製ノモノ	從價一割五分
蚊帳(各種)	從價一割五分
革布(家具等ニ用ルモノ)	從價一割五分
油布及リノリユム(牀ニ用ルモノ)	從價一割五分
衣	從價二割
甲 絹製及絹入ノモノ	從價二割

乙 其ノ他各種	從價一割五分
浴巾(單製連製ヲ別タス各種)	從價一割五分
綿線分亨麻線	從價五分
縫絲(別項ニ掲ケサル各種)	從價一割
其ノ他各種ノ布帛製品	從價二割
甲 絹製及絹入ノモノ	從價一割五分
乙 其ノ他各種	從價一割五分
諸製造煙草	從價十割
支那酒(醸造シタルモノ)	從價三割
清酒	從價三割
各種ノ酒類但シ麥酒、黑麥酒、シヤムバン及類似ノ泖騰酒、支那酒(醸造シタルモノ)、ポルト、清酒、シエリー、ウエルモット及葡萄酒(赤白ヲ別タス)ヲ除ク	每リートル五錢
沈香	從價一割
琥珀	從價一割
甲 加工セサルモノ	從價一割
乙 加工シタルモノ	從價一割
動物但シ牛、馬、驢、騾、綿羊、山羊及鶏ヲ除ク	從價五分
石絨(板)	從價五分



竹材(工ヲ加ヘサルモノ) 從價五分  
 革帶、帆布帶及帆布管(機械ニ用ルモノ) 從價五分  
 衝球臺及附屬品 從價一割  
 プラスチング、セラチン其ノ他類似ノ爆發藥、デト  
 ネートル及フューズ 從價一割  
 磚瓦(建築用ノモノ) 從價五分  
 プラシ及箒(各種) 從價一割  
 杖及鞭 從價一割  
 乗車、自轉車及同部分品 從價一割  
 貨車 從價五分  
 セリユロイド 從價一割  
 乙 エヲ加ヘタルモノ 從價一割  
 白堊及ホワイチング 從價五分  
 木炭及骨炭 從價五分  
 粘土(各種) 從價五分  
 焦炭 從價五分  
 珊瑚(加工シタルト否トヲ別タス) 從價一割  
 苧麻繩索(船用ト否トヲ別タス) 從價五分

玻璃刀 從價五分  
 金剛砂 從價五分  
 金剛砂布及砂紙 從價五分  
 金剛砂砥其ノ他各種ノ砥石 從價五分  
 煙火(各種) 從價一割  
 造花 從價一割  
 額縁及天井縁 從價一割  
 海羅 從價五分  
 家具(新故ヲ別タス別項ニ掲ケサルモノ) 從價一割  
 テンニス、クリケット、象棋其ノ他ノ遊戯具(別項  
 ニ掲ケサルモノ) 從價一割  
 阿膠(普通) 從價五分  
 綿火藥 從價一割  
 火藥(各種) 從價一割  
 石膏 從價五分  
 象牙製品(別項ニ掲ケサルモノ) 從價一割五分  
 金銀細貨類(寶石、眞珠等ヲ嵌メタルト否トヲ別  
 タス) 從價一割  
 貼札(罎罐等ニ用ルモノ) 從價五分

ランプ、提燈及同部分品 從價一割  
 皮革製品(別項ニ掲ケサルモノ) 從價一割  
 麥芽 從價一割  
 マツチ(各種) 從價五分  
 支那蓆(一卷四十碼) 從價五分  
 椰皮蓆 從價五分  
 其ノ他各種ノ地蓆 從價五分  
 油畫、水彩畫、石版畫、著色石版畫、寫眞畫、法帖其  
 ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ書畫類 從價一割  
 瀝青、木蓆兒及石炭蓆兒 從價五分  
 巴黎灰 從價五分  
 骨牌(各種) 從價一割  
 石墨 從價五分  
 磁器及陶器(別項ニ掲ケサルモノ) 從價一割  
 寶石及眞珠 從價一割  
 寶石及眞珠(假製ノモノ) 從價一割  
 バツテ非一 從價五分  
 籐(割キタルト否トヲ別タス) 從價五分

馬具 從價一割  
 白檀 從價一割  
 靴墨(各種) 從價五分  
 吸煙器具(阿片吸煙具ヲ除ク) 從價一割  
 滑石(塊粉ヲ別タス) 從價五分  
 スパルテリ(製帽用ノモノ) 從價五分  
 海綿 從價五分  
 石類(別項ニ掲ケサルモノ) 從價五分  
 甲 建築用其ノ他工作ヲ經サルモノ 從價五分  
 乙 裝飾用若ハ家具用其ノ他工作ヲ經タルモノ 從價一割  
 丙 肖像其ノ他彫刻シタルモノ 從價一割  
 海底電線及地下電線 從價一割  
 紫檀 從價五分  
 化粧具匣 從價一割  
 縫甲製品 從價一割  
 玩具(各種) 從價一割  
 旅櫃、提袋及佩袋 從價一割  
 傘類 從價一割



<p>甲 絹及絹入ノモノ 從價一割五分</p> <p>乙 其ノ他各種 從價一割</p> <p>傘柄及傘手(金銀製ヲ除ク) 從價五分</p> <p>汽船、帆船及舟艇 從價五分</p> <p>紫機器及黒機器 從價一割</p> <p>其ノ他税目中ニ掲ケサル生粗若ハ未製品但シ帽體、製帽用裏革、紐鋼(時計彈製造用及傘骨製造用ノモノ)ヲ除ク 從價五分</p> <p>其ノ他税目中ニ掲ケサル全製若ハ半製品 從價一割</p> <p>前項第三號株主又ハ株主及社員ノ數ハ其ノ事業年度間ノ最多數ニ依ル</p> <p>第一項第十一號ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル</p> <p>第三條 左ノ割合ニ依リ小切手ニ印紙稅、砂金採取業者ニ砂金採取地稅、汽車、電車、汽船ノ乘客ニ通行稅、織物ニ消費稅、繭、米及粳ニ輸入稅ヲ課ス</p> <p>一 (四十年三月法律第廿七號ヲ以テ削ル)</p> <p>二 採金砂取地稅</p> <p>河床 採取區域一町毎ニ一箇年金三十錢 採取區域一千坪毎</p> <p>河床ニ非サルモノ</p>	<p>三 通行稅</p> <p>二百哩又ハ二百海裡以上 一等 金五十錢 二等 金二十五錢 三等 金四錢</p> <p>二百哩又ハ二百海裡未滿 一等 金四十錢 二等 金二十錢 三等 金三錢</p> <p>百哩又ハ百海裡未滿 一等 金二十錢 二等 金十錢 三等 金二錢</p> <p>五十哩又ハ五十海裡未滿 一等 金五錢 二等 金三錢 三等 金一錢</p> <p>四 織物消費稅</p> <p>毛織物 價格百分ノ十五</p> <p>毛織物以外ノ織物 價格百分ノ十</p>
---	---

<p>五 繭(各種)輸入稅 從價一割</p> <p>六 米及粳輸入稅 從價一割五分</p> <p>通行稅ヲ賦課スヘキ場合ニ於テ汽車、電車又ハ汽船ニシテ等級ヲ分ケタルモノニ在リテハ三等ノ稅額ヲ適用シテ等級ニ分ケタルモノニ在リテハ二等ノ稅額ヲ適用シテ等級以上ニ分ケタルモノニ在リテハ最初ノ二等級ヲ以テ一等ノ稅額ヲ爲シ其ノ他ハ總テ三等ノ稅額ヲ適用ス</p> <p>貸切、定期又ハ回数乗船車若ハ多人數乗船車ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ第一項第三號稅額ノ五倍トス (同上改正)</p> <p>第四條 訴狀其ノ他民事訴訟ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ</p> <p>一 第一審ノ訴狀</p> <p>財產權上ノ請求ニ係ルモノ 金五錢</p> <p>訴訟物ノ價額金五圓マテ 金十錢</p> <p>同 十圓マテ 金二十錢</p> <p>同 二十圓マテ 金三十錢</p> <p>同 五十圓マテ 金三十錢</p> <p>同 七十五圓マテ 金三十錢</p>	<p>同 百圓マテ 金五十錢</p> <p>同 二百五十圓マテ 金五十錢</p> <p>同 五百圓マテ 金二圓</p> <p>同 七百五十圓マテ 金二圓</p> <p>同 千圓マテ 金三圓</p> <p>同 二千五百圓マテ 金五圓</p> <p>同 五千圓マテ 金五圓</p> <p>同 五千圓以上ハ千圓ニ越スル毎ニ 金一圓</p> <p>財產權ノ請求ニ非サルモノ 金五十錢</p> <p>二 控訴狀</p> <p>第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ノ半額</p> <p>三 上告狀</p> <p>第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ト同額</p> <p>支拂命令ノ申請</p> <p>訴訟物ノ價額金十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ民事訴訟用印紙法及本法ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用スヘキ印紙金額ノ半額ト金二十錢トノ差額</p> <p>前項ノ差額ハ民事訴訟法第三百九十一條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スル場合又ハ第三百九十一條第二項ノ規定ニ依リ地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テ訴訟ニ付キ貼用スヘキ印紙ノ額ニ之ヲ通算</p>
--	---



スヘシ

五 其他ノ申立又ハ申請

- 期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立
- 中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立
- 從參加ノ申請
- 忌避ノ申請
- 和解ノ申立
- 費用額確定ノ申請
- 假執行ノ宣告ヲ求ムル申立
- 強制執行ノ停止又ハ續行若ハ執行處分ノ取消ノ申立
- 配當要求
- 家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復権ノ申立
- 強制競賣又ハ強制管理ノ申立
- 債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請
- 民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

金二十錢

證據調ノ申立

判決ノ送達ヲ求ムル申立  
執行力アル正本ヲ求ムル申立  
但シ此ノ正本數通ヲ求ムル  
トキハ每一通ニ付

金五十錢

假差押又ハ假處分ノ申請

抗告

故障

答辯書其ノ他特ニ掲ケサル申立又ハ申請

金五錢

左ニ掲クル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外金八十錢ノ印紙ヲ増貼スヘシ

- 一 裁判上代位ノ申請
  - 二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立
  - 三 裁判上ノ代位、競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告
- 訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナルトキハ第一項第五號ノ規定ヲ適用セス本條第一項ノ規定ハ再審ヲ求ムルノ訴狀及原狀回復ノ申立ニ之ヲ準用ス
- 第五條ノ一 商事非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ノ書面

ニハ商事非訟事件印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左

ツ印紙ヲ増貼スヘシ

一 左ニ掲クル申立

抗告

債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

立

支拂猶豫ノ申立

二 其ノ他ノ申立又ハ申請

破産手續ニ付テハ商事非訟事件印紙法第四條ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

- 財團ノ價格金五圓マテ 金十錢
- 同 十圓マテ 金二十錢
- 同 二十圓マテ 金四十錢
- 同 五十圓マテ 金六十錢
- 同 七十五圓マテ 金六十錢
- 同 百圓マテ 金一圓
- 同 二百五十圓マテ 金一圓
- 同 五百圓マテ 金四圓
- 同 七百五十圓マテ 金四圓
- 同 千圓マテ 金六圓
- 同 二千五百圓マテ 金十圓

同 五千圓マテ 金十圓  
同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル 金二圓

前項ノ規定ハ商事非訟事件印紙法第六條及第七條ノ場合ニ之ヲ準用ス

商事非訟事件印紙法第五條ノ規定ハ本條第二項ノ規定ニ依リ印紙ヲ増貼スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五條ノ二 行政訴訟ノ書類ニハ其ノ正本ニ左ノ金額ノ印紙ヲ貼用スヘシ但シ裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ調書ニ印紙ヲ貼用スヘシ

- 一 訴狀 金七圓
- 二 故障 金一圓
- 三 證據調ノ申立 金一圓
- 四 判決ノ送達ヲ求ムル申立 金一圓
- 五 期日ノ變更、辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立 金四十五錢
- 六 從參加ノ申請 金四十五錢
- 七 忌避ノ申請 金四十五錢
- 八 費用額確定ノ申請 金四十五錢
- 九 答辯書其ノ他前各號ニ掲ケサル申立又ハ申請 金二十五錢



裁判費用ヲ濟清スルコトノ假免除アリタル場合ノ外前項ニ依リ印紙ヲ貼用セサル行政訴訟ノ書類ハ其ノ效ナキモノトス但シ印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アリトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルコトヲ得

第五條ノ三 小切手ノ印紙稅ニ付テハ印紙稅法第六條、第八條、第九條、第十一條、第十三條及第十四條ノ規定ヲ適用ス

第五條ノ四 砂金採取地稅ヲ徵收スル場合ニ於テ一町未満又ハ一千坪未満ノ端數ハ一町又ハ一千坪トシテ計算ス

第五條ノ五 砂金採取地稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

砂金採取業ノ許可又ハ採取地ノ變更ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル砂金採取地稅ニシテ初年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ前項ニ依リ納付スヘキ砂金採取地稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス砂金採取業ノ廢止ノ年ニ係ルモノ亦同シ

第五條ノ六 通行稅ハ汽車、電車又ハ汽船營業者之ヲ徵收シ一箇月毎ニ取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納付スヘシ

汽車、電車又ハ汽船營業者カ前項ニ依リ徵收スヘキ通行稅ヲ納付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ該營業者ヨリ之ヲ徵收ス

外國行ノ汽船ニ乗シ外國ニ赴ク者ニハ通行稅ヲ課セス當該官吏ハ汽車、電車又ハ汽船營業者ノ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

第五條ノ七 繭、米及穀輸入稅ニ付テハ關稅法及關稅定率法中有稅品ニ關スル規定ヲ準用ス (同上追加)

第六條 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費稅ヲ免除ス

一 外國ニ輸出スル織物又ハ製品トナシテ外國ニ輸出セムトスル織物

二 製造者ノ自用ニ供スル織物  
消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金又ハ相當印紙ヲ交付ス (同上改正)

第七條 毛織物ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ

毛織物以外ノ織物ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ移出スル前之ニ相當印紙ヲ貼用シ税金ノ納付ニ代フヘシ但シ移出前織物ノ價格ニ依リ之ニ相當

スル税金ヲ納付シ織物ニ税金納付濟ノ證印ヲ受ケタルトキハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テ稅額一錢未満ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第二項ニ依リ印紙ノ貼用 消印及税金納付濟ノ證印ニ關スル方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム (同上改正)

第八條ノ一 消費稅額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ政府ハ三箇月以内ノ期間ヲ以テ毛織物消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第八條ノ二 左ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セスシテ織物ヲ移出ヲ爲スコトヲ得

一 政府ノ承認ヲ得テ他ノ製造場ニ移出シ又ハ貯藏場ニ藏置スル爲織物ヲ移出スルトキ

二 政府ノ承認ヲ得テ染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ移出スルトキ

三 賃織場ヨリ賃織依頼者ニ織物ヲ引渡ストキ

四 一定ノ場所ニ於テ消費稅ヲ納付スル爲政府ノ定ムタル條件ニ從ヒ織物ヲ移出スルトキ

五 輸出ノ目的ヲ以テ製造セル特殊ノ織物ニシテ製造場ニ於テ政府ノ免稅證印ヲ受ケタルトキ

先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條ノ三 消費稅ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル毛織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費稅ノ徵收ヲ爲リス (同上改正)

第九條 第八條ノ二ノ場合ノ外製造場稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ毛織物ノ價格ヲ評定ス

毛織物引取人前項ノ評定價格ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

界議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル價格ト第二項ノ評定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

第十條 第六條又ハ第八條ノ一第八條ノ二第八條ノ三ニ該當スル場合ノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物又ハ石油ヲ引取ルトコトヲ得ス